

令和5年度

大阪市内の農地・農業に
関するアンケート

報告書

令和5年12月

大阪市経済戦略局産業振興部産業振興課

目次

1. 調査の概要	
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の実施状況	1
(3) 調査項目	2
(4) 報告書の見方	3
2. 集計結果	
(1) 市内農業者アンケート	
1) 単純集計	
1 あなたのことについて	4
2 農業後継者について	7
3 現在の農業経営について	10
4 今後の農業経営について	16
2) クロス集計	30
(2) 市民アンケート	
1) 単純集計	
1 あなたのことについて	52
2 大阪市内の農地の役割について	57
3 「エコ農産物」について	60
4 「大阪市なにわの伝統野菜」について	63
5 市内に農地があることについて	67
2) クロス集計	75
(参考) アンケート調査票	
(1) 市内農業者アンケート	100
(2) 市民アンケート	105

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

大阪市では、平成 30 年 6 月に「大阪市都市農業振興基本計画（以下「基本計画」という。）」を策定し、担い手の確保と土地の確保を基本方針として、農業施策に取り組んでいます。

基本計画は令和 10 年度までの計画ですが、5 年ごとに計画の見直しを行うこととしており、令和 5 年度がその見直しの時期となります。

そこで基本計画の見直しにあたり、現状や課題等を示す最新の基礎データを把握するための調査・分析を実施するものです。

(2) 調査の実施状況

1) 市内農業者アンケート

1. 調査期間：令和 5 年 10 月 20 日（金）～11 月 10 日（金）
2. 調査方法：郵送
3. 対象者：大阪市内農家 875 世帯
4. 回答世帯数：532 世帯
5. 回答率：60.8%

■年齢別 性別回答世帯数（単位：世帯）

項目	男性	女性	その他	回答しない	無回答	回答世帯数
合計	432	84	5	9	2	532
30 歳未満	1	0	0	0	0	1
30 歳代	1	0	0	0	0	1
40 歳代	13	0	0	0	0	13
50 歳代	43	2	0	0	0	45
60 歳代	127	15	0	3	0	145
70 歳代	159	25	2	3	1	190
80 歳以上	88	42	2	2	0	134
無回答	0	0	1	1	1	3

2) 市民アンケート

1. 調査期間：令和5年10月20日（金）～11月10日（金）
2. 調査方法：郵送
3. 対象者：大阪市内在住 1,001 名（18 歳以上の市民から無作為に抽出）
4. 回答者数：271 人
5. 回答率：27.1%

■年齢別 性別回答者数（単位：人）

項目	男性	女性	その他	回答しない	回答者数
合計	131	138	0	2	271
30 歳未満	18	13	0	0	31
30 歳代	14	11	0	1	26
40 歳代	18	23	0	0	41
50 歳代	20	24	0	0	44
60 歳代	28	27	0	1	56
70 歳代	23	26	0	0	49
80 歳以上	10	14	0	0	24

（3）調査項目

1) 市内農業者アンケート

1. 年代	12. 今後の農業経営についての考え
2. 性別	13. 経営規模を拡大する方法についての考え
3. 居住している区	14. 経営規模を縮小するに際しての農地の管理
4. 農業後継者の有無	15. 規模縮小する理由（自由回答）
5. 後継者の耕作状況	16. 農業経営をやめたい理由
6. 後継者の現在の職種	17. 今後、農業を発展・継続させていく上で検討していること
7. 市内で栽培・販売している農作物	18. 今後、農業を発展・継続させていく上で課題となっていること
8. 農家形態	19. 今後、農業を発展・継続させていく上で大阪市に期待すること
9. 年間の市内産農作物等販売高	
10. 休耕農地の有無	
11. 休耕農地の解消についての考え	

2) 市民アンケート

1. 年代	11. 「大阪市なにわの伝統野菜」を 購入した理由
2. 性別	12. 「大阪市なにわの伝統野菜」を 購入したことがない理由
3. 居住している区	13. 市内に農地がある場合のメリット
4. 地域の農地有無	14. 市内に農地がある場合のデメリット
5. 大阪における農地の役割の重要度	15. 市内農地での農業体験
6. 「エコ農産物」の購入頻度	16. 市内農地の必要性
7. 「エコ農産物」を購入した理由	17. 市内の農業や農地についての意見 (自由回答)
8. 「エコ農産物」を購入したことがない理由	
9. 「大阪市なにわの伝統野菜」の認知度	
10. 「大阪市なにわの伝統野菜」の購入頻度	

(4) 報告書の見方

1. 集計表の数表は、上段が件数で下段が割合（単位：％）を示します。
2. 集計結果の割合はすべて小数点第2位を四捨五入しているため、構成比の合計が100.0%にならないことがあります。
3. 複数回答が可能な設問の場合、選択肢の合計が100.0%を超えることがあります。
4. 図表中の「n 数」はその質問に対する回答件数を表します。

2. 集計結果

(1) 市内農業者アンケート

1) 単純集計

1 あなたのことについて

1. 年代

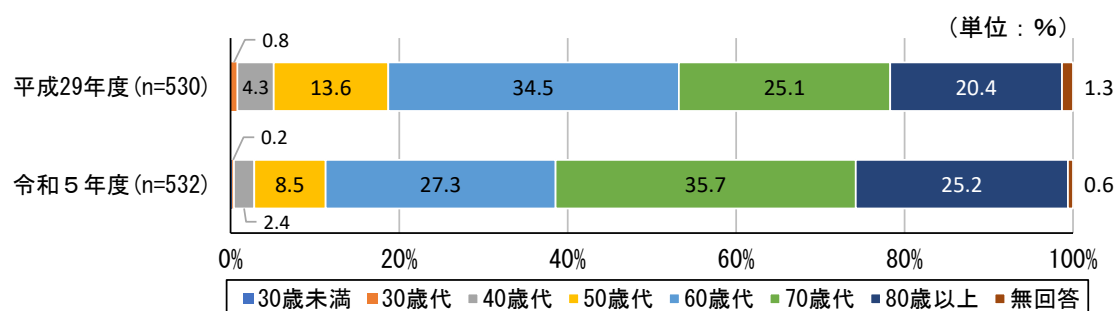
1. 主たる従事者の年齢は何歳代ですか。(塗りつぶしは1つだけ)

- | | |
|----------|----------|
| ① 30 歳未満 | ⑤ 60 歳代 |
| ② 30 歳代 | ⑥ 70 歳代 |
| ③ 40 歳代 | ⑦ 80 歳以上 |
| ④ 50 歳代 | |

年代についてみると、「70 歳代」が 35.7%と最も高く、次いで 60 歳代が 27.3%、80 歳以上の順となっています。

前回の結果と比較すると、「70 歳代」は平成 29 年度が 25.1%に対し、令和 5 年度は 35.7%と 10.6 ポイント高くなっています。

■年代



項目	回答者数(人)	割合(%)
30 歳未満	1	0.2
30 歳代	1	0.2
40 歳代	13	2.4
50 歳代	45	8.5
60 歳代	145	27.3
70 歳代	190	35.7
80 歳以上	134	25.2
無回答	3	0.6
合計	532	100.0

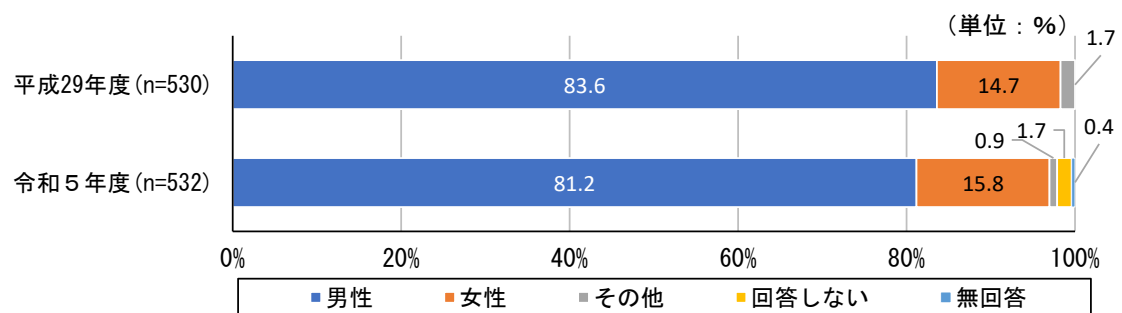
2. 性別

2. 主たる従事者の性別をお教えてください。(塗りつぶしは1つだけ)	
① 男性	② 女性
③ その他	④ 回答しない

性別についてみると、「男性」が81.2%と最も高く、次いで「女性」が15.8%、「その他」が1.7%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「女性」は平成29年度が14.7%に対し、令和5年度は15.8%と1.1ポイント高くなっています。

■性別



項目	回答者数(人)	割合(%)
男性	432	81.2
女性	84	15.8
その他	5	0.9
回答しない	9	1.7
無回答	2	0.4
合計	532	100.0

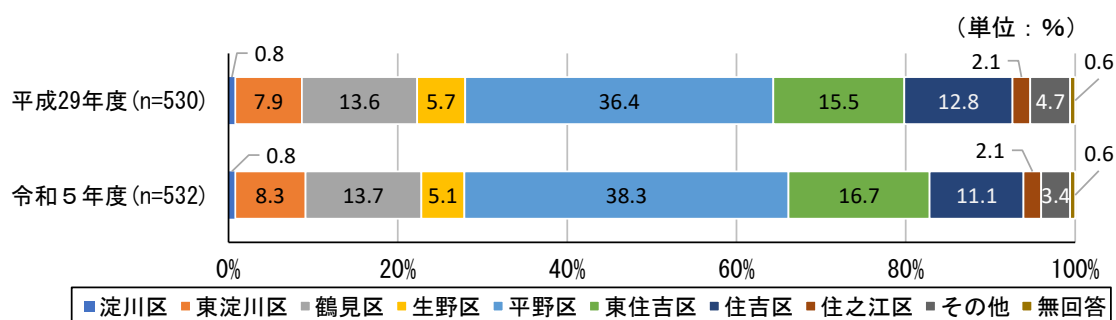
3. 居住している区

3. 主たる従事者のお住まいの区はどこですか。(塗りつぶしは1つだけ)	
① 淀川区	⑥ 東住吉区
② 東淀川区	⑦ 住吉区
③ 鶴見区	⑧ 住之江区
④ 生野区	⑨ その他
⑤ 平野区	(具体的に：)

居住している区についてみると、「平野区」が38.3%と最も高く、次いで「東住吉区」が16.7%、「鶴見区」が13.7%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「平野区」は平成29年度が36.4%に対し、令和5年度は38.3%と1.9ポイント高くなっています。

■居住している区



項目	回答者数(人)	割合(%)
淀川区	4	0.8
東淀川区	44	8.3
鶴見区	73	13.7
生野区	27	5.1
平野区	204	38.3
東住吉区	89	16.7
住吉区	59	11.1
住之江区	11	2.1
その他	18	3.4
無回答	3	0.6
合計	532	100.0

■その他の内訳

- ・城東区 (8件)
- ・東成区 (3件)
- ・阿倍野区 (2件)
- ・旭区
- ・西淀川区
- ・西成区

2 農業後継者について

4. 農業後継者の有無

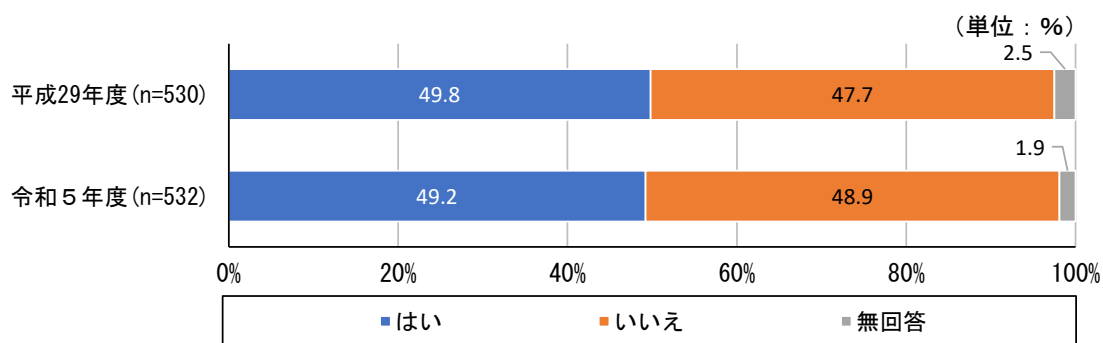
4. 農業後継者はいますか。(塗りつぶしは1つだけ)

- ① はい → 5へお進みください。
 ② いいえ → 7へお進みください。

農業後継者の有無についてみると、「はい」が49.2%、「いいえ」が48.9%となっています。

前回の結果と比較すると、「いいえ」は平成29年度が47.7%に対し、令和5年度は48.9%と1.2ポイント高くなっています。

■ 農業後継者の有無



項目	回答者数(人)	割合(%)
はい	262	49.2
いいえ	260	48.9
無回答	10	1.9
合計	532	100.0

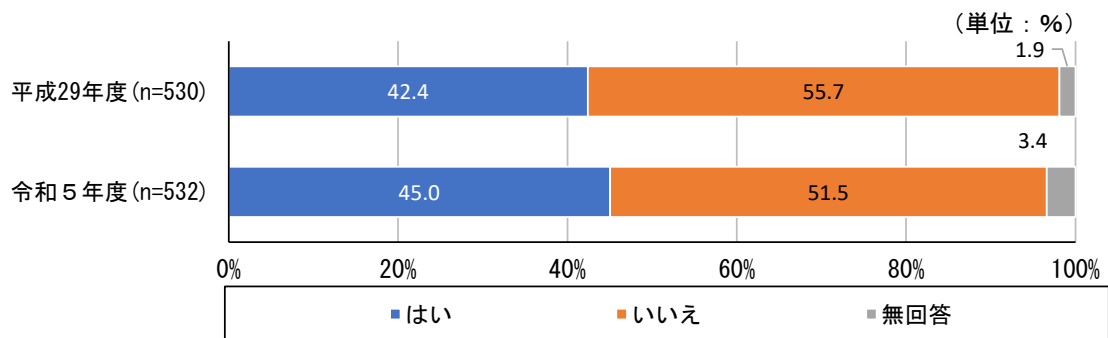
5. 農業後継者の有無

4で「① はい」とお答えの方にお尋ねします。
5. その後継者は、現在耕作をしていますか。(塗りつぶしは1つだけ)
① はい → <u>7へお進み</u> ください。
② いいえ → <u>6へお進み</u> ください。

後継者の耕作状況についてみると、「はい」が45.0%、「いいえ」が51.5%となっています。

前回の結果と比較すると、「はい」は平成29年度が42.4%に対し、令和5年度は45.0%と2.6ポイント高くなっています。

■ 農業後継者の有無



項目	回答者数(人)	割合(%)
はい	118	45.0
いいえ	135	51.5
無回答	9	3.4
合計	262	100.0

3 現在の農業経営について

7. 市内で栽培・販売している農作物(複数回答)

すべての方にお尋ねします。

7. あなたが市内で栽培・販売している農作物は、どのような作物ですか。
(塗りつぶしはいくつでも)

(①～⑤を選択された方は「〇〇a」に耕作面積を数字で記入し、③～⑤まで選択された方は代表作物名をお書き下さい。)(1aは、100㎡です。)

① 米(自作: _____a)

② 米(一部作業を委託: _____a)

③ 野菜(代表作物名: _____・ _____a その他作物: _____a)

④ 果樹(代表作物名: _____・ _____a その他作物: _____a)

⑤ 花き(代表作物名: _____・ _____a その他作物: _____a)

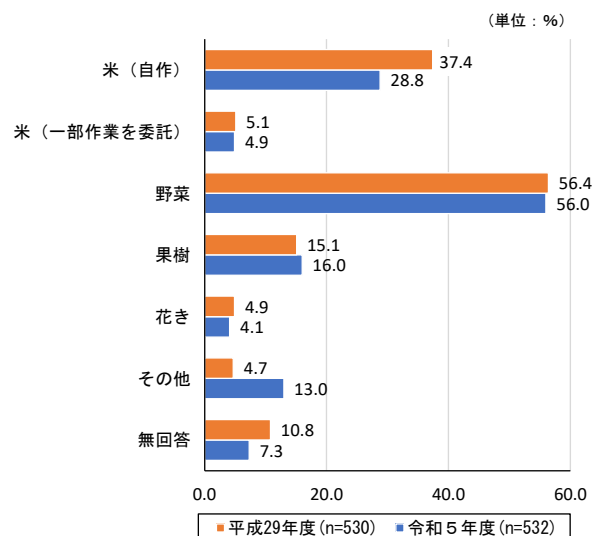
⑥ その他(具体的に: _____)

市内で栽培・販売している農作物についてみると、「野菜」が56.0%と最も高く、次いで「米(自作)」が28.8%、「果樹」が16.0%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「果樹」は平成29年度が15.1%に対し、令和5年度は16.0%と0.9ポイント高くなっています。

■市内で栽培・販売している農作物

項目	回答者数(人)	割合(%)
米(自作)	153	28.8
米(一部作業を委託)	26	4.9
野菜	298	56.0
果樹	85	16.0
花き	22	4.1
その他	69	13.0
無回答	39	7.3
合計	532	100.0



■その他の回答内容(主なもの)

- ・市外に農地があるため（８件）
- ・なし（５件）
- ・耕作していない（４件）
- ・家庭用(自家用)（３件）
- ・未だ栽培していない。畑作りの段階

■代表品目

野菜		果樹	花き
たまねぎ	イチゴ	みかん	菊
ダイコン	長ネギ	柿	パンジー
じゃがいも	難波葱	いちじく	ロウバイ
ネギ	セロリ	レモン	シャクヤク
小松菜	くわい	キウイ	葉ボタン
さつまいも	大阪しろな	ウメ	ストック
えんどう	バターナッツかぼちゃ	キンカン	バーベナ
キャベツ	レタス	いちご	ライラック
ほうれん草	にんじん	温州みかん	マリーゴールド
きゅうり	シソ	甘夏	ハボタン
トマト	ニンニク	八朔	
枝豆	ズッキーニ	ざくろ	
さといも	水菜	すもも	
なす	おかわかめ	桃	
ハクサイ	青ねぎ	デコボン	
ブロッコリー	ミニトマト	ユズ	
白菜	らっかせい	びわ	
田辺大根	ソラマメ	オレンジ	
スイカ	アスパラ		
春菊	黒豆		
とうもろこし	メロン		
なすび	カボチャ		

■耕作面積(単位：a)

	野菜	果樹	花き
合計	6,470.95	604.00	162.91
淀川区	28.00	311.00	108.06
東淀川区	172.36	40.40	1.20
鶴見区	208.68	5.90	－
生野区	564.95	152.00	－
平野区	3,160.22	68.70	1.60
東住吉区	1,404.84	13.50	0.05
住吉区	562.10	－	52.00
住之江区	47.30	1.00	－
その他	322.50	11.50	－

8. 農家形態

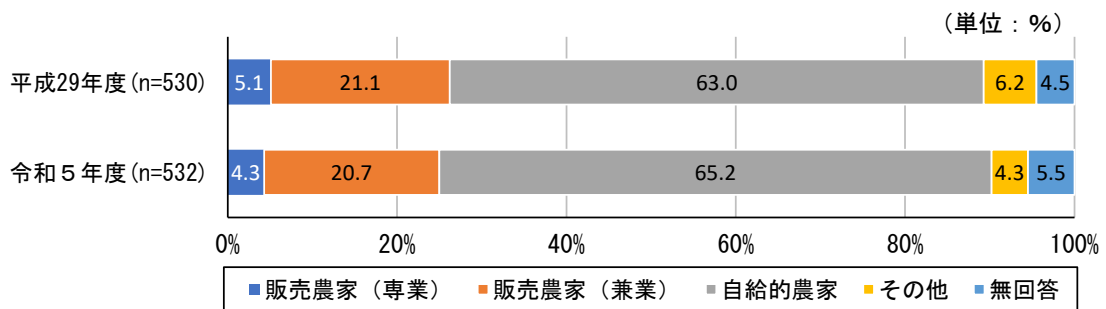
8. あなたの農家形態はどれですか。(塗りつぶしは1つだけ)

- ① 販売農家（専業） ③ 自給的農家
② 販売農家（兼業） ④ その他（具体的に： ）

農家形態についてみると、「自給的農家」が 65.2%と最も高く、次いで「販売農家（兼業）」が 20.7%、「販売的農家（専業）」が 4.3%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「自給的農家」は平成 29 年度が 63.0%に対し、令和 5 年度は 65.2%と 2.2 ポイント高くなっています。

■ 農家形態



項目	回答者 数(人)	割合 (%)
販売農家(専業)	23	4.3
販売農家(兼業)	110	20.7
自給的農家	347	65.2
その他	23	4.3
無回答	29	5.5
合計	532	100.0

■その他の回答内容

- ・貸農園（4件）
- ・家庭菜園（3件）
- ・耕作していない。
- ・企業と賃貸契約
- ・体験農園

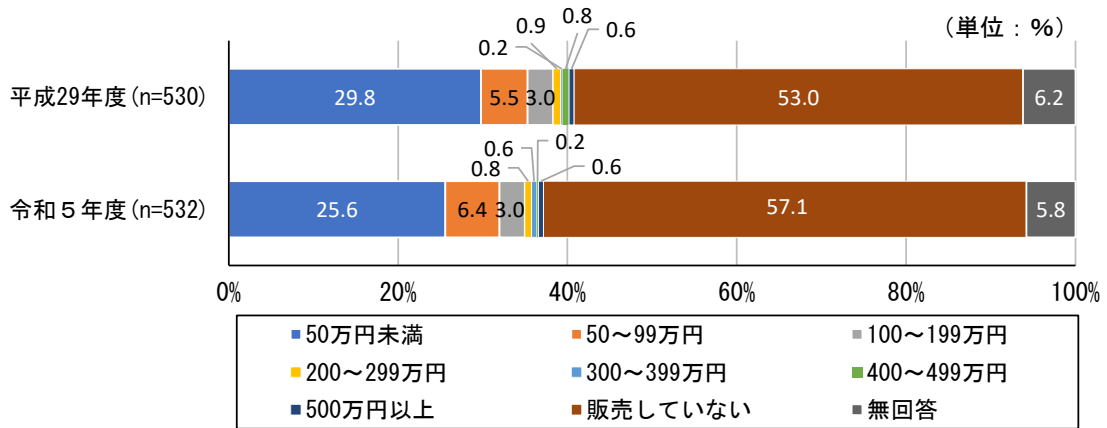
9. 年間の市内産農作物等販売高

9. 年間の市内産農作物等販売高はどのくらいですか。(塗りつぶしは1つだけ)	
① 50 万円未満	⑤ 300～399 万円
② 50～99 万円	⑥ 400～499 万円
③ 100～199 万円	⑦ 500 万円以上 (約 万円)
④ 200～299 万円	⑧ 販売していない

年間の市内産農作物等販売高についてみると、「販売していない」が 57.1%と最も高く、次いで「50 万円未満」が 25.6%、「50～99 万円」が 6.4%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「販売していない」は平成 29 年度が 53.0%に対し、令和 5 年度は 57.1%と 4.1 ポイント高くなっています。

■年間の市内産農作物等販売高



■500 万円以上の内訳

- ・ 520 万円
- ・ 650 万円
- ・ 800 万円

項目	回答者数(人)	割合(%)
50 万円未満	136	25.6
50～99 万円	34	6.4
100～199 万円	16	3.0
200～299 万円	4	0.8
300～399 万円	3	0.6
400～499 万円	1	0.2
500 万円以上	3	0.6
販売していない	304	57.1
無回答	31	5.8
合計	532	100.0

10. 休耕農地の有無

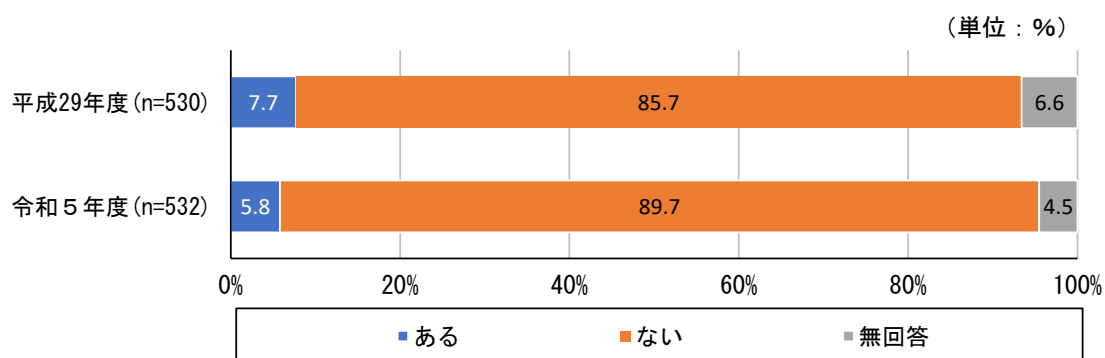
10. 現在、休耕農地はありますか。(塗りつぶしは1つだけ)
「① ある」をお答えの方は、その面積もお書きください。

- ① ある (____a) → 11 へお進みください。
② ない → 12 へお進みください。

休耕農地の有無についてみると、「ある」が5.8%、「ない」が89.7%となっています。

前回の結果と比較すると、「ない」は平成29年度が85.7%に対し、令和5年度は89.7%と4.0ポイント高くなっています。

■休耕農地の有無



項目	回答者数(人)	割合(%)
ある	31	5.8
ない	477	89.7
無回答	24	4.5
合計	532	100.0

(休耕農地面積：1507.2a)

11. 休耕農地の解消についての考え

10で「① ある」とお答えの方にお尋ねします。

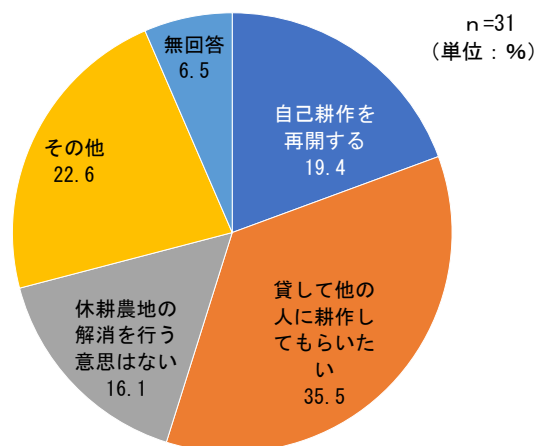
11. 休耕農地の解消について、どのようにお考えですか。(塗りつぶしは1つだけ)

- ① 自己耕作を再開する
- ② 貸して他の人に耕作してもらいたい
- ③ 休耕農地の解消を行う意思はない
- ④ その他（具体的に： _____）

休耕農地の解消についての考えについてみると、「貸して他の人に耕作してもらいたい」が35.5%と最も高く、次いで「自己耕作を再開する」が19.4%、「休耕農地の解消を行う意思はない」が16.1%の順となっています。

■休耕農地の解消についての考え

項目	回答者数(人)	割合(%)
自己耕作を再開する	6	19.4
貸して他の人に耕作してもらいたい	11	35.5
休耕農地の解消を行う意思はない	5	16.1
その他	7	22.6
無回答	2	6.5
合計	31	100.0



※平成29年度は複数回答、令和5年度は単数回答と回答方法が異なるため、年度間比較を行わなかった。

■その他の回答内容

- ・検討中
- ・今は何も考えていない。
- ・どんどん若い人に物を作る楽しさを教え開放する。
- ・宅地

4 今後の農業経営について

12. 今後の農業経営についての考え

すべての方にお尋ねします。

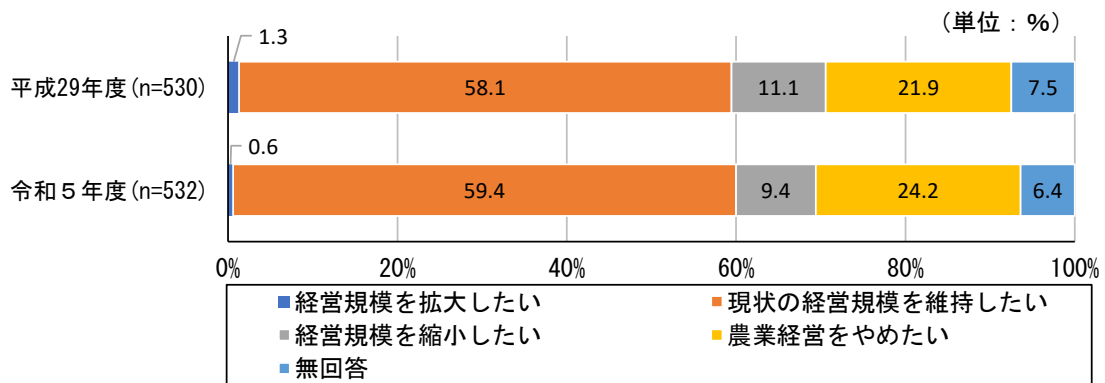
12. 今後の農業経営について、どのように考えていますか。(塗りつぶしは1つだけ)

- ① 経営規模を拡大したい → 13へお進みください。
 ② 現状の経営規模を維持したい → 17へお進みください。
 ③ 経営規模を縮小したい → 14へお進みください。
 ④ 農業経営をやめたい → 16へお進みください。

今後の農業経営についての考えにおいては、「現状の経営規模を維持したい」が59.4%と最も高く、次いで「農業経営をやめたい」が24.2%、「経営規模を縮小したい」が9.4%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「農業経営をやめたい」は平成29年度が21.9%に対し、令和5年度は24.2%と2.3ポイント高くなっています。

■今後の農業経営についての考え



項目	回答者数(人)	割合(%)
経営規模を拡大したい	3	0.6
現状の経営規模を維持したい	316	59.4
経営規模を縮小したい	50	9.4
農業経営をやめたい	129	24.2
無回答	34	6.4
合計	532	100.0

<参考>「経営規模を縮小したい」「農業経営をやめたい」の詳細

・年間販売高

	n 数	50 万円未 満	50 ～99 万円	100 ～199 万円	200 ～299 万円	300 ～399 万円	400 ～499 万円	500 万円以上	販売 してい ない	無回 答
経営規模を縮小したい	50	18	5	3	0	0	0	0	23	1
農業経営をやめたい	129	33	4	1	0	0	0	0	83	8

・農家形態

	n 数	販売農家 (専業)	販売農家 (兼業)	自給的農家	その他	無回 答
経営規模を縮小したい	50	1	20	27	1	1
農業経営をやめたい	129	3	14	89	14	9

・後継者の有無

	n 数	はい	いいえ	無回 答
経営規模を縮小したい	50	23	26	1
農業経営をやめたい	129	32	97	0

13. 経営規模を拡大する方法についての考え

12で「① 経営規模を拡大したい」とお答えの方にお尋ねします。

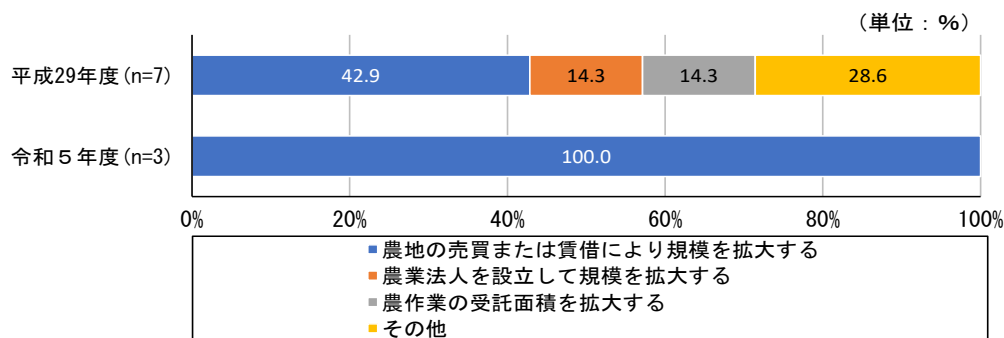
13. 経営規模を拡大する方法について、どのようにお考えですか。
(塗りつぶしは1つだけ)

- ① 農地の売買または賃借により規模を拡大する
- ② 農業法人を設立して規模を拡大する
- ③ 農作業の受託面積を拡大する
- ④ その他（具体的に： _____）

経営規模を拡大する方法についての考えについてみると、「農地の売買または賃借により規模を拡大する」が100.0%となっています。

前回の結果と比較すると、「農地の売買または賃借により規模を拡大する」は平成29年度が42.9%に対し、令和5年度は100.0%と57.1ポイント高くなっています。

■経営規模を拡大する方法についての考え



項目	回答者数(人)	割合(%)
農地の売買または賃借により規模を拡大する	3	100.0
農業法人を設立して規模を拡大する	0	0.0
農作業の受託面積を拡大する	0	0.0
その他	0	0.0
合計	3	100.0

14. 経営規模を縮小するに際しての農地の管理

12で「③ 経営規模を縮小したい」とお答えの方にお尋ねします。

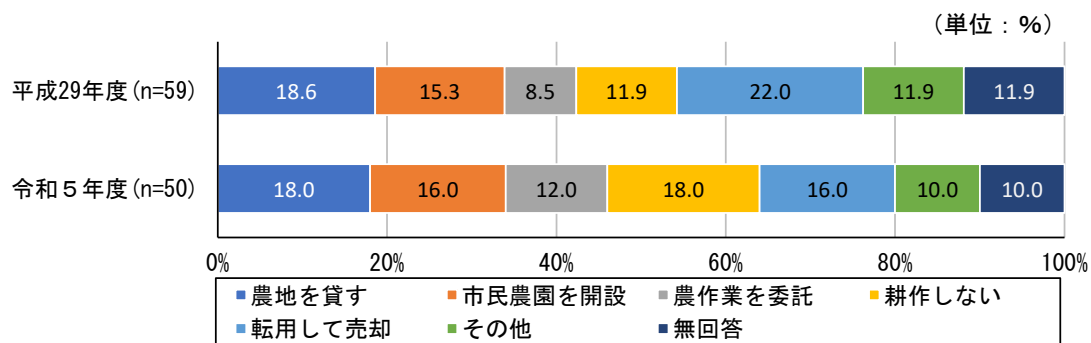
14. 経営規模を縮小するに際して、農地の管理をどうしますか。(塗りつぶしは1つだけ)

- | | |
|-----------|----------|
| ① 農地を貸す | ⑤ 転用して売却 |
| ② 市民農園を開設 | ⑥ その他 |
| ③ 農作業を委託 | (具体的に：) |
| ④ 耕作しない | |

経営規模を縮小するに際しての農地の管理についてみると、「農地を貸す」「耕作しない」が18.0%と最も高く、次いで「市民農園を開設」「転用して売却」が16.0%、「農作業を委託」が12.0%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「耕作しない」は平成29年度が11.9%に対し、令和5年度は18.0%と6.1ポイント高くなっています。

■経営規模を縮小するに際しての農地の管理



項目	回答者数(人)	割合(%)
農地を貸す	9	18.0
市民農園を開設	8	16.0
農作業を委託	6	12.0
耕作しない	9	18.0
転用して売却	8	16.0
その他	5	10.0
無回答	5	10.0
合計	50	100.0

■その他の回答内容

- ・未定(2件)
- ・転用して貸す

15. 経営規模を縮小する理由（自由回答）

経営規模を縮小する理由について、40 件の自由意見をいただきました。
以下に、区分した種類別に主な意見をまとめています。

1 高齢化、体力の低下、健康面など年齢や体力による問題(19 件)

- ・ 高齢になり、現状の広さの農地を管理することに支障が出てくるため
- ・ 病気のため
- ・ 体力の低下
- ・ 健康上の問題
- ・ 身体への負担

2 後継者がいない、従事者が他界など農業に携わる人がいないこと(10 件)

- ・ 自分が高齢になった時、後継者がいないから
- ・ 後継者は現在農業以外の仕事をしており、農業については全く知識がない
- ・ 主人が亡くなり、後継者もいないのでできなくなる
- ・ 主として農業していた人が亡くなり、手伝いは今までもしていたが、やり方が分からな
いし、この夏は暑くて体調不良で生きていくのがやっとだったから

3 農業だけで生計を維持できない、経済的に厳しいなど経済面に関すること(6 件)

- ・ 農作業労働と利益に見合わない為
- ・ 経営維持費が高く、マイナスが多すぎるため。農機具の貸し出しを安くしていただければ維持可能
- ・ 農業で生計を維持できない。転用して売却か、賃貸した方が経済的である
- ・ 収入に対する時間的な効率も含め、悪すぎるため

4 その他(7 件)

- ・ たくさん作るのに、手間がかかるから（種類）
- ・ 田んぼが固まった場所がないのに、場所的に作りにくい田んぼがあり大変である
- ・ 農地を維持するメリットがない

16. 農業経営をやめたい理由（複数回答）

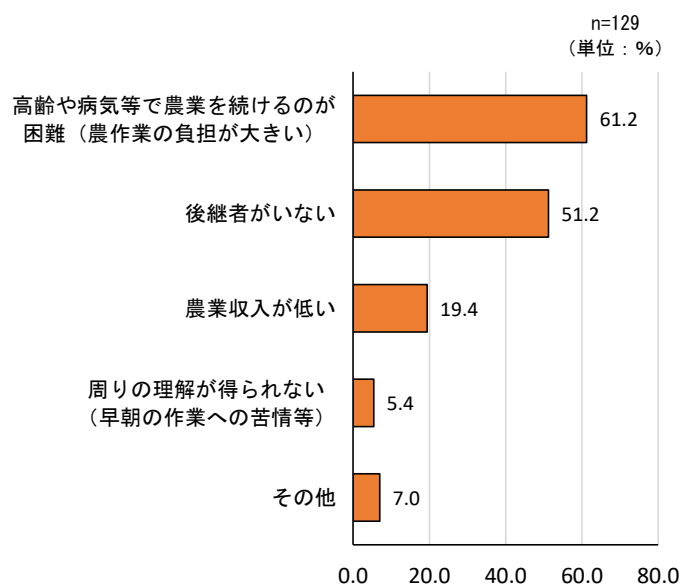
12で「④ 農業経営をやめたい」とお答えの方にお尋ねします。

16. 農業経営をやめたい理由は何ですか。（塗りつぶしはいくつでも）

- ① 高齢や病気等で農業を続けるのが困難（農作業の負担が大きい）
- ② 後継者がいない
- ③ 農業収入が低い
- ④ 周りの理解が得られない（早朝の作業への苦情等）
- ⑤ その他（具体的に

農業経営をやめたい理由についてみると、「高齢や病気等で農業を続けるのが困難（農作業の負担が大きい）」が61.2%と最も高く、次いで「後継者がいない」が51.2%、「農業収入が低い」が19.4%の順となっています。

■農業経営をやめたい理由



項目	回答者数 (人)	割合 (%)
高齢や病気等で農業を続けるのが困難（農作業の負担が大きい）	79	61.2
後継者がいない	66	51.2
農業収入が低い	25	19.4
周りの理解が得られない（早朝の作業への苦情等）	7	5.4
その他	9	7.0
合計	129	100.0

※平成 29 年度設問なしのため、令和 5 年度のみを集計です。

■その他の回答内容

- ・後継者がいない。
- ・田畑の2方面、住宅に囲まれて陽があたらない。
- ・カラスなど食べに来る。虫が多い。
- ・税金が宅地並みに高い。
- ・耕作している時、作物をぬすまれてしまった。やる気を失ってしまった。
- ・農地が遠い。
- ・熱中症が怖い。

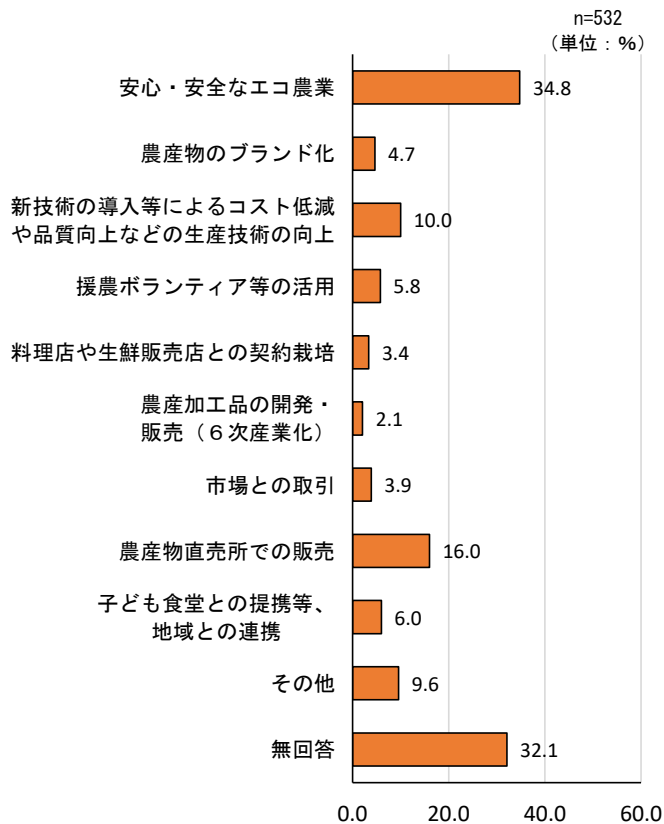
17. 今後、農業を発展・継続させていく上で、検討していること(複数回答)

17. 今後、農業を発展・継続させていく上で、検討していることがあればお教えてください。(塗りつぶしはいくつでも)

- ① 安心・安全なエコ農業
- ② 農産物のブランド化
- ③ 新技術の導入等によるコスト低減や品質向上などの生産技術の向上
- ④ 援農ボランティア等の活用
- ⑤ 料理店や生鮮販売店との契約栽培
- ⑥ 農産加工品の開発・販売（６次産業化）
- ⑦ 市場との取引
- ⑧ 農産物直売所での販売
- ⑨ 子ども食堂との提携等、地域との連携
- ⑩ その他（具体的に： ）

今後、農業を発展・継続させていく上で、検討していることについてみると、「安心・安全なエコ農業」が34.8%と最も高く、次いで「農産物直売所での販売」が16.0%、「新技術の導入等によるコスト低減や品質向上などの生産技術の向上」が10.0%の順となっています。

■今後、農業を発展・継続させていく上で、検討していること



項目	回答者 数(人)	割合 (%)
安心・安全なエコ農業	185	34.8
農産物のブランド化	25	4.7
新技術の導入等によるコスト低減や品質向上などの生産技術の向上	53	10.0
援農ボランティア等の活用	31	5.8
料理店や生鮮販売店との契約栽培	18	3.4
農産加工品の開発・販売（6次産業化）	11	2.1
市場との取引	21	3.9
農産物直売所での販売	85	16.0
子ども食堂との提携等、地域との連携	32	6.0
その他	51	9.6
無回答	171	32.1
合計	532	100.0

※回答総数：683 件

※平成 29 年度は、『今後の農業経営について、どのように考えていますか。』の設問で「経営規模を拡大したい」、「現状の経営規模を維持したい」、「経営規模を縮小したい」の人のみ回答に対し、令和 5 年度は全数回答と回答方法が異なるため、比較を行いませんでした。

■その他の回答内容

- ・自給自足（4 件）
- ・JA に貸農園にするよう依頼している（3 件）
- ・自家用野菜の効率栽培
- ・農家レストランの開設
- ・米と野菜の自給
- ・府内の花壇、公園等での植栽＜府の花弁連との事業＞
- ・市民農園、体験農園への移行

18. 今後、農業を発展・継続させていく上で、課題となっていることについてお教えてください。（塗りつぶしはいくつでも）

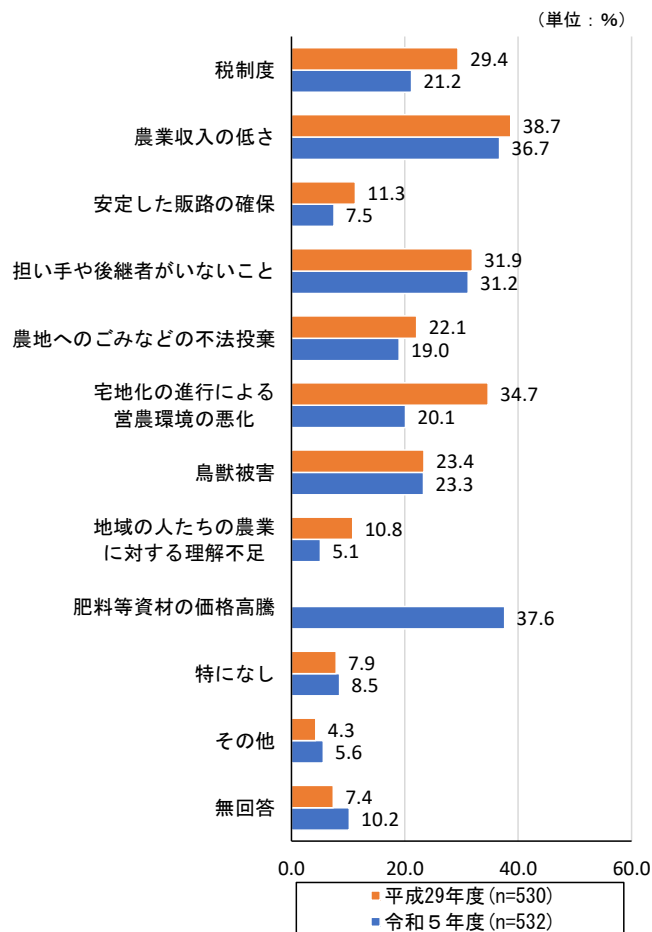
① 税制度
② 農業収入の低さ
③ 安定した販路の確保
④ 担い手や後継者がいないこと
⑤ 農地へのごみなどの不法投棄
⑥ 宅地化の進行による営農環境の悪化
⑦ 鳥獣被害
⑧ 地域の人たちの農業に対する理解不足
⑨ 肥料等資材の価格高騰
⑩ 特になし
⑪ その他（具体的に：

前回の結果と比較すると、「宅地化の進行による営農環境の悪化」は平成 29 年度が 34.7% に対し、令和 5 年度は 20.1%と 14.6 ポイント低くなっています。

項目	回答者数 (人)	割合 (%)
税制度	113	21.2
農業収入の低さ	195	36.7
安定した販路の確保	40	7.5
担い手や後継者がいないこと	166	31.2
農地へのごみなどの不法投棄	101	19.0
宅地化の進行による営農環境の悪化	107	20.1
鳥獣被害	124	23.3
地域の人たちの農業に対する理解不足	27	5.1
肥料等資材の価格高騰	200	37.6

25

■ 今後、農業を発展・継続させていく上で、課題となっていること(複数回答)



■ その他の回答内容

- ・ 農作物を地方に輸送する手段が少ないことと、輸送コストが高いこと
- ・ 代替農地が遠い
- ・ 大気汚染
- ・ 農機具の買い換え
- ・ 営農に伴う事務手続きの煩雑さ。(農薬使用の届出、作業委託時の申込手続き等)
- ・ ハチの激減、稲わら、落葉の安価な提供
- ・ 夏の畑作業の暑さ対策、特に市内は暑い。
- ・ 収穫後の野菜ゴミの処理
- ・ 作物に対する周囲の光害
- ・ 全ての農地で作物を作り、うめる事はオーバーワークとなり身体がもたない。
- ・ 根の深い草、何度除去しても生えてくるので正常な農地は広げられない。
- ・ 農機具購入の経費の税控除→その他収入からの控除
- ・ 時間が足りない
- ・ 天候
- ・ 販路をどうすれば良いのか分からない。販売するための品質基準がわからない。
- ・ 刈り取った雑草の処分に困っている。
- ・ 相続税の制度が悪い。
- ・ 環境(温暖化)

19. 今後、農業を発展・継続させていく上で、大阪市に期待すること(複数回答)

19. 今後、農業を発展・継続させていく上で、大阪市に期待することがあればお教えください。(塗りつぶしはいくつでも)

- ① 担い手の確保にかかる支援
- ② 最先端技術の利用推進
- ③ 農業用施設整備にかかる支援
- ④ 都市農地貸借法等による農地貸借の推進
- ⑤ 6次産業化の推進支援
- ⑥ 食品業者や飲食店との連携強化
- ⑦ 直売所、マルシェ等での農産物販売の促進
- ⑧ 市内産農産物のPRやイベントの開催
- ⑨ 市民農園、体験農園等の拡充
- ⑩ 「農福連携」の推進
- ⑪ その他(具体的に:)

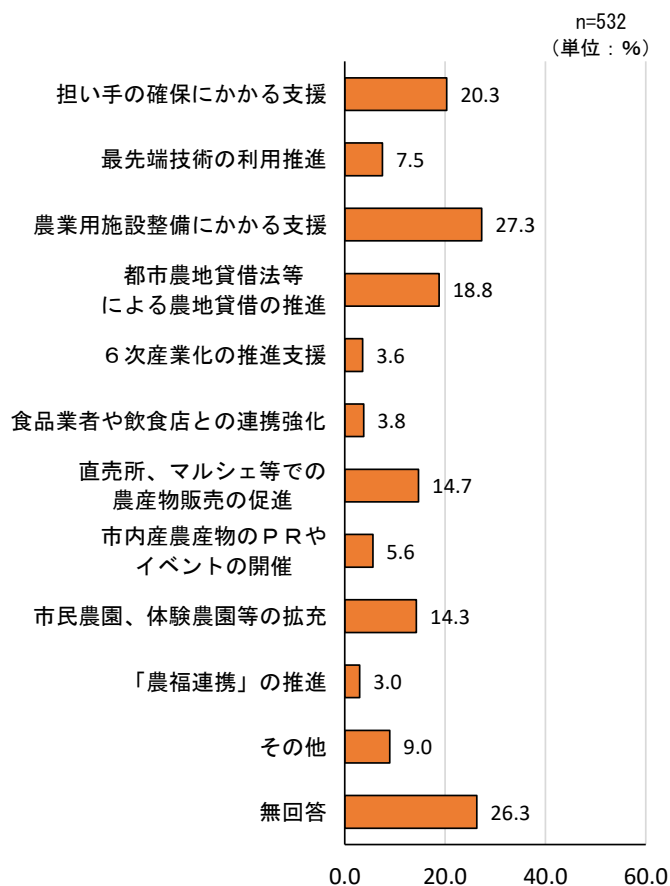
今後、農業を発展・継続させていく上で、大阪市に期待することについてみると、「農業用施設整備にかかる支援」が27.3%と最も高く、次いで「担い手の確保にかかる支援」が20.3%、「都市農地貸借法等による農地貸借の推進」が18.8%の順となっています。

■今後、農業を発展・継続させていく上で、課題となっていること

項目	回答者数(人)	割合(%)
担い手の確保にかかる支援	108	20.3
最先端技術の利用推進	40	7.5
農業用施設整備にかかる支援	145	27.3
都市農地貸借法等による農地貸借の推進	100	18.8
6次産業化の推進支援	19	3.6
食品業者や飲食店との連携強化	20	3.8
直売所、マルシェ等での農産物販売の促進	78	14.7
市内産農産物のPRやイベントの開催	30	5.6
市民農園、体験農園等の拡充	76	14.3
「農福連携」の推進	16	3.0
その他	48	9.0
無回答	140	26.3
合計	532	100.0

※回答総数: 820 件

※平成29年度は設問無しのため、令和5年度のための集計です。



■その他の回答内容（主なもの）

以下に、区分した種類別に回答をまとめました。

1. 税金や補助金に関する意見

- ・固定資産税が高く、継続が困難。税の軽減に期待
- ・このままでは農地がなくなってしまうので相続税の制度を何とかするよう国へ働きかけてほしい。
- ・設備投資への補助
- ・貸農園するにもトイレ、自転車置場を設置しなければならないし、水道代等もかかり、採算がとれないのでできない。なので、市が支援すべきと思います。

2. 動物による被害に関する意見

- ・カラス被害対策
- ・野良ネコやハト、カラス等の駆除についての法改正が必要

3. 生産緑地制度に関する意見

- ・生産緑地が30年間は長すぎる。
- ・生産緑地で生産者が病気ケガ等により耕作が出来なくなった時の不安が大きい。

4. 環境整備に関する意見

- ・地下水の検査をしてほしい。フッ素化合物が問題になっている。

5. ごみ問題に関する意見

- ・農業ゴミの処理の仕方
- ・農地の回りに自転車、電気製品、家具等の大型不法投棄が絶えない。年に2～3回、警察にお願いして撤去してもらっている。

6. 農業施策に関する意見

- ・市営公園など、公共施設との連携

7. その他の意見

- ・アンケート等をWEBで処理できる方が助かる。

2) クロス集計

1. 「居住している区」と「市内で栽培・販売している農作物」

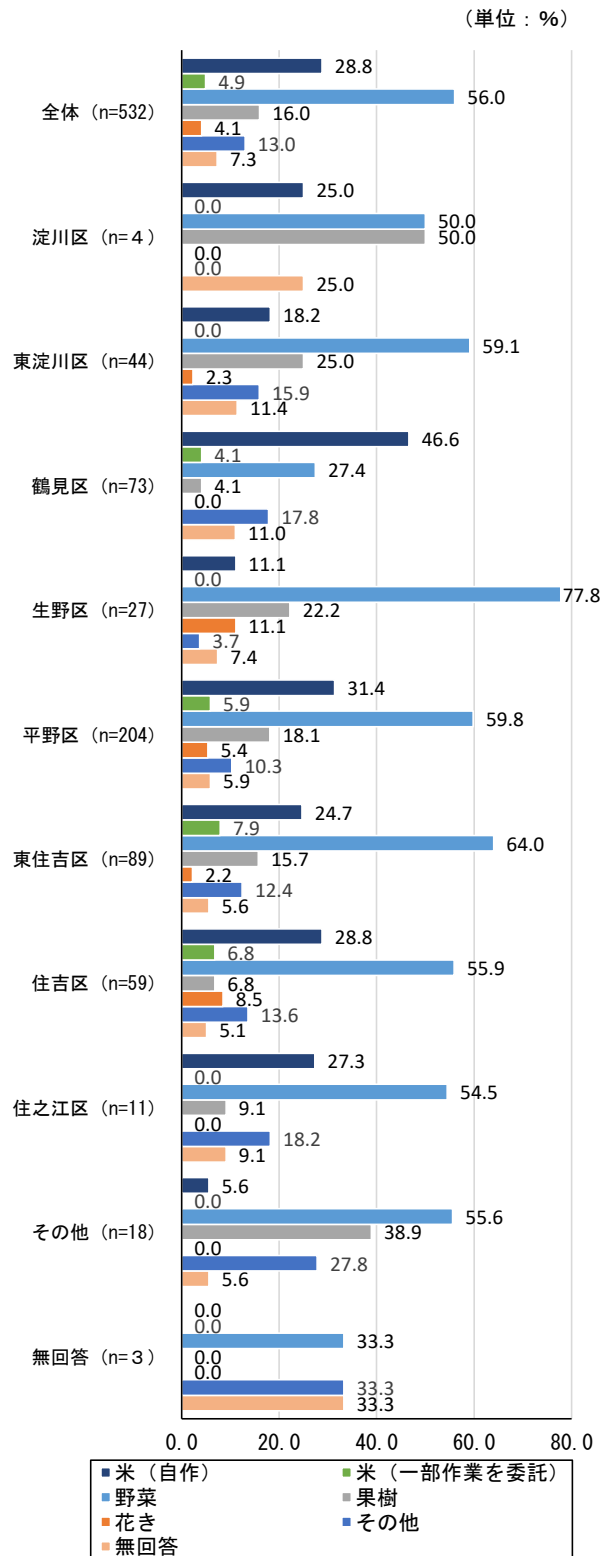
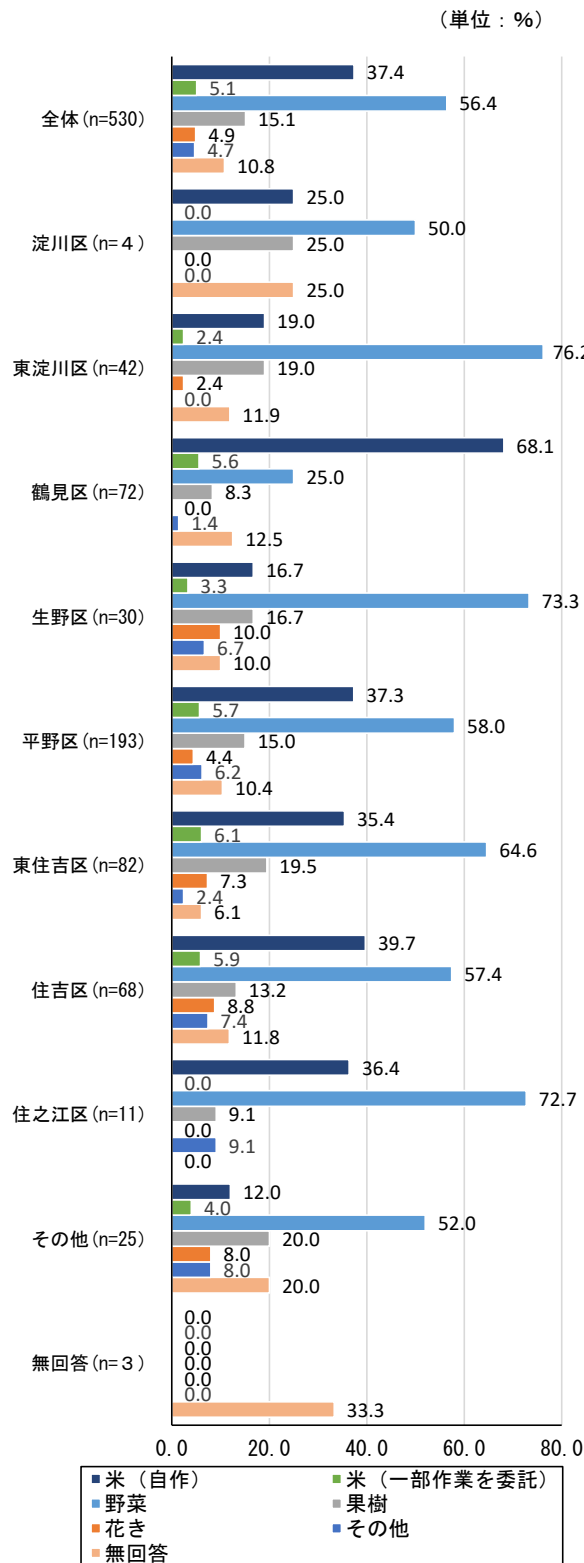
居住している区別の市内で栽培・販売している農作物についてみると、『鶴見区』を除いて「野菜」が最も高くなっています。

前回の結果と比較すると、『生野区』の平成 29 年度が 73.3%、令和 5 年度が 77.8%と 4.5 ポイント高くなっています。

■ 前回の結果との比較

・ 平成 29 年度

・ 令和 5 年度



■ 今回の集計結果

	n 数	米 (自作)	米 (一部作業を委託)	野菜	果樹	花き	その他	無 回 答
全体	532	153	26	298	85	22	69	39
	100.0	28.8	4.9	56.0	16.0	4.1	13.0	7.3
淀川区	4	1	0	2	2	0	0	1
	100.0	25.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	25.0
東淀川区	44	8	0	26	11	1	7	5
	100.0	18.2	0.0	59.1	25.0	2.3	15.9	11.4
鶴見区	73	34	3	20	3	0	13	8
	100.0	46.6	4.1	27.4	4.1	0.0	17.8	11.0
生野区	27	3	0	21	6	3	1	2
	100.0	11.1	0.0	77.8	22.2	11.1	3.7	7.4
平野区	204	64	12	122	37	11	21	12
	100.0	31.4	5.9	59.8	18.1	5.4	10.3	5.9
東住吉区	89	22	7	57	14	2	11	5
	100.0	24.7	7.9	64.0	15.7	2.2	12.4	5.6
住吉区	59	17	4	33	4	5	8	3
	100.0	28.8	6.8	55.9	6.8	8.5	13.6	5.1
住之江区	11	3	0	6	1	0	2	1
	100.0	27.3	0.0	54.5	9.1	0.0	18.2	9.1
その他	18	1	0	10	7	0	5	1
	100.0	5.6	0.0	55.6	38.9	0.0	27.8	5.6
無回答	3	0	0	1	0	0	1	1
	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3

※ は最も多い回答
 は2番目に多い回答

■ 区の市内で米、野菜栽培・販売している面積と野菜の主な品目

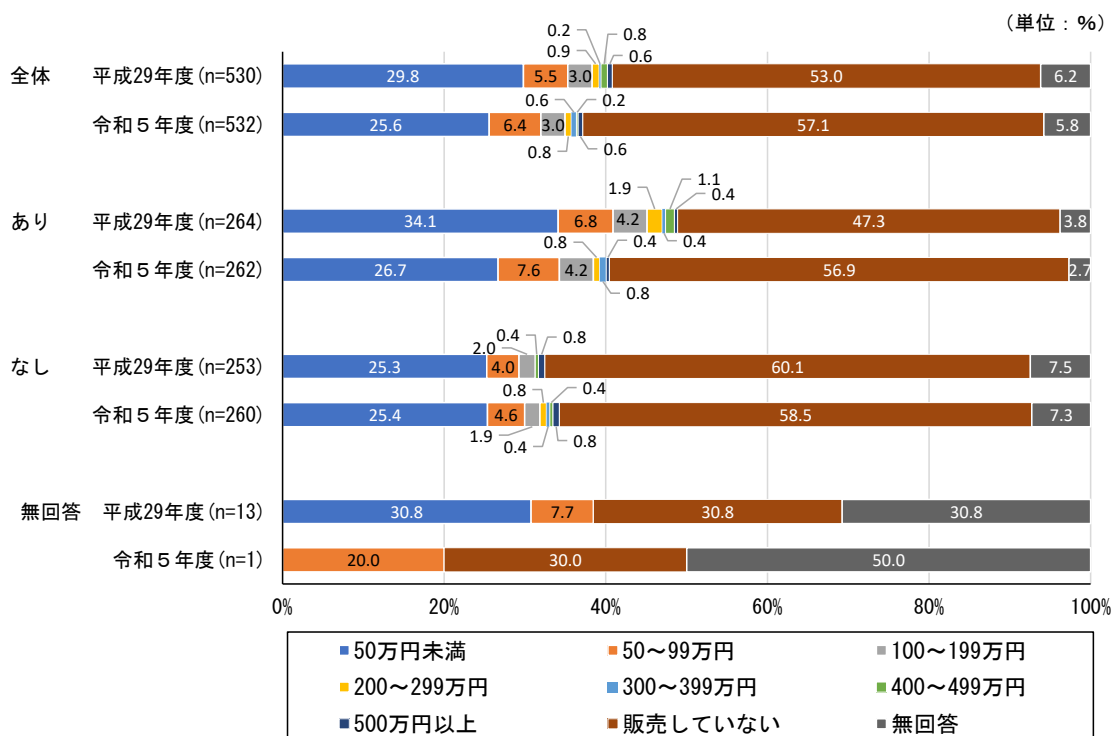
	米(a)	米(一部委託)(a)	野菜(a)	野菜の主な品目
合計	7,378.59	257.08	6,470.95	
淀川区	-	-	28.00	スイカ、ズッキーニ
東淀川区	188.50	-	172.36	玉ねぎ、大根、ブロッコリー、ネギ、白菜、トマト、小松菜
鶴見区	905.63	23.10	208.68	玉ねぎ、大根、ネギ、キャベツ、きゅうり、じゃがいも、トマト、小松菜、えだまめ、サツマイモ
生野区	71.00	-	564.95	玉ねぎ、大根、ネギ、きゅうり、じゃがいも、トマト、小松菜、ホウレンソウ、ナンキン、サツマイモ
平野区	3,919.37	127.08	3,160.22	玉ねぎ、大根、ネギ、ナンキン、きゅうり、じゃがいも、トマト、小松菜、ホウレンソウ、サツマイモ、里芋、エンドウ、なすび、アスパラ
東住吉区	1,985.79	55.90	1,404.84	玉ねぎ、大根、ネギ、トマト、小松菜、ホウレンソウ、ナンキン、サツマイモ、エンドウマメ、枝豆、キャベツ
住吉区	228.30	51.00	562.10	玉ねぎ、大根、ネギ、トマト、小松菜、ホウレンソウ、ナンキン、サツマイモ、エンドウマメ、難波葱、田辺大根、枝豆、ミニトマト、ハクサイ、里イモ
住之江区	40.00	-	47.30	ダイコン、ほうれん草、ネギ、サツマイモ、ジャガイモ
その他	40.00	-	322.50	ネギ、サツマイモ、ジャガイモ、小松菜、ナス、トマト、キュウリ、ソラマメ、玉ねぎ

2. 「農業後継者の有無」と「年間の市内産農作物等販売高」

農業後継者の有無別の年間の市内産農作物等販売高についてみると、後継者の有無に関わらず「販売していない」が最も高く、次いで「50万円未満」となっています。

前回の結果と比較すると、『後継者あり』の「販売していない」は平成29年度が47.3%、令和5年度が56.9%と9.6ポイント高くなっています。

■前回の結果との比較



■今回の集計結果

	n数	50万円未満	50～99万円	100～199万円	200～299万円	300～399万円	400～499万円	500万円以上	販売していない	無回答
全体	532	136	34	16	4	3	1	3	304	31
	100.0	25.6	6.4	3.0	0.8	0.6	0.2	0.6	57.1	5.8
あり	262	70	20	11	2	2	0	1	149	7
	100.0	26.7	7.6	4.2	0.8	0.8	0.0	0.4	56.9	2.7
なし	260	66	12	5	2	1	1	2	152	19
	100.0	25.4	4.6	1.9	0.8	0.4	0.4	0.8	58.5	7.3
無回答	10	0	2	0	0	0	0	0	3	5
	100.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	50.0

※ は最も多い回答

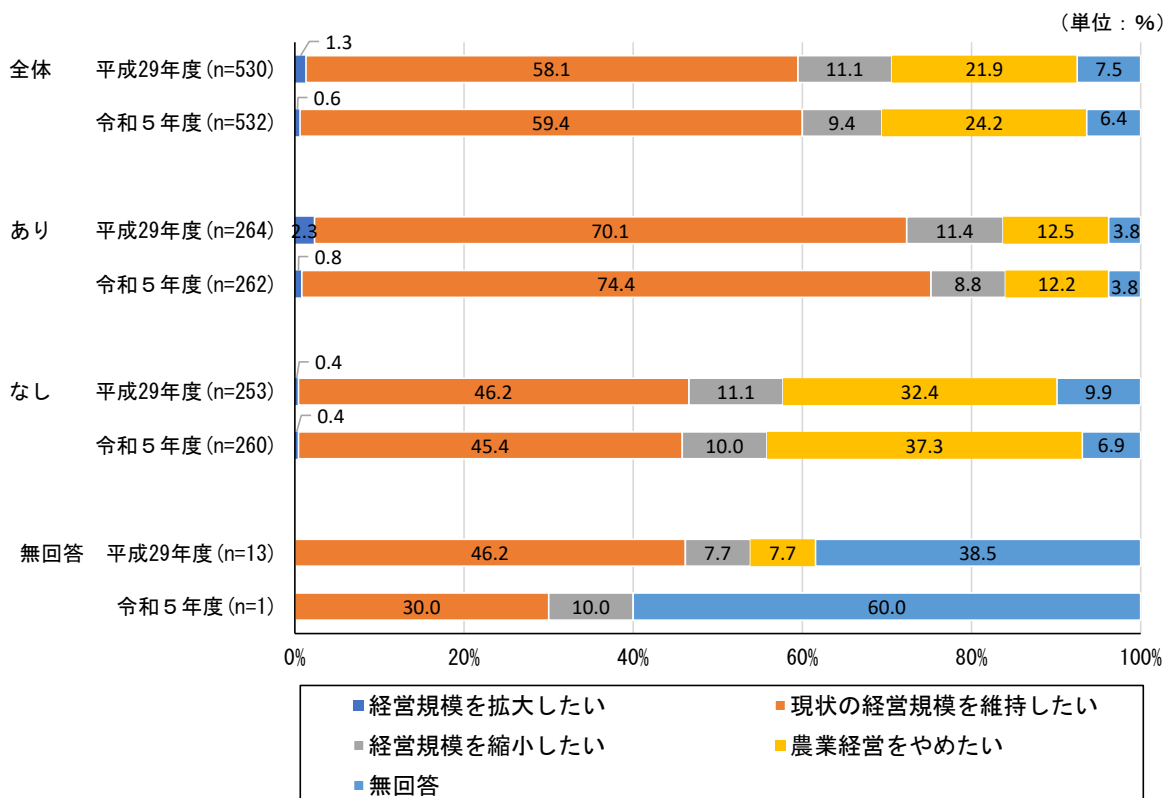
は2番目に多い回答

3. 「農業後継者の有無」と「今後の農業経営についての考え」

農業後継者の有無と今後の農業経営についての考えについてみると、有無にかかわらず「現状の経営規模を維持したい」が最も高く、次いで「農業経営をやめたい」となっています。

前回の結果と比較すると、『後継者あり』の「現状の経営規模を維持したい」は平成29年度が70.1%、令和5年度が74.4%と4.3ポイント高くなっています。

■ 前回の結果との比較



■ 今回の集計結果

	n	経営規模を拡大したい	現状の経営規模を維持したい	経営規模を縮小したい	農業経営をやめたい	無回答
全体	532	3	316	50	129	34
	100.0	0.6	59.4	9.4	24.2	6.4
あり	262	2	195	23	32	10
	100.0	0.8	74.4	8.8	12.2	3.8
なし	260	1	118	26	97	18
	100.0	0.4	45.4	10.0	37.3	6.9
無回答	10	0	3	1	0	6
	100.0	0.0	30.0	10.0	0.0	60.0

※ は最も多い回答

は2番目に多い回答

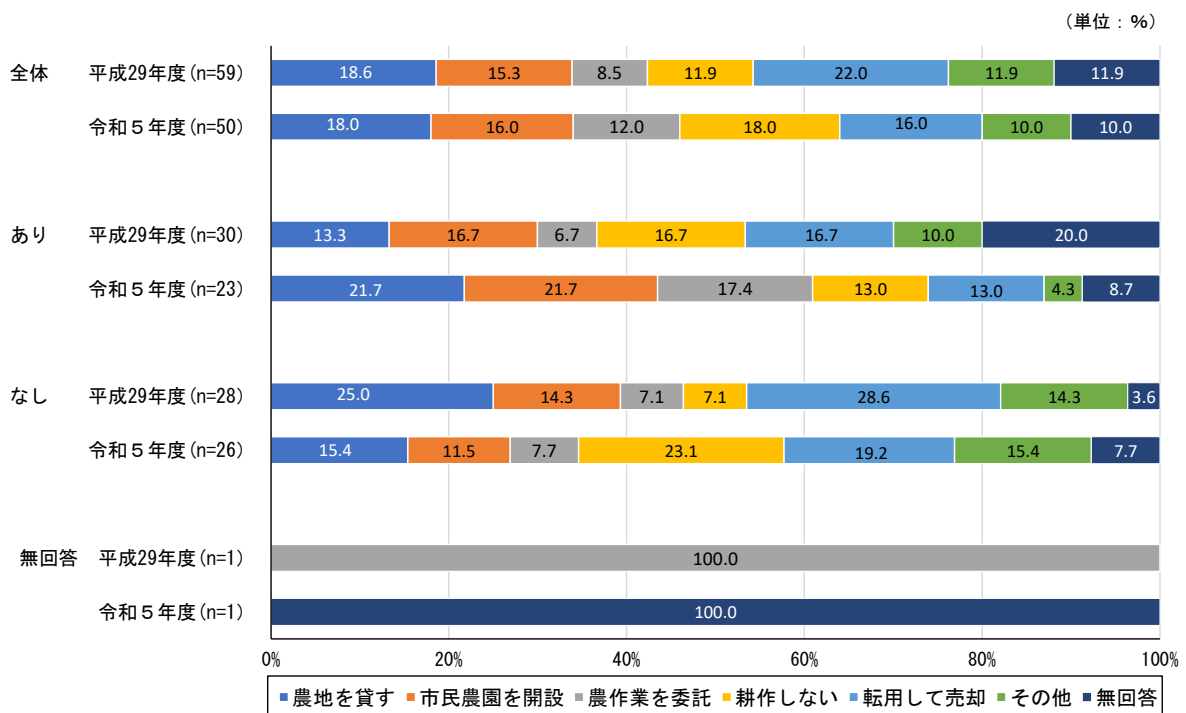
4. 「農業後継者の有無」と「経営規模を縮小するに際しての農地の管理」

農業後継者の有無と経営規模を縮小するに際しての農地の管理についてみると、『後継者あり』は「農地を貸す」「市民農園を開設」、『後継者なし』は「耕作しない」が最も高くなっています。

前回の結果と比較すると、『後継者なし』の「耕作しない」は平成29年度が7.1%、令和5年度が23.1%と16.0ポイント高くなっています。

一方で、『後継者あり』の「農地を貸す」は平成29年度が13.3%、令和5年度が21.7%と8.4ポイント高くなっているほか、『後継者あり』の「市民農園を開設」は平成29年度が16.7%、令和5年度が21.7%と5.0ポイント高くなっています。

■前回の結果との比較



■今回の集計結果

	n数	農地を貸す	市民農園を開設	農作業を委託	耕作しない	転用して売却	その他	無回答
全体	50	9	8	6	9	8	5	5
	100.0	18.0	16.0	12.0	18.0	16.0	10.0	10.0
あり	23	5	5	4	3	3	1	2
	100.0	21.7	21.7	17.4	13.0	13.0	4.3	8.7
なし	26	4	3	2	6	5	4	2
	100.0	15.4	11.5	7.7	23.1	19.2	15.4	7.7
無回答	1	0	0	0	0	0	0	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※ は最も多い回答
 は2番目に多い回答

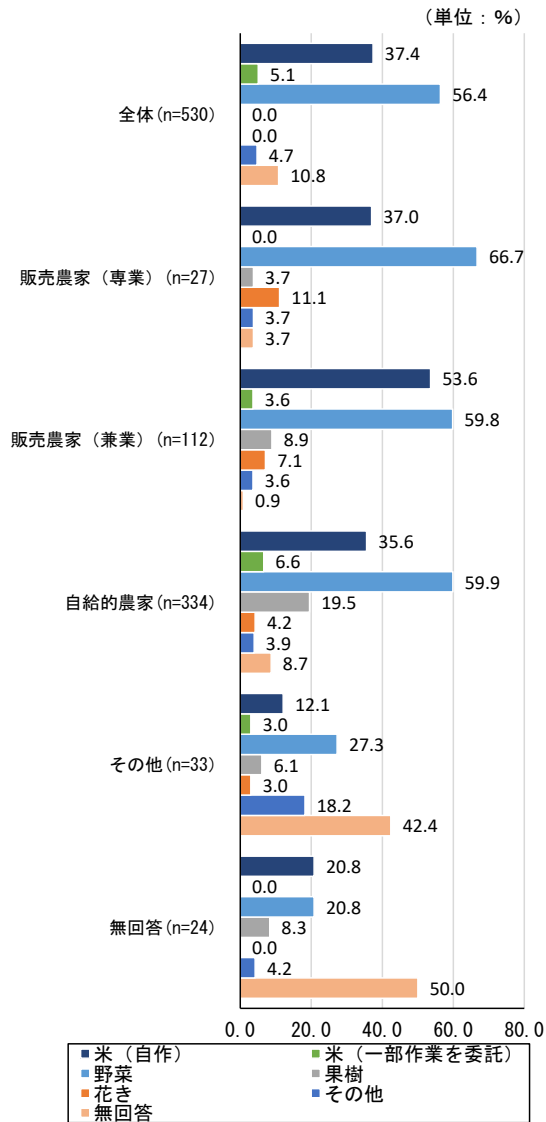
5. 「市内で栽培・販売している農作物」と「農業形態」

市内で栽培・販売している農作物と農業形態についてみると、『その他』を除いた全ての区分において「野菜」が最も高くなっています。

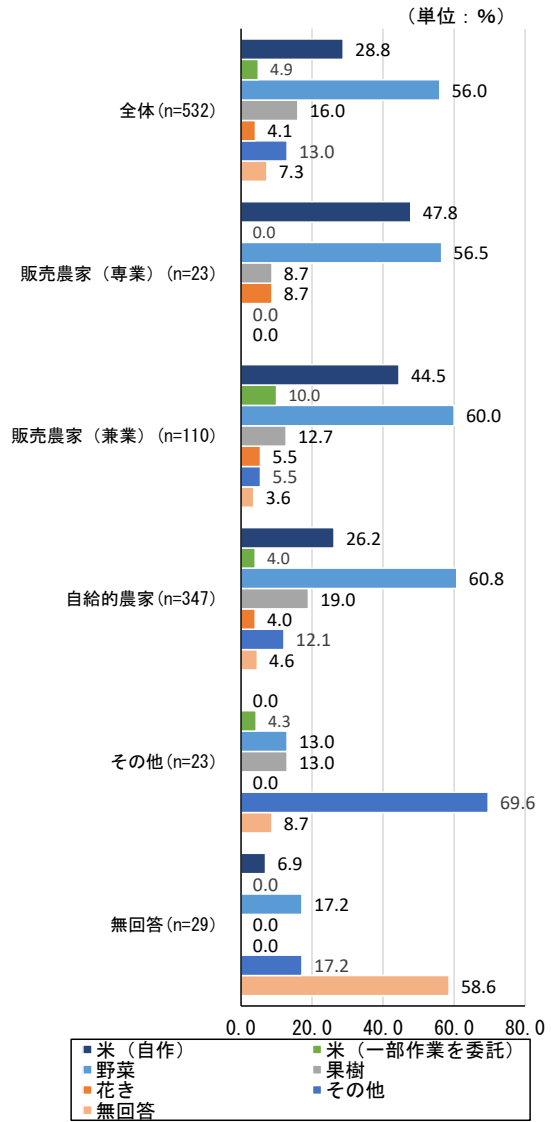
前回の結果と比較すると、『販売農家(専業)』の「野菜」は平成 29 年度が 66.7%、令和 5 年度が 56.5%と 10.2 ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較

・平成 29 年度



・令和 5 年度



■ 今回の集計結果

	n 数	米 (自作)	託 米 (一部作業を委 託)	野 菜	果 樹	花 き	そ の 他	無 回 答
全 体	532 100.0	153 28.8	26 4.9	298 56.0	85 16.0	22 4.1	69 13.0	39 7.3
販売農家（専業）	23 100.0	11 47.8	0 0.0	13 56.5	2 8.7	2 8.7	0 0.0	0 0.0
販売農家（兼業）	110 100.0	49 44.5	11 10.0	66 60.0	14 12.7	6 5.5	6 5.5	4 3.6
自給的農家	347 100.0	91 26.2	14 4.0	211 60.8	66 19.0	14 4.0	42 12.1	16 4.6
その他	23 100.0	0 0.0	1 4.3	3 13.0	3 13.0	0 0.0	16 69.6	2 8.7
無回答	29 100.0	2 6.9	0 0.0	5 17.2	0 0.0	0 0.0	5 17.2	17 58.6

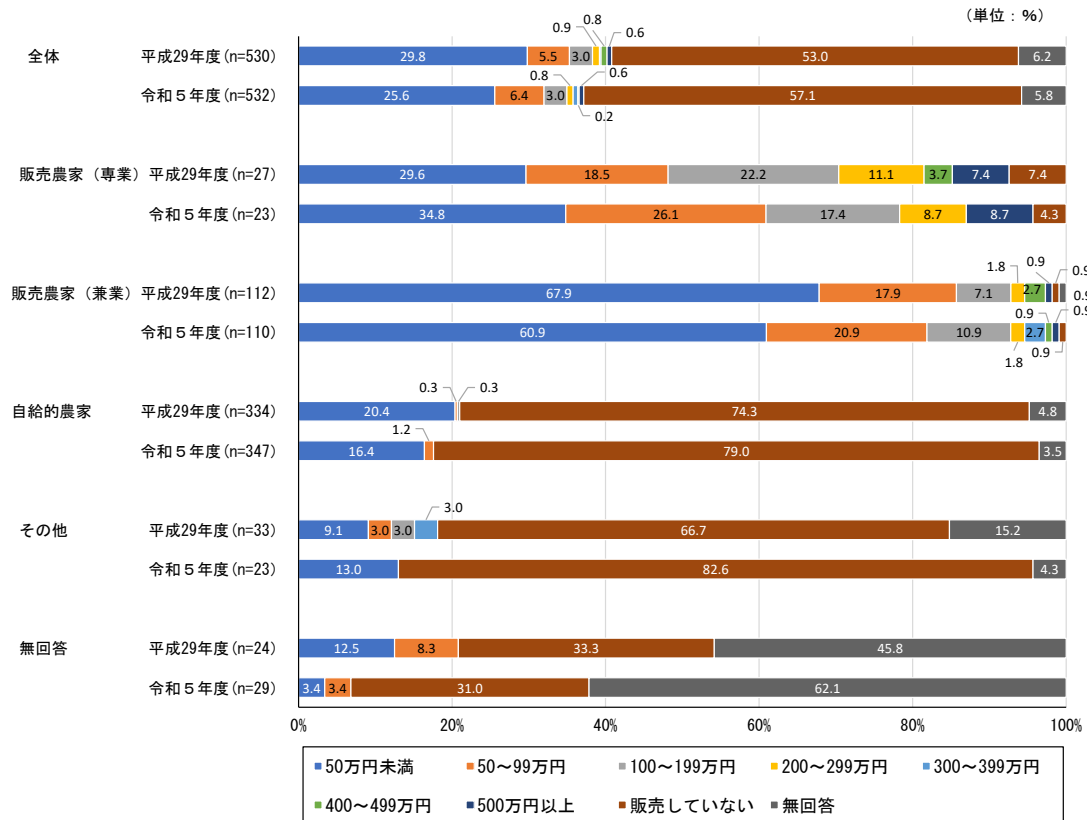
※  は最も多い回答
 は2番目に多い回答

6. 「農家形態」と「年間の市内農産物等販売高」

年間の市内産農作物等販売高と農家形態についてみると、『販売農家』では「50 万円未満」で最も高く、次いで「50～99 万円」となっています。

前回の結果と比較すると、『販売農家(兼業)』の「50 万円未満」は平成 29 年度が 67.9%、令和 5 年度が 60.9%と 7.0 ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較



■ 今回の集計結果

	n	50万円未満	50～99万円	100～199万円	200～299万円	300～399万円	400～499万円	500万円以上	販売していない	無回答
全体	532	136	34	16	4	3	1	3	304	31
	100.0	25.6	6.4	3.0	0.8	0.6	0.2	0.6	57.1	5.8
販売農家（専業）	23	8	6	4	2	0	0	2	1	0
	100.0	34.8	26.1	17.4	8.7	0.0	0.0	8.7	4.3	0.0
販売農家（兼業）	110	67	23	12	2	3	1	1	1	0
	100.0	60.9	20.9	10.9	1.8	2.7	0.9	0.9	0.9	0.0
自給的農家	347	57	4	0	0	0	0	0	274	12
	100.0	16.4	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	79.0	3.5
その他	23	3	0	0	0	0	0	0	19	1
	100.0	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	82.6	4.3
無回答	29	1	1	0	0	0	0	0	9	18
	100.0	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.0	62.1

※ は最も多い回答

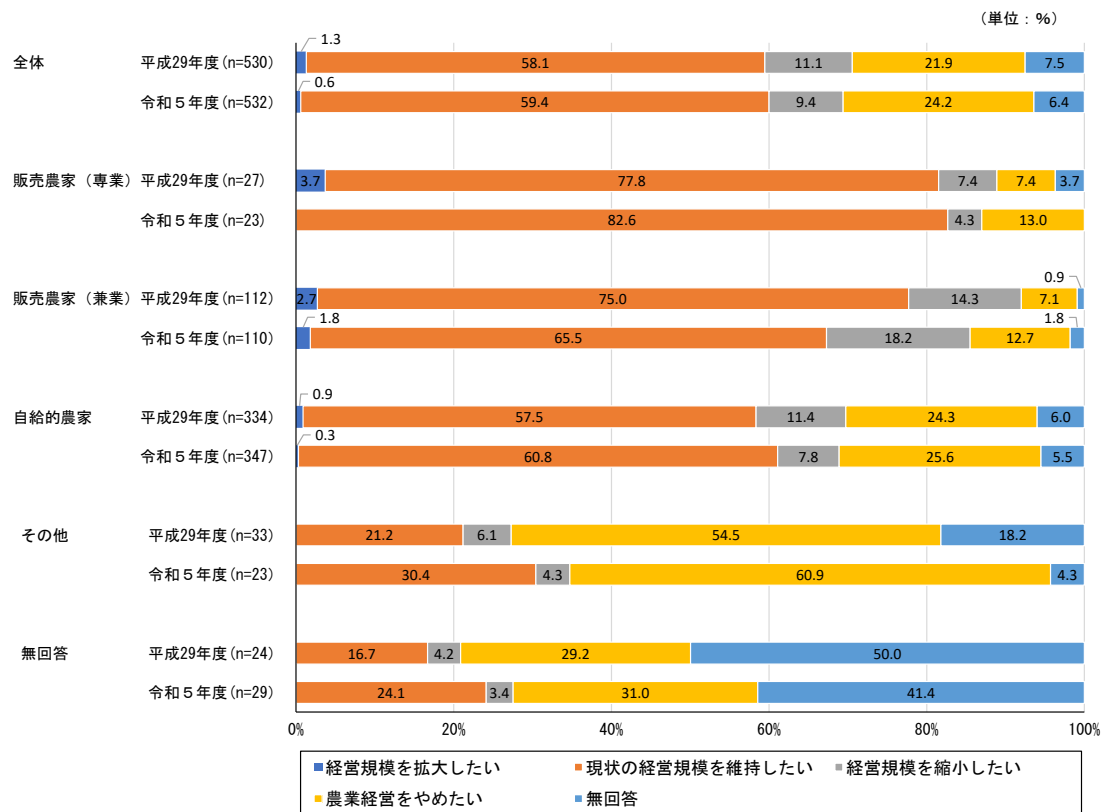
は2番目に多い回答

7. 「農家形態」と「今後の農業経営についての考え方」

農家形態と今後の農業経営についての考えについてみると、『その他』を除いた区分で「現状の経営規模を維持したい」が最も高くなっています。

前回の結果と比較すると、『販売農家（専業）』の「現状の経営規模を維持したい」は平成29年度が77.8%、令和5年度が82.6%と4.8ポイント高くなっています。

■前回の結果との比較



■ 今回の集計結果

	n	経営規模を拡大したい	現状の経営規模を維持したい	経営規模を縮小したい	農業経営をやめたい	無回答
全体	532	3	316	50	129	34
	100.0	0.6	59.4	9.4	24.2	6.4
販売農家（専業）	23	0	19	1	3	0
	100.0	0.0	82.6	4.3	13.0	0.0
販売農家（兼業）	110	2	72	20	14	2
	100.0	1.8	65.5	18.2	12.7	1.8
自給的農家	347	1	211	27	89	19
	100.0	0.3	60.8	7.8	25.6	5.5
その他	23	0	7	1	14	1
	100.0	0.0	30.4	4.3	60.9	4.3
無回答	29	0	7	1	9	12
	100.0	0.0	24.1	3.4	31.0	41.4

※ は最も多い回答

は2番目に多い回答

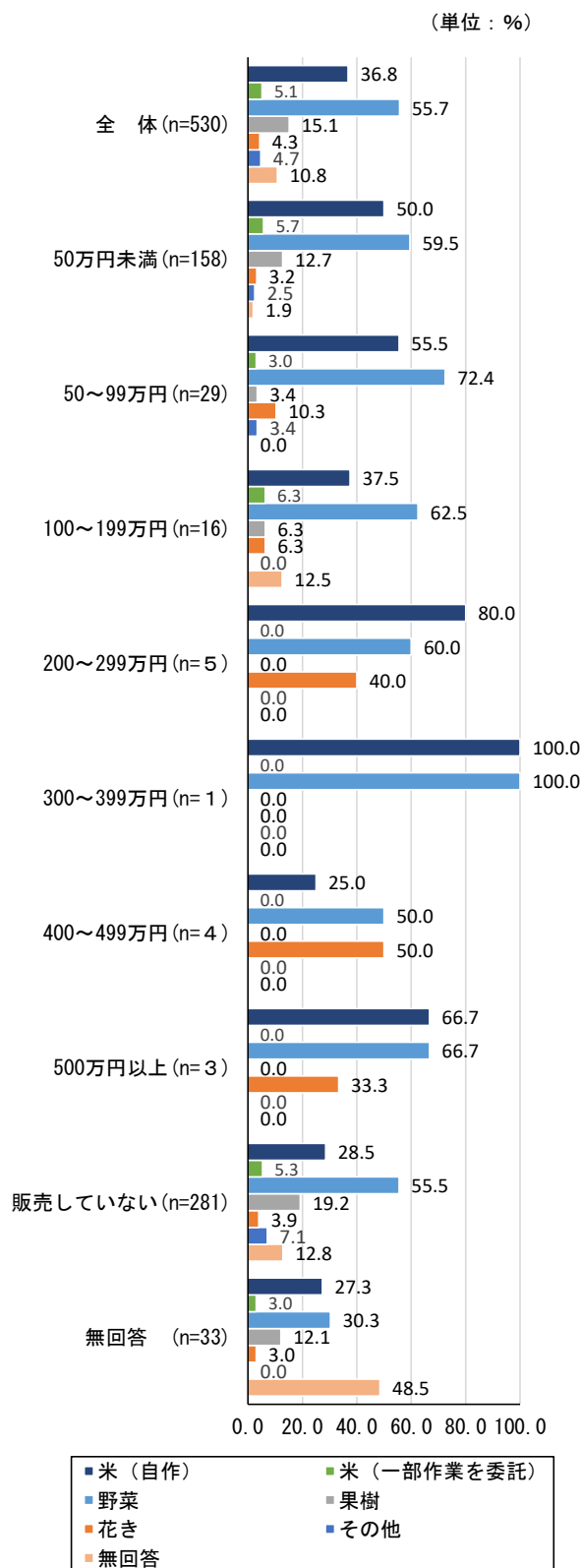
8. 「年間の市内産農作物等販売高」と「市内で栽培・販売している農作物」

市内で栽培・販売している農作物等の年間の販売高別に栽培・販売している農作物の種類についてみると、『399 万円未満』の区分で「野菜」が最も高くなっています。

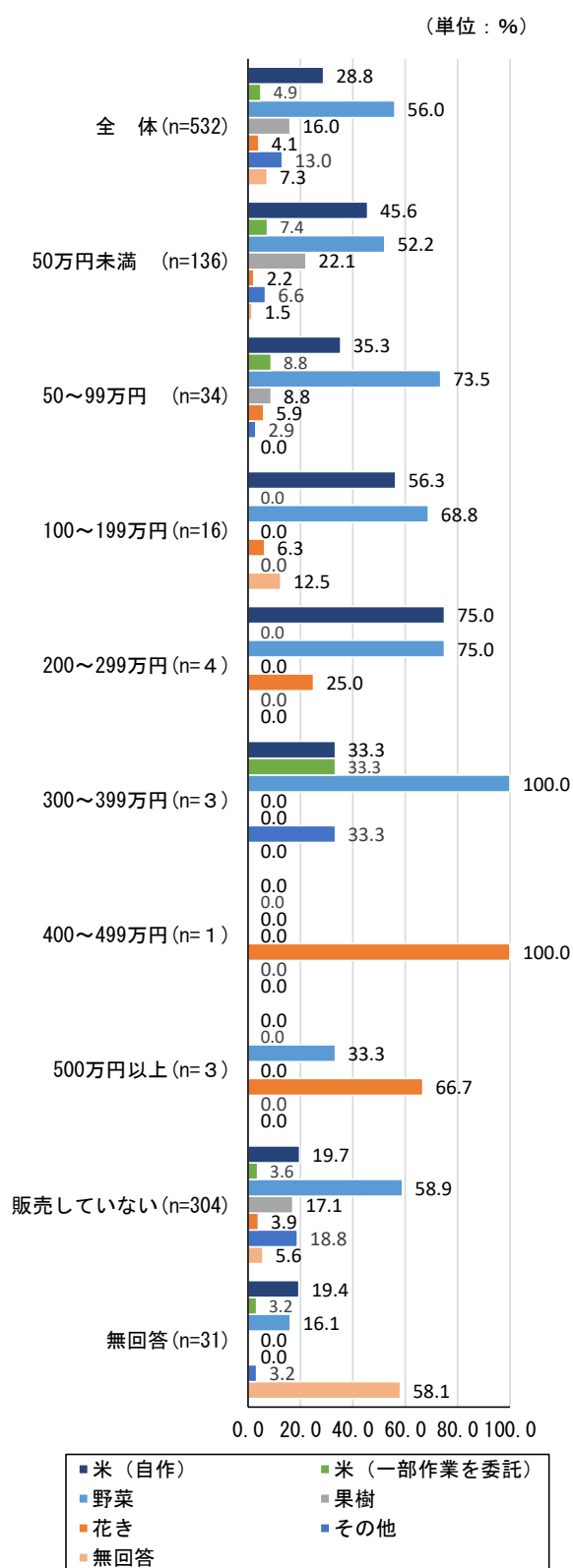
前回の結果と比較すると、『100 万円～199 万円』の「米（自作）」は平成 29 年度が 37.5%、令和 5 年度が 56.3%と 18.8 ポイント高くなっています。

■ 前回の結果との比較

・ 平成 29 年度



・ 令和 5 年度



■ 今回の集計結果

	n 数	米 (自作)	米 (一部作業を委託)	野菜	果樹	花き	その他	無回答
全 体	532 100.0	153 28.8	26 4.9	298 56.0	85 16.0	22 4.1	69 13.0	39 7.3
50万円未満	136 100.0	62 45.6	10 7.4	71 52.2	30 22.1	3 2.2	9 6.6	2 1.5
50～99万円	34 100.0	12 35.3	3 8.8	25 73.5	3 8.8	2 5.9	1 2.9	0 0.0
100～199万円	16 100.0	9 56.3	0 0.0	11 68.8	0 0.0	1 6.3	0 0.0	2 12.5
200～299万円	4 100.0	3 75.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
300～399万円	3 100.0	1 33.3	1 33.3	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
400～499万円	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
500万円以上	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
販売していない	304 100.0	60 19.7	11 3.6	179 58.9	52 17.1	12 3.9	57 18.8	17 5.6
無回答	31 100.0	6 19.4	1 3.2	5 16.1	0 0.0	0 0.0	1 3.2	18 58.1

※  は最も多い回答
 は2番目に多い回答

9. 「年間の市内産農作物等販売高」と「経営規模を拡大する方法」

設問 13「経営規模を拡大する方法」については回答数が非常に少ないことから、前回との比較は行っていません。

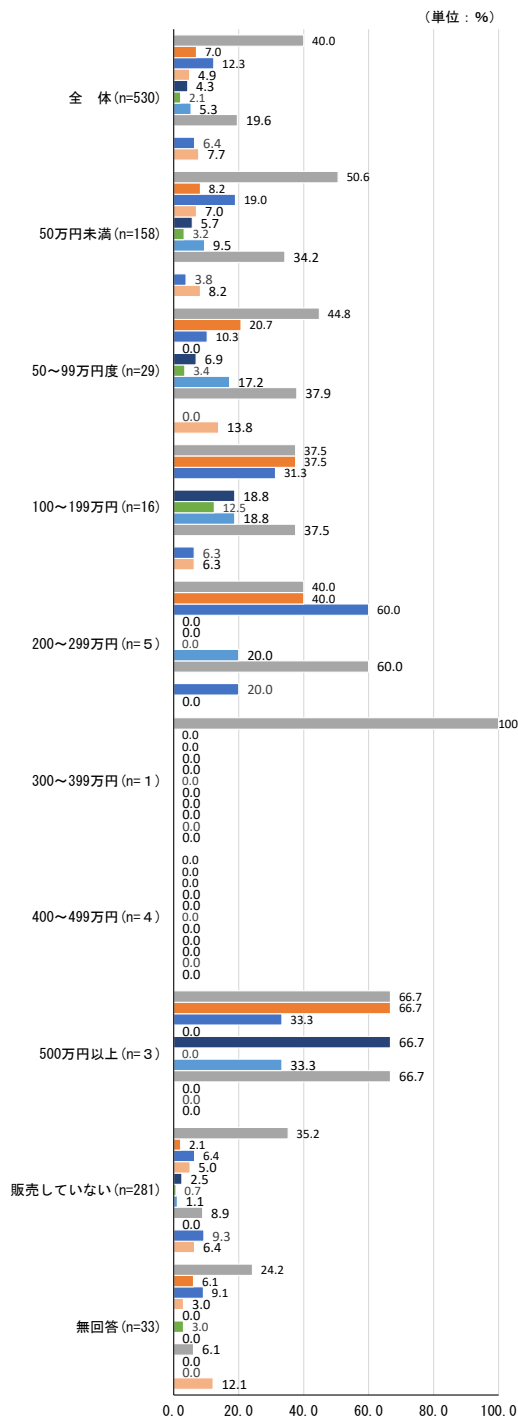
10. 「年間の市内産農作物等販売高」と「今後、農業を発展・継続させていく上で、検討している方策」

年間の市内産農作物等販売高別の今後、農業を発展・継続させていく上で、検討していることについてみると、『50 万円～199 万円』の区分で「農産物直売所での販売」が最も高くなっており、次いで「安心・安全なエコ農業」の順となっています。

前回の結果と比較すると、『50～99 万円』の「農産物直売所での販売」は平成 29 年度が 37.9%、令和 5 年度が 50.0%と 12.1 ポイント高くなっています。

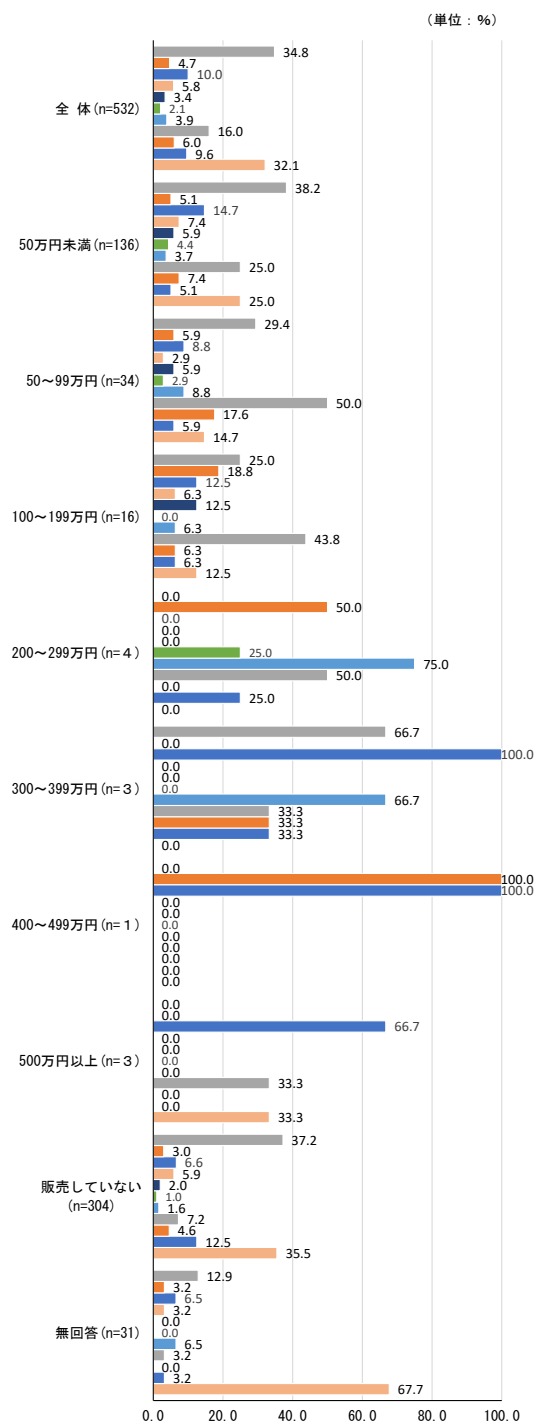
■ 前回の結果との比較

・ 平成 29 年度



- 安心・安全なエコ農業
- 農産物のブランド化
- 新技術の導入等によるコスト低減や品質向上などの生産技術の向上
- 援農ボランティア等の活用
- 料理店や生鮮販売店との契約栽培
- 農産加工品の開発・販売（6次産業化）
- 市場との取引
- 農産物直売所での販売
- 子ども食堂との提携等、地域との連携
- その他
- 無回答

・ 令和 5 年度



- 安心・安全なエコ農業
- 農産物のブランド化
- 新技術の導入等によるコスト低減や品質向上などの生産技術の向上
- 援農ボランティア等の活用
- 料理店や生鮮販売店との契約栽培
- 農産加工品の開発・販売（6次産業化）
- 市場との取引
- 農産物直売所での販売
- 子ども食堂との提携等、地域との連携
- その他
- 無回答

■ 今回の集計結果

	n 数	安心・安全なエコ農業	農産物のブランド化	新技術の導入等によるコスト低減や品質向上などの生産技術の向上	援農ボランティア等の活用	料理店や生鮮販売店との契約栽培	農産加工品の開発・販売（6次産業化）	市場との取引	農産物直売所での販売	子ども食堂との提携等、地域との連携	その他	無回答
全体	532 100.0	185 34.8	25 4.7	53 10.0	31 5.8	18 3.4	11 2.1	21 3.9	85 16.0	32 6.0	51 9.6	171 32.1
50万円未満	136 100.0	52 38.2	7 5.1	20 14.7	10 7.4	8 5.9	6 4.4	5 3.7	34 25.0	10 7.4	7 5.1	34 25.0
50～99万円	34 100.0	10 29.4	2 5.9	3 8.8	1 2.9	2 5.9	1 2.9	3 8.8	17 50.0	6 17.6	2 5.9	5 14.7
100～199万円	16 100.0	4 25.0	3 18.8	2 12.5	1 6.3	2 12.5	0 0.0	1 6.3	7 43.8	1 6.3	1 6.3	2 12.5
200～299万円	4 100.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	3 75.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
300～399万円	3 100.0	2 66.7	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0
400～499万円	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
500万円以上	3 100.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3
販売していない	304 100.0	113 37.2	9 3.0	20 6.6	18 5.9	6 2.0	3 1.0	5 1.6	22 7.2	14 4.6	38 12.5	108 35.5
無回答	31 100.0	4 12.9	1 3.2	2 6.5	1 3.2	0 0.0	0 0.0	2 6.5	1 3.2	0 0.0	1 3.2	21 67.7

※ は最も多い回答

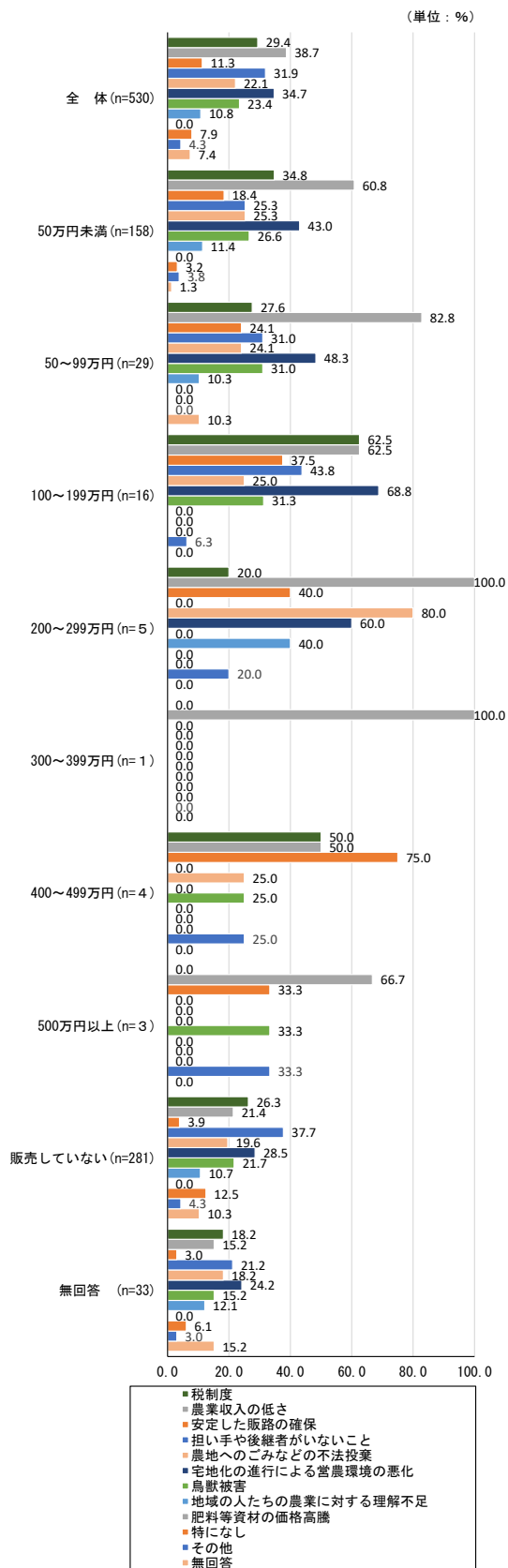
は2番目に多い回答

11. 「年間の市内産農作物等販売高」と「今後、農業を発展・継続させていく上で課題となっていること」

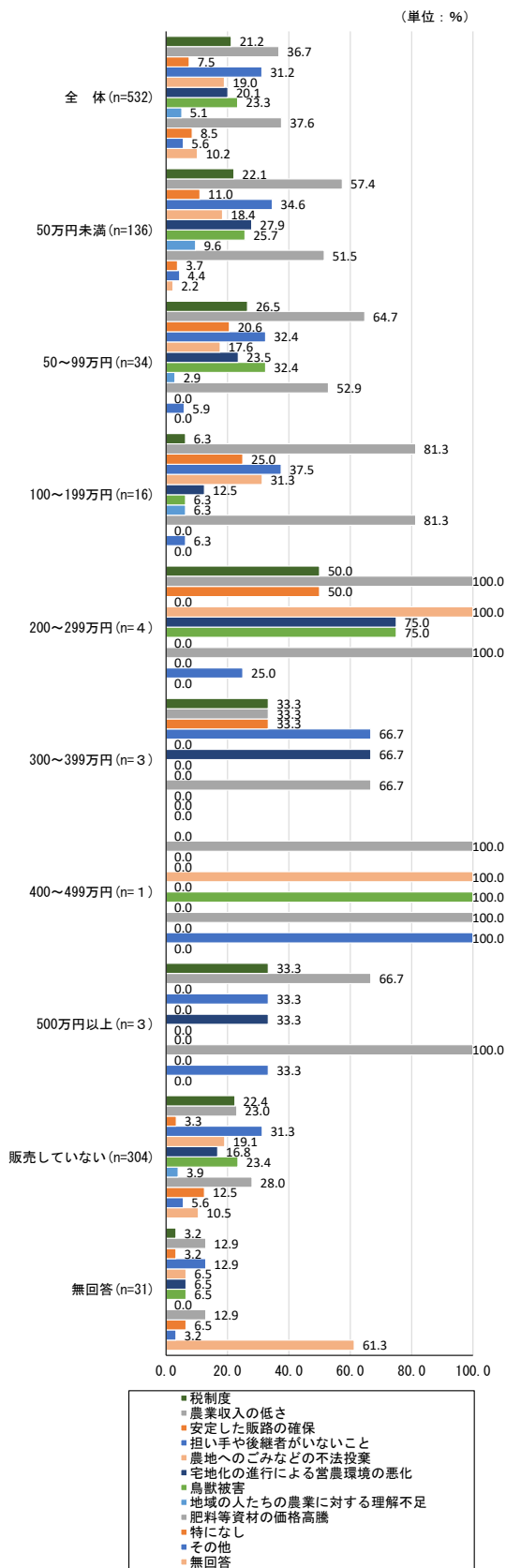
年間の市内産農作物等販売高別の今後、農業を発展・継続させていく上で、課題となっていることについてみると、全体では「肥料等資材の価格高騰」が最も高くなっており、次いで「農業収入の低さ」の順となっています。

■ 前回の結果との比較

・ 平成 29 年度



・ 令和 5 年度



■ 今回の集計結果

	n 数	税 制 度	農 業 収 入 の 低 さ	安 定 し た 販 路 の 確 保	担 い 手 や 後 継 者 が い な い こ と	農 地 へ の ご み な ど の 不 法 投 棄	宅 地 化 の 進 行 に よ る 営 農 環 境 の 悪 化	鳥 獣 被 害	地 域 の 人 た ち の 農 業 に 対 す る 理 解 不 足	肥 料 等 資 材 の 価 格 高 騰	特 に な し	そ の 他	無 回 答
全体	532 100.0	113 21.2	195 36.7	40 7.5	166 31.2	101 19.0	107 20.1	124 23.3	27 5.1	200 37.6	45 8.5	30 5.6	54 10.2
50万円未満	136 100.0	30 22.1	78 57.4	15 11.0	47 34.6	25 18.4	38 27.9	35 25.7	13 9.6	70 51.5	5 3.7	6 4.4	3 2.2
50～99万円	34 100.0	9 26.5	22 64.7	7 20.6	11 32.4	6 17.6	8 23.5	11 32.4	1 2.9	18 52.9	0 0.0	2 5.9	0 0.0
100～199万円	16 100.0	1 6.3	13 81.3	4 25.0	6 37.5	5 31.3	2 12.5	1 6.3	1 6.3	13 81.3	0 0.0	1 6.3	0 0.0
200～299万円	4 100.0	2 50.0	4 100.0	2 50.0	0 0.0	4 100.0	3 75.0	3 75.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
300～399万円	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	2 66.7	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
400～499万円	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
500万円以上	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
販売していない	304 100.0	68 22.4	70 23.0	10 3.3	95 31.3	58 19.1	51 16.8	71 23.4	12 3.9	85 28.0	38 12.5	17 5.6	32 10.5
無回答	31 100.0	1 3.2	4 12.9	1 3.2	4 12.9	2 6.5	2 6.5	2 6.5	0 0.0	4 12.9	2 6.5	1 3.2	19 61.3

※ は最も多い回答

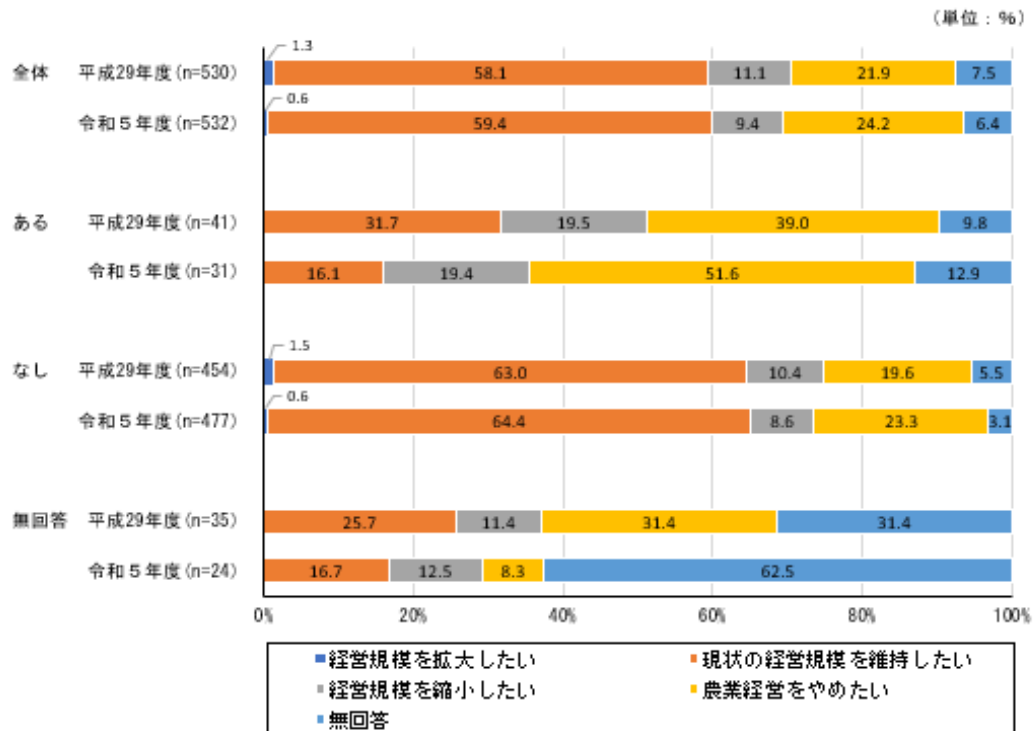
は2番目に多い回答

12. 「休耕農地の有無」と「今後の農業経営について」

休耕農地の有無別の今後の農業経営についての考えについてみると、『ある』の区分で「農業経営をやめたい」が最も高くなっており、次いで「経営規模を縮小したい」の順となっています。

前回の結果と比較すると、『ある』の「農業経営をやめたい」は平成29年度が39.0%、令和5年度が51.6%と12.6ポイント高くなっています。

■前回の結果との比較



■ 今回の集計結果

	n 数	経営 規模 を 拡大 した い	現 状 の 経 営 規 模 を 維 持 す べ き	経 営 規 模 を 縮 小 し た い	農 業 経 営 を や め た い	無 回 答
全体	532	3	316	50	129	34
	100.0	0.6	59.4	9.4	24.2	6.4
ある	31	0	5	6	16	4
	100.0	0.0	16.1	19.4	51.6	12.9
なし	477	3	307	41	111	15
	100.0	0.6	64.4	8.6	23.3	3.1
無回答	24	0	4	3	2	15
	100.0	0.0	16.7	12.5	8.3	62.5

※ ■ は最も多い回答
 ■ は2番目に多い回答

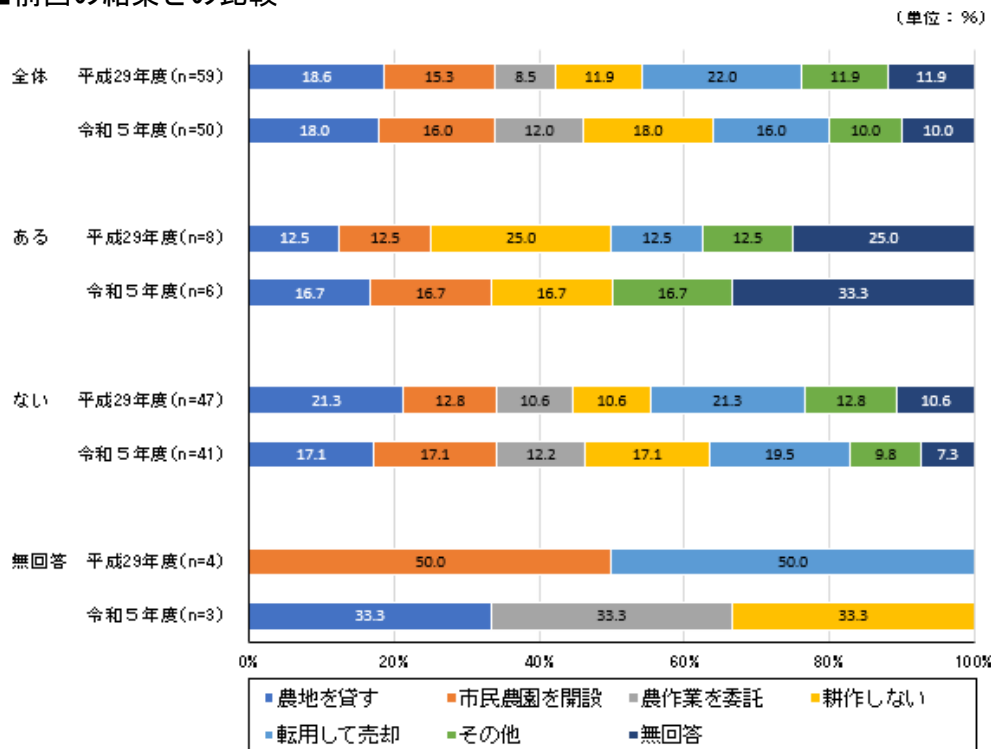
13. 「休耕農地の有無」と「経営規模を縮小するに際しての農地の管理」

休耕農地の有無別の経営規模を縮小するに際しての農地の管理についてみると、『ない』の「転用して売却」が最も高くなっています。

前回の結果と比較すると、『ある』の「転用して売却」は平成29年度が12.5%、令和5年度が0%と12.5ポイント、『ない』の「転用して売却」は平成29年度が21.3%、令和5年度が19.5%と1.8ポイントそれぞれ低くなっています。

一方で、『ある』の「農地を貸す」は平成29年度が12.5%、令和5年度が16.7%と4.2ポイント、「市民農園を開設」は平成29年度が12.5%、令和5年度が16.7%と4.2ポイントそれぞれ高くなっています。

■前回の結果との比較



■ 今回の集計結果

	n	農地を貸す	市民農園を開設	農作業を委託	耕作しない	転用して売却	その他	無回答
全体	50	9	8	6	9	8	5	5
	100.0	18.0	16.0	12.0	18.0	16.0	10.0	10.0
ある	6	1	1	0	1	0	1	2
	100.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	33.3
ない	41	7	7	5	7	8	4	3
	100.0	17.1	17.1	12.2	17.1	19.5	9.8	7.3
無回答	3	1	0	1	1	0	0	0
	100.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

※ は最も多い回答

は2番目に多い回答

(2) 市民アンケート

1) 単純集計

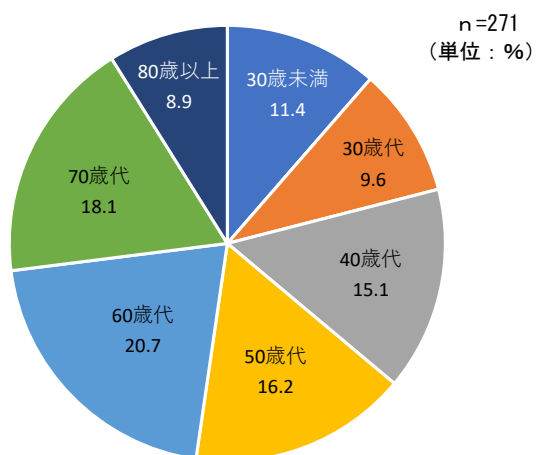
1 あなたのことにについて

1. 年代

1. あなたの年齢は何歳代ですか。(塗りつぶしは1つだけ)

- | | |
|---------|---------|
| ① 30歳未満 | ⑤ 60歳代 |
| ② 30歳代 | ⑥ 70歳代 |
| ③ 40歳代 | ⑦ 80歳以上 |
| ④ 50歳代 | |

■年代

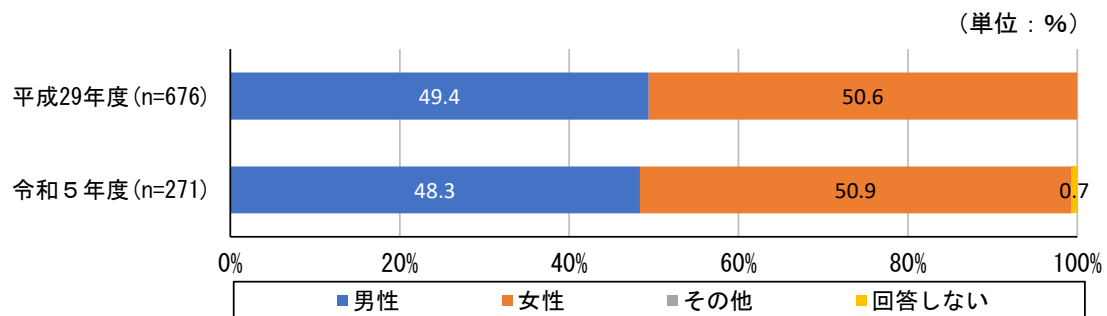


項目	回答者数(人)	割合(%)
30歳未満	31	11.4
30歳代	26	9.6
40歳代	41	15.1
50歳代	44	16.2
60歳代	56	20.7
70歳代	49	18.1
80歳以上	24	8.9
合計	271	100.0

2. 性別

2. あなたの性別をお教えてください。(塗りつぶしは1つだけ)	
① 男性	③ その他
② 女性	④ 回答しない

■性別

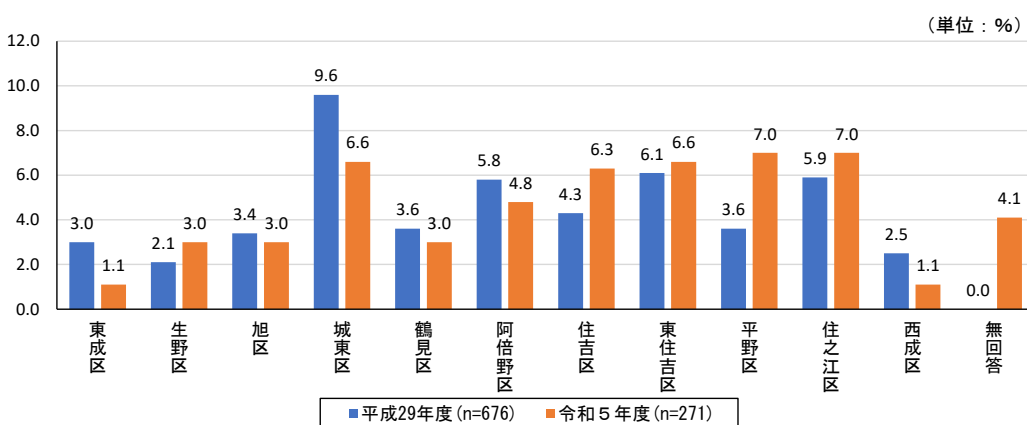
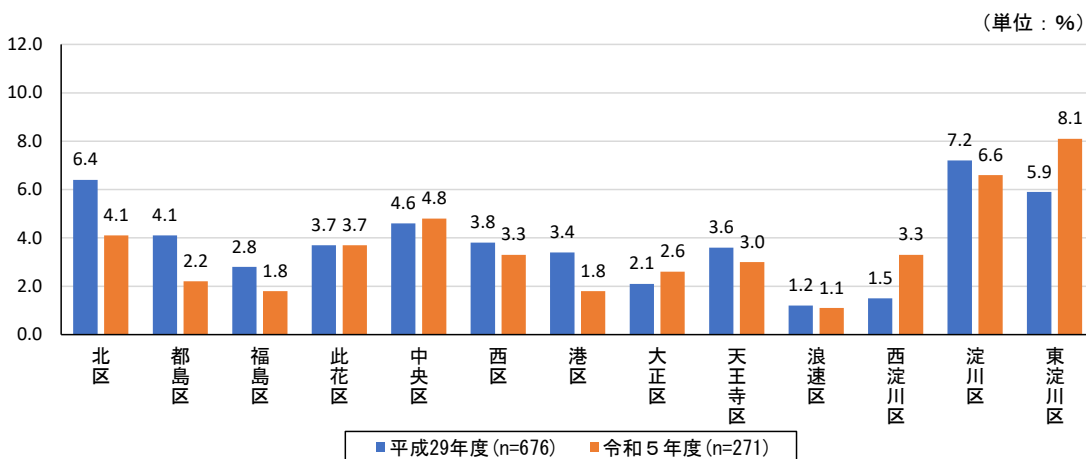


項目	回答者数(人)	割合(%)
男性	131	48.3
女性	138	50.9
その他	0	0.0
回答しない	2	0.7
合計	271	100.0

3. 居住している区

3. あなたのお住まいはどの区ですか。(塗りつぶしは1つだけ)	
① 淀川区	⑥ 東住吉区
② 東淀川区	⑦ 住吉区
③ 鶴見区	⑧ 住之江区
④ 生野区	⑨ その他
⑤ 平野区	(具体的に: _____)

■居住している区



区名	人数(人)	割合(%)
北区	11	4.1
都島区	6	2.2
福島区	5	1.8
此花区	10	3.7
中央区	13	4.8
西区	9	3.3
港区	5	1.8
大正区	7	2.6
天王寺区	8	3.0
浪速区	3	1.1
西淀川区	9	3.3
淀川区	18	6.6
東淀川区	22	8.1
東成区	3	1.1
生野区	8	3.0
旭区	8	3.0
城東区	18	6.6
鶴見区	8	3.0
阿倍野区	13	4.8
住吉区	17	6.3
東住吉区	18	6.6
平野区	19	7.0
住之江区	19	7.0
西成区	3	1.1
無回答	11	4.1
合計	271	100.0

※無回答は、回答なしの無回答と「その他」の無回答との合算です。

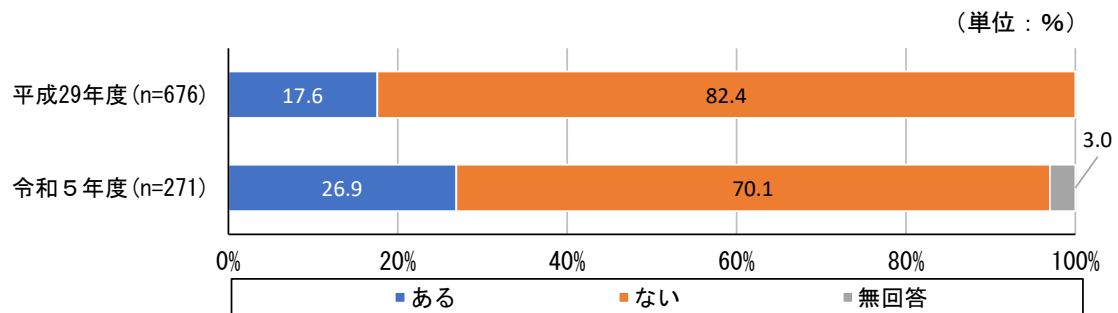
4. 地域の農地の有無

4. あなたのお住まいの地域に農地はありますか。(塗つぶしは1つだけ)	
① ある	② ない

地域の農地の有無についてみると、「ある」が26.9%、「ない」が70.1%と「ない」が7割を超えています。

前回の結果と比較すると、「ある」は平成29年度が17.6%、令和5年度が26.9%と9.3ポイント高くなっています。

■地域の農地の有無



項目	回答者数(人)	割合(%)
ある	73	26.9
ない	190	70.1
無回答	8	3.0
合計	271	100.0

2 大阪市内の農地の役割について

5. 大阪における農地の役割の重要度

5. 次のそれぞれの項目について、大阪市における農地がどのような役割を果たしていると感じますか。（それぞれの項目について、塗りつぶしは1つだけ）

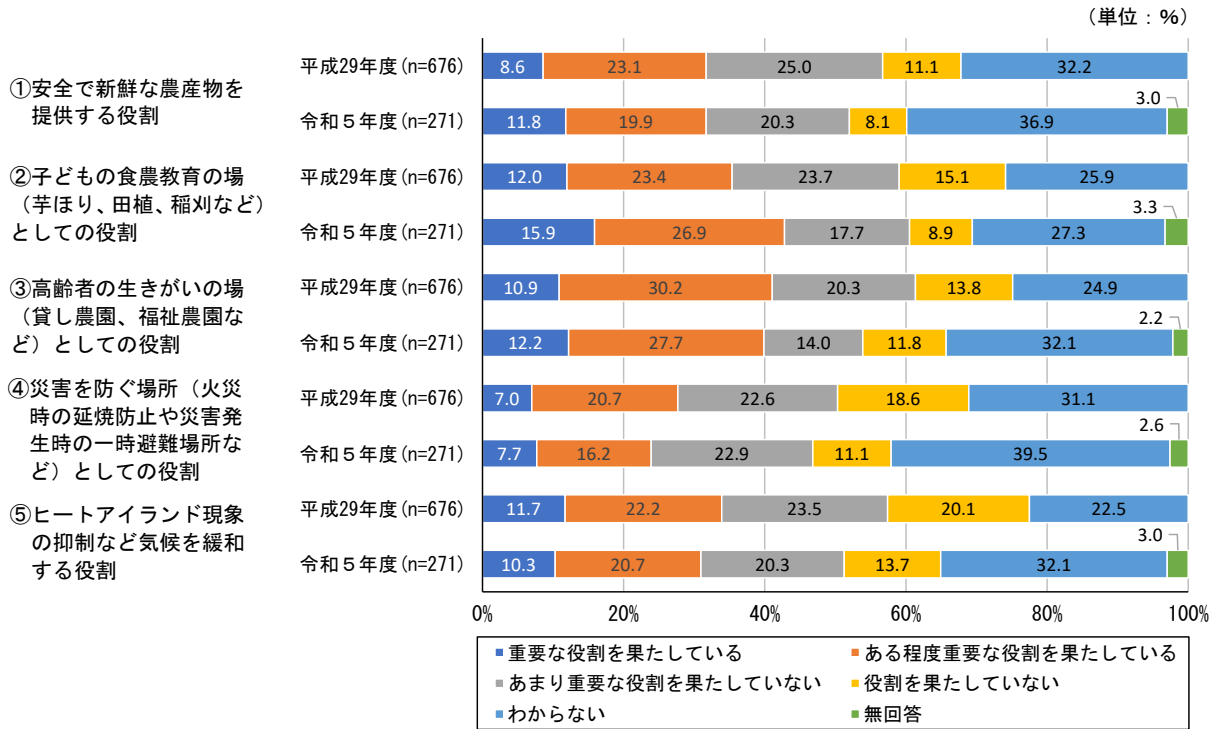
項目	1. 重要な役割を果たしている	2. ある程度重要な役割を果たしている	3. あまり重要な役割を果たしていない	4. 役割を果たしていない	5. わからない
(1) 安全で新鮮な農産物を提供する役割	①	②	③	④	⑤
(2) 子どもの食農教育の場（芋ほり、田植、稲刈など）としての役割	①	②	③	④	⑤
(3) 高齢者の生きがいの場（貸し農園、福祉農園など）としての役割	①	②	③	④	⑤
(4) 災害を防ぐ場所（火災時の延焼防止や災害発生時の一時避難場所など）としての役割	①	②	③	④	⑤
(5) ヒートアイランド現象の抑制など気候を緩和する役割	①	②	③	④	⑤

『(3) 高齢者の生きがいの場（貸し農園、福祉農園など）としての役割』の「ある程度重要な役割を果たしている」が27.7%、『(2) 子どもの食農教育の場（芋ほり、田植、稲刈など）としての役割』の「ある程度重要な役割を果たしている」が26.9%となっています。

『(2) 子どもの食農教育の場（芋ほり、田植、稲刈など）としての役割』の『重要な役割を果たしている』（「重要な役割を果たしている」＋「ある程度重要な役割を果たしている」）が42.8%と4割強となっており、重要な役割を果たしているといえます。

前回の結果と比較すると、『(2) 子どもの食農教育の場（芋ほり、田植、稲刈など）としての役割』の「ある程度重要な役割を果たしている」は平成29年度が23.4%、令和5年度が26.9%となっており、3.5ポイント高くなっています。

■大阪における農地の役割の重要度



①安全で新鮮な農産物を提供する役割

項目	回答者数(人)	割合(%)
重要な役割を果たしている	32	11.8
ある程度重要な役割を果たしている	54	19.9
あまり重要な役割を果たしていない	55	20.3
役割を果たしていない	22	8.1
わからない	100	36.9
無回答	8	3.0
合計	271	100.0

②子どもの食農教育の場（芋ほり、田植、稲刈など）としての役割

項目	回答者数(人)	割合(%)
重要な役割を果たしている	43	15.9
ある程度重要な役割を果たしている	73	26.9
あまり重要な役割を果たしていない	48	17.7
役割を果たしていない	24	8.9
わからない	74	27.3
無回答	9	3.3
合計	271	100.0

③高齢者の生きがいの場（貸し農園、福祉農園など）としての役割

項目	回答者数(人)	割合(%)
重要な役割を果たしている	33	12.2
ある程度重要な役割を果たしている	75	27.7
あまり重要な役割を果たしていない	38	14.0
役割を果たしていない	32	11.8
わからない	87	32.1
無回答	6	2.2
合計	271	100.0

④災害を防ぐ場所（火災時の延焼防止や災害発生時の一時避難場所など）としての役割

項目	回答者数(人)	割合(%)
重要な役割を果たしている	21	7.7
ある程度重要な役割を果たしている	44	16.2
あまり重要な役割を果たしていない	62	22.9
役割を果たしていない	30	11.1
わからない	107	39.5
無回答	7	2.6
合計	271	100.0

⑤ヒートアイランド現象の抑制など気候を緩和する役割

項目	回答者数(人)	割合(%)
重要な役割を果たしている	28	10.3
ある程度重要な役割を果たしている	56	20.7
あまり重要な役割を果たしていない	55	20.3
役割を果たしていない	37	13.7
わからない	87	32.1
無回答	8	3.0
合計	271	100.0

3 「エコ農産物」について

6. 「エコ農産物」の購入頻度

すべての方にお尋ねします。

6. 「エコ農産物」についてお伺いします。これまでに、「エコ農産物」を購入したことがありますか。(塗りつぶしは1つだけ)

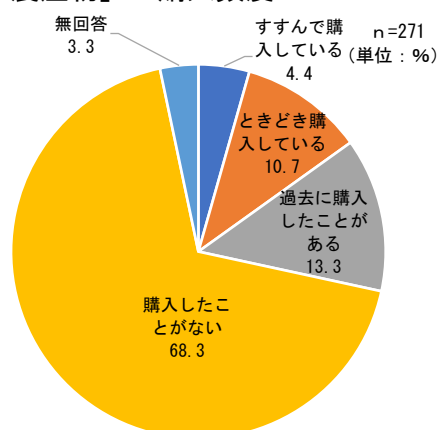
※「エコ農産物」とは、農薬の使用回数、化学肥料の使用量が府内の標準的な使用回数・量の半分以上に削減して生産された農産物を大阪府が認証したもの

- ① すすんで購入している
② ときどき購入している
③ 過去に購入したことがある
④ 購入したことがない
- 7へお進みください。
→ 8へお進みください。

「エコ農産物」の購入頻度についてみると、「購入したことがない」が68.3%と最も高く、次いで「過去に購入したことがある」が13.3%、「ときどき購入している」が10.7%の順で「購入したことがない」が7割弱となっています。

『購入したことがある』（「すすんで購入している」＋「ときどき購入している」＋「過去に購入したことがある」）が28.4%と3割近くとなっています。

■ 「エコ農産物」の購入頻度



項目	回答者数(人)	割合(%)
すすんで購入している	12	4.4
ときどき購入している	29	10.7
過去に購入したことがある	36	13.3
購入したことがない	185	68.3
無回答	9	3.3
合計	271	100.0

※平成29年度は購入した人のみに同じ設問を聞いているため、令和5年度のみ集計です。

<u>6で①～③を選択された方にお尋ねします。</u>	
7.「エコ農産物」を購入した理由は何ですか。(塗りつぶしは3つまで)	
① 安心・安全	⑤ ブランド（エコ農産物）
② 価格が安い	⑥ 生産地
③ 美味しい	⑦ その他（具体的に： ）
④ 特徴のある味	

前回の結果と比較すると、「安心・安全」の平成 29 年度が 81.0%、令和 5 年度が 80.5%とほとんど同じ数値となっています。

A horizontal bar chart comparing the reasons for purchasing local products between Heisei 29 (n=126) and Reiwa 5 (n=77). The x-axis represents the percentage from 0.0 to 100.0. The y-axis lists seven factors. For each factor, there are two bars: an orange bar for Heisei 29 and a blue bar for Reiwa 5. The exact percentage values are labeled at the end of each bar.

購入理由	平成29年度 (n=126)	令和5年度 (n=77)
安心・安全	81.0	80.5
価格が安い	11.9	16.9
美味しい	35.7	24.7
特徴のある味	3.9	3.9
ブランド（エコ農産物）	32.5	14.3
生産地	37.3	31.2
その他	5.6	2.6

項目	回答数 (人)	割合 (%)
安心・安全	62	80.5
価格が安い	13	16.9
美味しい	19	24.7
特徴のある味	3	3.9
ブランド（エコ農産物）	11	14.3
生産地	24	31.2
その他	2	2.6
回答者数	77	—

■その他の内訳
・環境にやさしい

6で「④ 購入したことがない」を選択された方にお尋ねします。 8. 「エコ農産物」を購入したことがない理由は何ですか。(塗りつぶしは3つまで)	
① 価格が高い ② 特徴のある味 ③ 形状が悪い ④ 生産地	⑤ 販売されているのを見たことがない ⑥ エコ農産物を知らなかった ⑦ その他 (具体的に：)

4 「大阪市なにわの伝統野菜」について

9. 「大阪市なにわの伝統野菜」の認知度(複数回答)

すべての方にお尋ねします。

9. 「大阪市なにわの伝統野菜」について、どの品目をご存知ですか。

知っている項目を全て塗りつぶしてください。

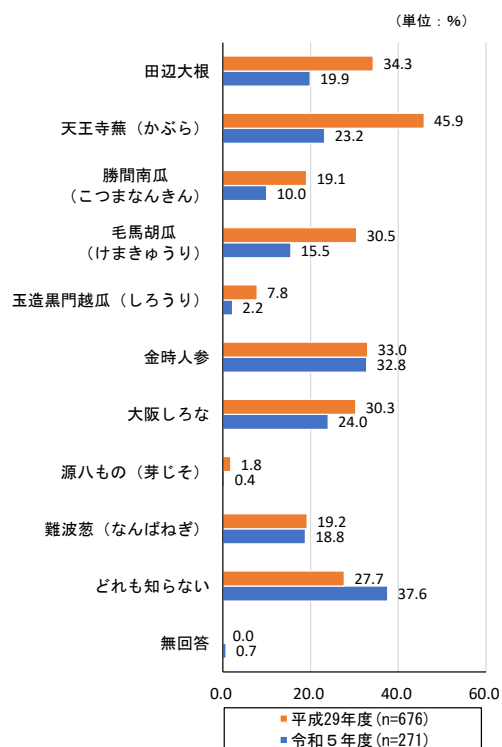
※「大阪市なにわの伝統野菜」とは、(1)大阪市内で概ね100年以上前から栽培されているもの、(2)現在において大阪市内で栽培されているもの、(3)現在も種子等の確保が可能なもので本市が認証したもの

- | | |
|-----------------|--------------|
| ① 田辺大根 | ⑥ 金時人参 |
| ② 天王寺蕪(かぶら) | ⑦ 大阪しろな |
| ③ 勝間南瓜(こつまなんきん) | ⑧ 源八もの(芽じそ) |
| ④ 毛馬胡瓜(けまきゅうり) | ⑨ 難波葱(なんばねぎ) |
| ⑤ 玉造黒門越瓜(しろうり) | ⑩ どれも知らない |

「大阪市なにわの伝統野菜」の認知度についてみると、「どれも知らない」が37.6%と最も高く、次いで「金時人参」が32.8%、「大阪しろな」が24.0%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「天王寺蕪(かぶら)」の平成29年度が45.9%、令和5年度が23.2%と22.7ポイント低くなっています。

■「大阪市なにわの伝統野菜」の認知度(複数回答)



項目	回答数 (人)	割合 (%)
田辺大根	54	19.9
天王寺蕪(かぶら)	63	23.2
勝間南瓜(こつまなんきん)	27	10.0
毛馬胡瓜(けまきゅうり)	42	15.5
玉造黒門越瓜(しろうり)	6	2.2
金時人参	89	32.8
大阪しろな	65	24.0
源八もの(芽じそ)	1	0.4
難波葱(なんばねぎ)	51	18.8
どれも知らない	102	37.6
無回答	2	0.7
回答者数	271	—

※割合は回答者数で算出しています。

10. 「大阪市なにわの伝統野菜」の購入頻度

10. これまでに、「大阪市なにわの伝統野菜」を購入したことがありますか。
(塗りつぶしは1つだけ)

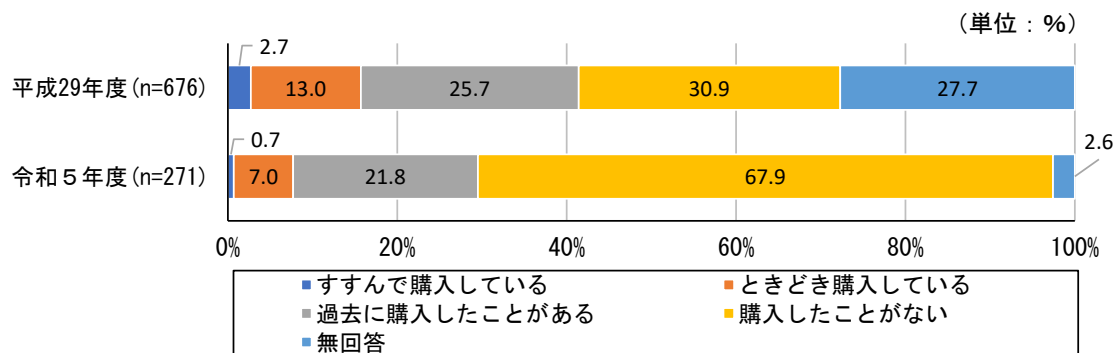
- | | |
|----------------|--------------------------|
| ① すすんで購入している | } → <u>11 へお進み</u> ください。 |
| ② ときどき購入している | |
| ③ 過去に購入したことがある | |
| ④ 購入したことがない | → <u>12 へお進み</u> ください。 |

「大阪市なにわの伝統野菜」の購入頻度についてみると、「購入したことがない」が 67.9%と最も高く、次いで「過去に購入したことがある」が 21.8%、「ときどき購入している」が 7.0%の順となっており、「購入したことがない」が 7 割弱となっています。

『購入したことがある』（「すすんで購入している」＋「ときどき購入している」＋「過去に購入したことがある」）が 29.5%と 3 割近くとなっています。

前回の結果と比較すると、「購入したことがない」の平成 29 年度が 30.9%、令和 5 年度が 67.9%と 37.0 ポイント高くなっています。

■ 「大阪市なにわの伝統野菜」の購入頻度



項目	回答者数(人)	割合(%)
すすんで購入している	2	0.7
ときどき購入している	19	7.0
過去に購入したことがある	59	21.8
購入したことがない	184	67.9
無回答	7	2.6
合計	271	100.0

11.「大阪市なにわの伝統野菜」を購入した理由(複数回答)

10で①～③を選択された方にお尋ねします。

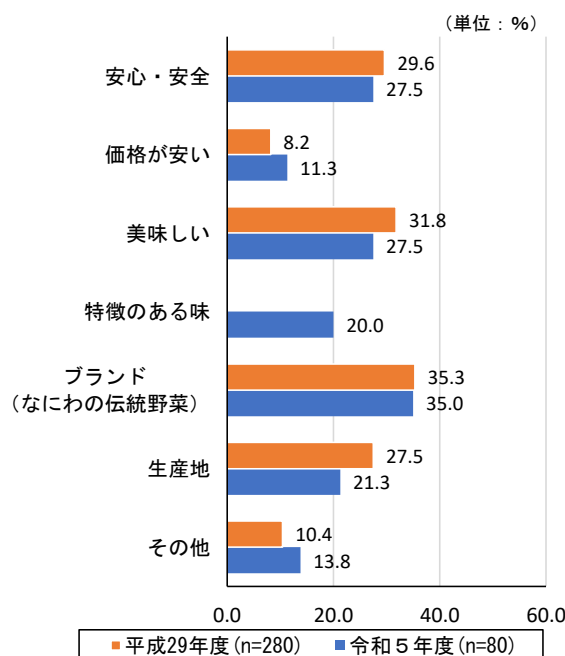
11.「大阪市なにわの伝統野菜」を購入した理由は何ですか。(塗りつぶしは3つまで)

- | | |
|----------|-------------------|
| ① 安心・安全 | ⑤ ブランド (なにわの伝統野菜) |
| ② 価格が安い | ⑥ 生産地 |
| ③ 美味しい | ⑦ その他 |
| ④ 特徴のある味 | (具体的に:) |

「大阪市なにわの伝統野菜」を購入した理由についてみると、「ブランド (なにわの伝統野菜)」が 35.0%と最も高く、次いで「安心・安全」「美味しい」が 27.5%、「生産地」が 21.3%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「ブランド (なにわの伝統野菜)」の平成 29 年度が 35.3%、令和 5 年度が 35.0%とほぼ同じ割合となっています。

■「大阪市なにわの伝統野菜」を購入した理由(複数回答)



項目	回答数 (人)	割合 (%)
安心・安全	22	27.5
価格が安い	9	11.3
美味しい	22	27.5
特徴のある味	16	20.0
ブランド(なにわの 伝統野菜)	28	35.0
生産地	17	21.3
その他	11	13.8
回答者数	80	—

※割合は回答者数で算出しています。

■その他の内訳

- ・お正月のおせち用に購入 (2件)
- ・興味があった
- ・珍しいから
- ・おいしそうだったので、知らずに購入
- ・家族が食べてみたいと言ったから
- ・にんじんは正月用に、南瓜は子どもの頃、祖母から聞かされて数年前に1度だけ購入。

<u>10で「④ 購入したことがない」を選択された方にお尋ねします。</u> 12. 「大阪市なにわの伝統野菜」を購入したことがない理由は何ですか。 (塗りつぶしは<u>3</u>つまで)	
① 価格が高い ② 特徴のある味 ③ 形状が悪い	④ 生産地 ⑤ 販売されているのを見たことがない ⑥ その他（具体的に： ）

前回の結果と比較すると、「販売されているのを見たことがない」の平成29年度が81.8%、令和5年度が88.0%と6.2ポイント高くなっています。

理由	平成29年度 (n=209)	令和5年度 (n=184)
価格が高い	16.3	4.9
特徴のある味	1.0	0.5
形状が悪い	0.5	0.0
生産地	0.5	0.5
販売されているのを見たことがない	81.8	88.0
その他	6.7	8.7
無回答	0.0	0.5

項目	回答数 (人)	割合 (%)
価格が高い	9	4.9
特徴のある味	1	0.5
形状が悪い	0	0.0
生産地	1	0.5
販売されているのを見たことがない	162	88.0
その他	16	8.7
無回答	1	0.5
回答者数	184	—

■その他の内訳

- 66

5 市内に農地があることについて

13. 市内に農地がある場合のメリット(複数回答)

すべての方にお尋ねします。

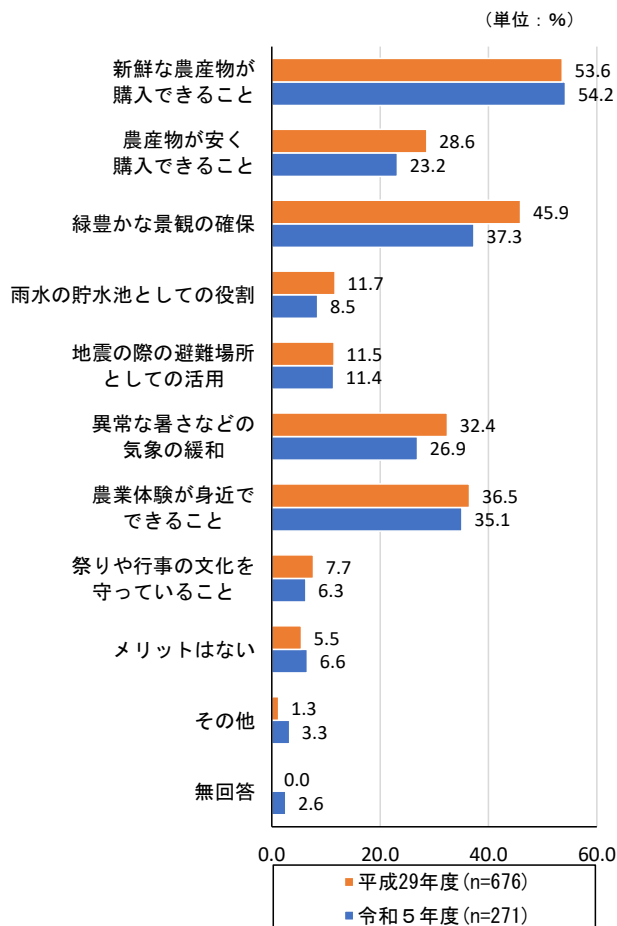
13. 市内に農地があればどんなメリットがあると思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(塗りつぶしは3つまで)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① 新鮮な農産物が購入できること | ⑥ 異常な暑さなどの気象の緩和 |
| ② 農産物が安く購入できること | ⑦ 農業体験が身近でできること |
| ③ 緑豊かな景観の確保 | ⑧ 祭りや行事の文化を守っていること |
| ④ 雨水の貯水池としての役割 | ⑨ メリットはない |
| ⑤ 地震の際の避難場所としての活用 | ⑩ その他(具体的に:) |

市内に農地がある場合のメリットについてみると、「新鮮な農産物が購入できること」が54.2%と最も高く、次いで「緑豊かな景観の確保」が37.3%、「農業体験が身近でできること」が35.1%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「緑豊かな景観の確保」の平成29年度が45.9%、令和5年度が37.3%と8.6ポイント低くなっています。

■市内に農地がある場合のメリット(複数回答)



項目	回答数 (人)	割合 (%)
新鮮な農産物が購入できること	147	54.2
農産物が安く購入できること	63	23.2
緑豊かな景観の確保	101	37.3
雨水の貯水池としての役割	23	8.5
地震の際の避難場所としての活用	31	11.4
異常な暑さなどの気象の緩和	73	26.9
農業体験が身近でできること	95	35.1
祭りや行事の文化を守っていること	17	6.3
メリットはない	18	6.6
その他	9	3.3
無回答	7	2.6
回答者数	271	—

※割合は回答者数で算出しています。

■その他の内訳

- ・地産地消、輸送コスト減（2件）
- ・季節が感じられる。
- ・食糧供給の安全
- ・多世代交流

14. 市内に農地がある場合のデメリット(複数回答)

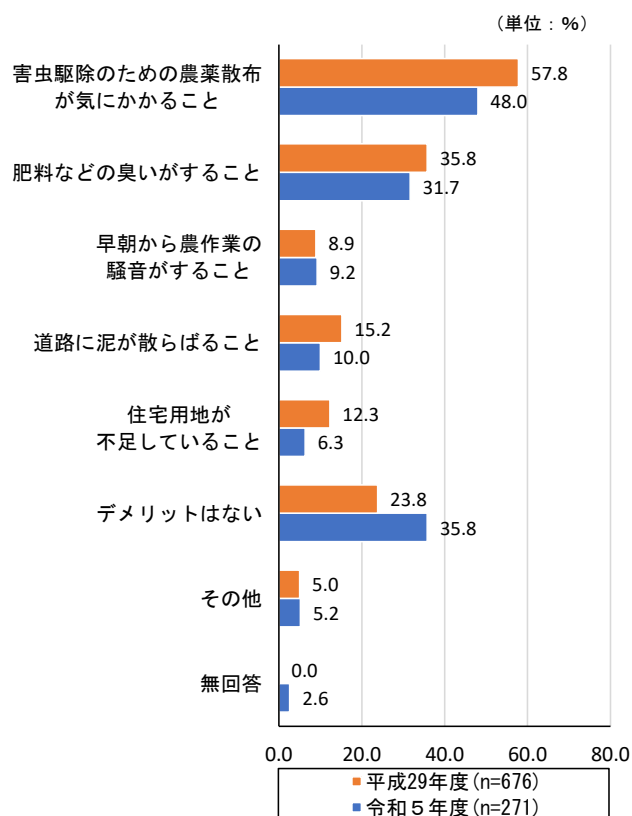
14. 市内に農地があればどんなデメリットがあると思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(塗りつぶしは3つまで)

- ① 害虫駆除のための農薬散布が気にかかること
- ② 肥料などの臭いがすること
- ③ 早朝から農作業の騒音がすること
- ④ 道路に泥が散らばること
- ⑤ 住宅用地が不足していること
- ⑥ デメリットはない
- ⑦ その他(具体的に:)

市内に農地がある場合のデメリットについてみると、「害虫駆除のための農薬散布が気にかかること」が48.0%と最も高く、次いで「デメリットはない」が35.8%、「肥料などの臭いがすること」が31.7%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「デメリットはない」の平成29年度が23.8%、令和5年度が35.8%と12.0ポイント高くなっているのに対し、「害虫駆除のための農薬散布が気にかかること」の平成29年度が57.8%、令和5年度が48.0%と10.8ポイント低くなっています。

■市内に農地がある場合のデメリット(複数回答)



項目	回答数 (人)	割合 (%)
害虫駆除のための農薬散布が気にかかること	130	48.0
肥料などの臭いがすること	86	31.7
早朝から農作業の騒音がすること	25	9.2
道路に泥が散らばること	27	10.0
住宅用地が不足していること	17	6.3
デメリットはない	97	35.8
その他	14	5.2
無回答	7	2.6
回答者数	271	—

※割合は回答者数で算出しています。

■その他の内訳

- ・害虫の発生（8件）
- ・ゴミ置き場になるおそれがある。
- ・人付き合いの煩わしさが気になる

15. 市内の農地で農業体験をしてみたいと思いますか。(塗りつぶしはいくつでも)	
① 市民農園を利用して野菜栽培などをしたいと思う	
② 農家の作業を手伝いたいと思う	
③ 農業体験をしたくないと思わない	
④ その他（具体的に：	)

前回の結果と比較すると、「市民農園を利用して野菜栽培などをしたいと思う」の平成 29 年度が 47.2%、令和 5 年度が 32.1%と 15.1 ポイント低くなっているのに対し、「農業体験をしたいと思わない」の平成 29 年度が 34.3%、令和 5 年度が 43.2%と 8.9 ポイント高くなっています。

Horizontal bar chart showing the percentage of respondents who want to use urban agriculture facilities for various purposes, comparing Heisei 29 (2017) and Reiwa 5 (2023). The chart is titled '(単位：%)' (Unit: %).

Legend: ■ 平成29年度 (n=676) (Heisei 29, n=676) ■ 令和5年度 (n=271) (Reiwa 5, n=271)

利用目的 (Purpose of Use)	平成29年度 (n=676) (%)	令和5年度 (n=271) (%)
市民農園を利用して野菜栽培などをしたと思う (I think I would use the urban agriculture facility for vegetable cultivation, etc.)	47.2	32.1
農家の作業を手伝いたいと思う (I want to help with the work of the farmer)	26.6	28.4
農業体験をしたいと思わない (I don't want to experience agriculture)	34.3	43.2
その他 (Others)	5.3	5.2
無回答 (No answer)	0.0	4.1

項目	回答数 (人)	割合 (%)
市民農園を利用して野菜栽培などをしたいと思う	87	32.1
農家の作業を手伝いたいと思う	77	28.4
農業体験をしたいと思わない	117	43.2
その他	14	5.2
無回答	11	4.1
回答者数	271	—

71

■その他の内訳

- ・収穫体験など、子どもにさせたい。
- ・高齢のため。
- ・虫が苦手なので、自分には無理です。
- ・地域活性に良いと思う。
- ・若ければしてみたかった。
- ・近隣に農地がないのでわからない。
- ・自宅に畑があるので十分。
- ・子どもに体験させてあげたいと考えています。
- ・近場にそのような場所がない。
- ・体験の場がない。

16. 市内農地の必要性

16. 市内の農地の必要性についてどう考えますか。(塗りつぶしは1つだけ)

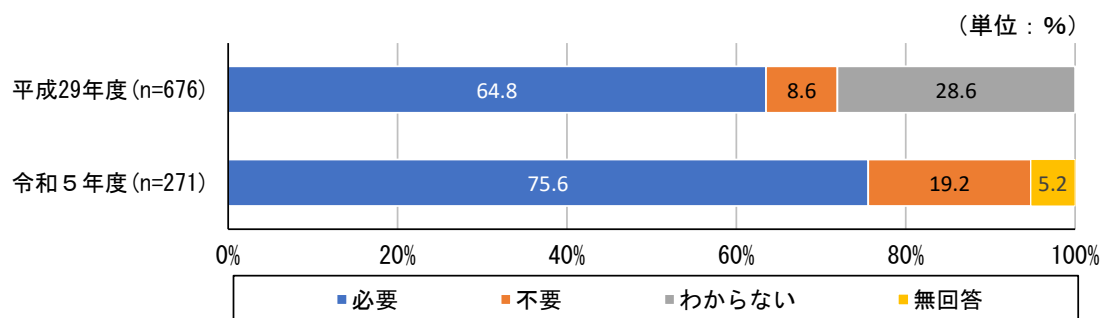
① 必要

② 不要

市内農地の必要性についてみると、「必要」が75.6%、「不要」が19.2%と「必要」が7割を超えており、「不必要」を大きく上回っています。

前回の結果と比較すると、「必要」の平成29年度が64.8%、令和5年度が75.6%と10.8ポイント高くなっています。

■市内農地の必要性



※令和5年度は、「わからない」の回答が設定されていません。

項目	回答者数(人)	割合(%)
必要	205	75.6
不要	52	19.2
無回答	14	5.2
合計	271	100.0

17. 市内の農業や農地について（自由記述）

市内の農業や農地について、60 件のご意見をいただきました。

以下に、区分した種類別に主な意見をまとめています。

1 市内農地に関すること（24 件）

- ・農業や農地は必要ですが、食糧不足や災害対策などに必要であり、また心の安らぎに必要。ただ、放置されると環境面が気になります。
- ・市内の農地を増やしてほしいです
- ・近隣に農地があることの想像できない環境に思うので、気にしたことはなかったです。高速道路が近くにあるので排気ガスが気になり、買う意欲がわかないと思います。
- ・農地はもっと増やした方がよい
- ・小さな子供たちのため、安らぎや芽生えるような感じがします。少しでも暑さが緩和されると良いなと思います。

2 農園に関すること（7 件）

- ・東淀川区内で市民農園が増えたらうれしいし、利用する。
- ・貸農園のプランがあれば教えてほしい。
- ・次の世代のためにも、子どもの教育のためにも市民農園をたくさん増やしてほしい。
- ・農園を借りたいと思うが、近くにない。商業施設の屋上などに農園があることについて、排気の問題が気になる。
- ・オーガニック農園を作ってほしい（借りるタイプ）オーガニック農業をしている農家さんを増やす取組みやオーガニック無農薬に対して補助金を拡充してほしい。

3 エコ農産物やなにわの伝統野菜に関すること（8 件）

- ・特徴ある伝統野菜は競争力もあり、採算がとれるように思います。それに注力した農業政策も検討されたいかでしょうか。
- ・もっと身近に販売してもらいたい。品質が良くて安価なものを
- ・農薬の少ない野菜を作ってもらえたら嬉しいです。安心と安全の野菜を売っていただきたいです。新鮮なものを求めて食したいです。
- ・伝統的な野菜は守ればよい。14 のデメリットはどうとでもできるはず。しかし、市内である必要性もあまり感じない。
- ・地の農産物が分かりよいと思います。一年を通じて世話の大変さもわかり、ちゃんと食べようと思います。

4 その他（21 件）

- ・子どもたちに農業の大切さを体験学習する機会を増やす。
- ・大阪市内の農家さんが農業体験等を行っている場合、参加したいです。そういった情報を入手できる SNS などを整備していただけるととてもありがたいです。
- ・身近で体験イベントやおもしろ売りなどができるようになると面白そう。
- ・年寄りや子供への産業のかかわりの入口として使える。

2) クロス集計

1. 「居住している地域における農地の有無」と「大阪における農地の役割の重要度」

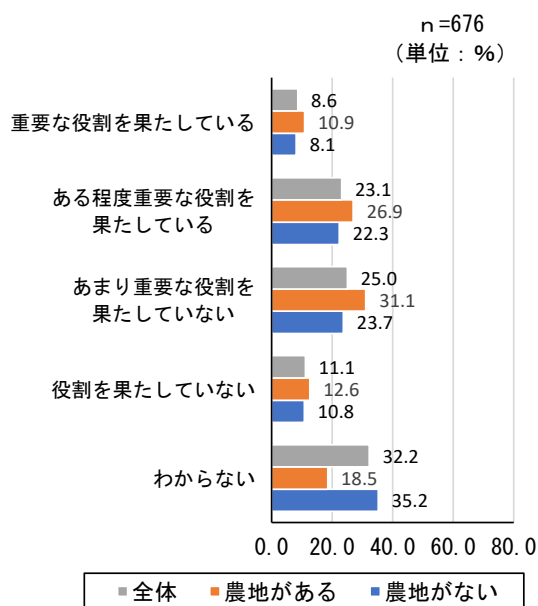
①安全で新鮮な農産物を提供する役割

「居住している地域における農地の有無」と「安全で新鮮な農産物を提供する役割の重要度」についてみると、『農地がない』の「わからない」が42.1%と最も高くなっています。

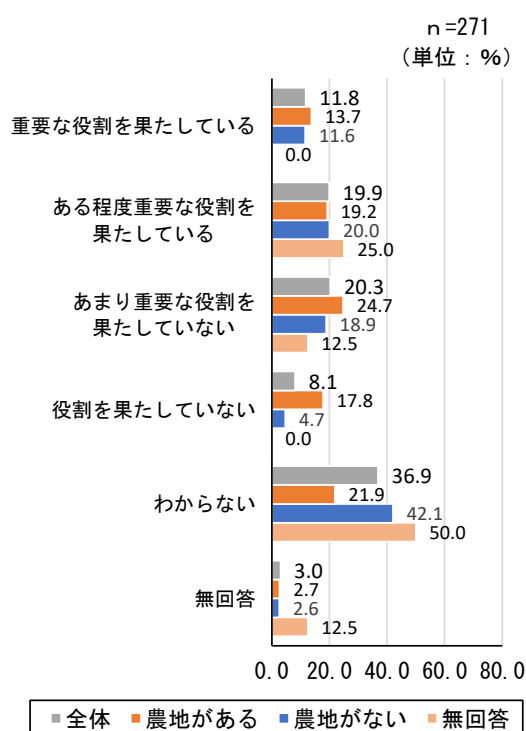
前回の結果と比較すると、『農地がある』の「あまり重要な役割を果たしていない」は平成29年度が31.1%、令和5年度が24.7%と6.4ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度



・令和5年度



■今回の集計結果

	n 数	て重 い要 な役 割を 果た し	を ある 程 度重 い要 な役 割	果 あ ま り重 要な 役 割を	い役 割を 果た してい ない	わ か ら ない	無 回 答
全体	271	32	54	55	22	100	8
	100.0	11.8	19.9	20.3	8.1	36.9	3.0
農地がある	73	10	14	18	13	16	2
	100.0	13.7	19.2	24.7	17.8	21.9	2.7
農地がない	190	22	38	36	9	80	5
	100.0	11.6	20.0	18.9	4.7	42.1	2.6
無回答	8	0	2	1	0	4	1
	100.0	0.0	25.0	12.5	0.0	50.0	12.5

②子どもの食農教育の場（芋ほり、田植、稲刈など）としての役割

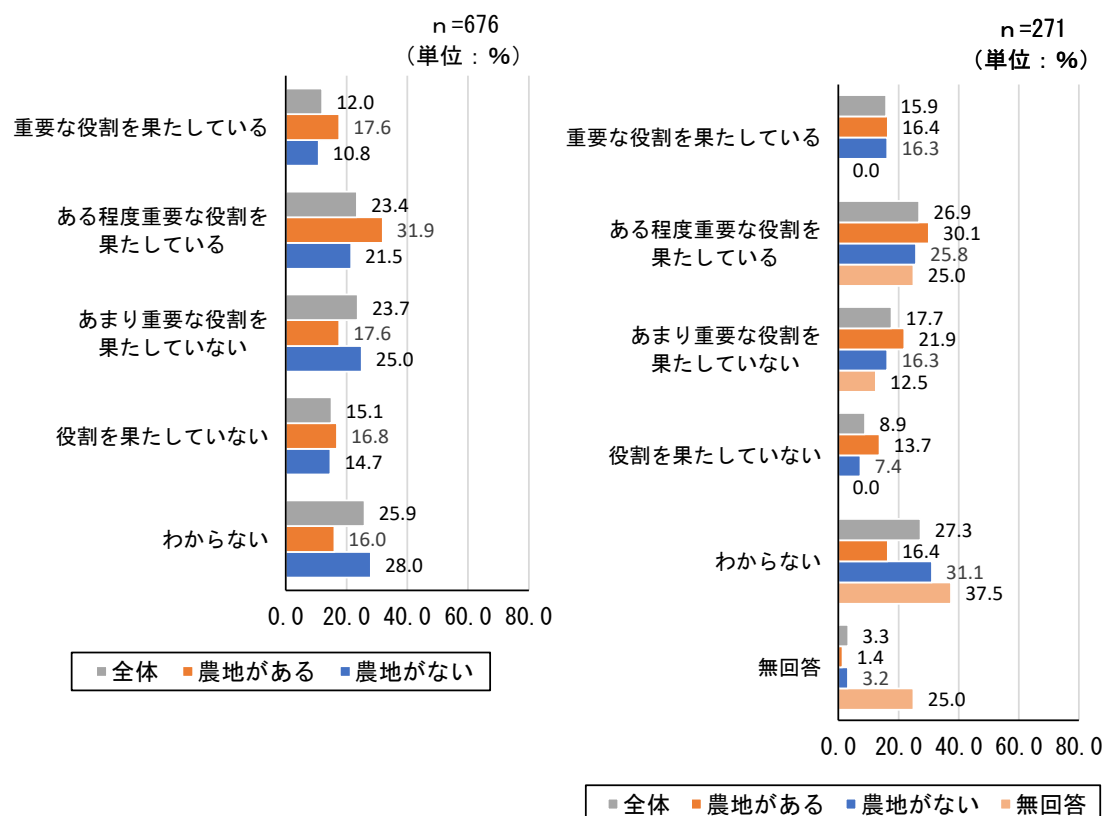
「居住している地域における農地の有無」と「子どもの食農教育の場（芋ほり、田植、稲刈など）としての役割の重要度」についてみると、『農地がない』の「わからない」が31.1%と最も高くなっています。

前回の結果と比較すると、『農地がある』の「ある程度重要な役割を果たしている」は平成29年度が31.9%、令和5年度が30.1%と1.8ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度

・令和5年度



■今回の集計結果

	n数	重要な役割を果たしている	ある程度重要な役割を果たしている	あまり重要な役割を果たしていない	役割を果たしていない	わからない	無回答
全体	271	43	73	48	24	74	9
	100.0	15.9	26.9	17.7	8.9	27.3	3.3
農地がある	73	12	22	16	10	12	1
	100.0	16.4	30.1	21.9	13.7	16.4	1.4
農地がない	190	31	49	31	14	59	6
	100.0	16.3	25.8	16.3	7.4	31.1	3.2
無回答	8	0	2	1	0	3	2
	100.0	0.0	25.0	12.5	0.0	37.5	25.0

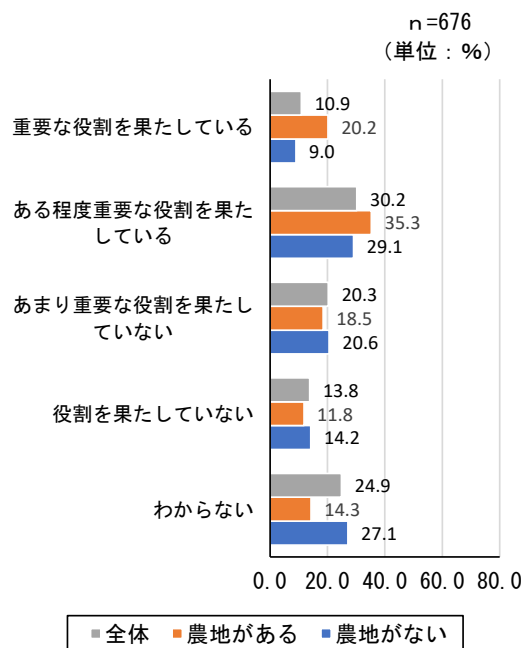
③高齢者の生きがいの場（貸し農園、福祉農園など）としての役割

「地域の農地有無」と「高齢者の生きがいの場（貸し農園、福祉農園など）としての役割の重要度」についてみると、『農地がある』の「ある程度重要な役割を果たしている」が31.5%と最も高くなっています。

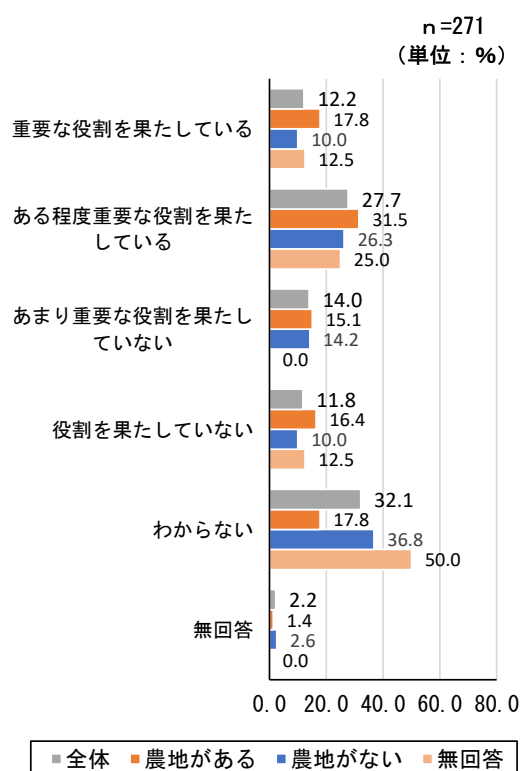
前回の結果と比較すると、『農地がある』の「ある程度重要な役割を果たしている」は平成29年度が35.3%、令和5年度が31.5%と3.8ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度



・令和5年度



■今回の集計結果

	n 数	て重 い 要 な 役 割 を 果 た し	を 果 た し て 重 要 な 役 割	果 た し て 重 要 な 役 割 を	い 役 割 を 果 た し て い な	わ か ら な い	無 回 答
全体	271	33	75	38	32	87	6
	100.0	12.2	27.7	14.0	11.8	32.1	2.2
農地がある	73	13	23	11	12	13	1
	100.0	17.8	31.5	15.1	16.4	17.8	1.4
農地がない	190	19	50	27	19	70	5
	100.0	10.0	26.3	14.2	10.0	36.8	2.6
無回答	8	1	2	0	1	4	0
	100.0	12.5	25.0	0.0	12.5	50.0	0.0

④災害発生時における役割（火災時の延焼防止や災害発生時の一時避難場所など）

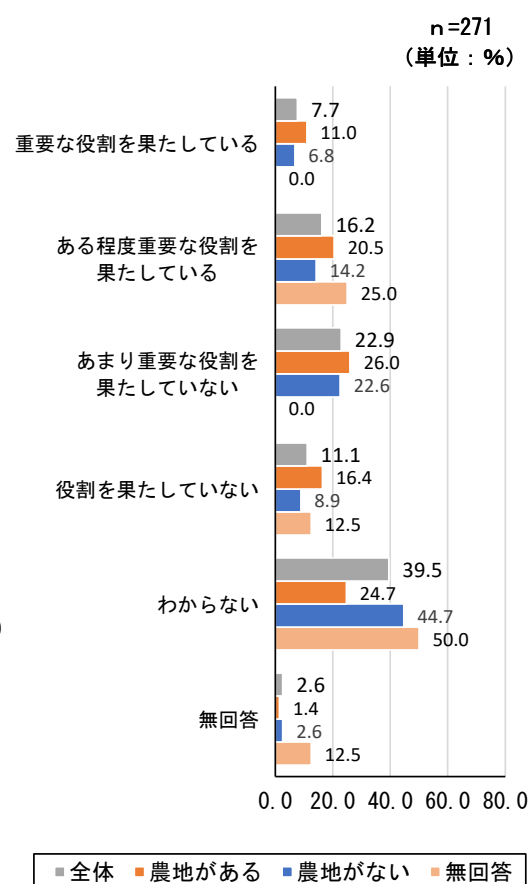
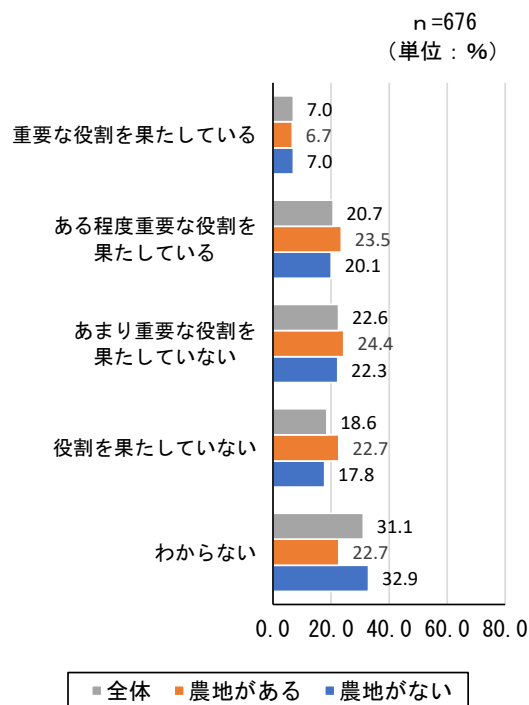
「居住している地域における農地の有無」と「災害発生時における役割の重要度」についてみると、『農地がない』の「わからない」が44.7%と最も高くなっています。

前回の結果と比較すると、『農地がない』の「わからない」は平成29年度が32.9%、令和5年度が44.7%と11.8ポイント高くなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度

・令和5年度



■今回の集計結果

	n数	重要な役割を果たしている	ある程度重要な役割を果たしている	あまり重要な役割を果たしていない	役割を果たしていない	わからない	無回答
全体	271	21	44	62	30	107	7
	100.0	7.7	16.2	22.9	11.1	39.5	2.6
農地がある	73	8	15	19	12	18	1
	100.0	11.0	20.5	26.0	16.4	24.7	1.4
農地がない	190	13	27	43	17	85	5
	100.0	6.8	14.2	22.6	8.9	44.7	2.6
無回答	8	0	2	0	1	4	1
	100.0	0.0	25.0	0.0	12.5	50.0	12.5

⑤ヒートアイランド現象の抑制など気候を緩和する役割

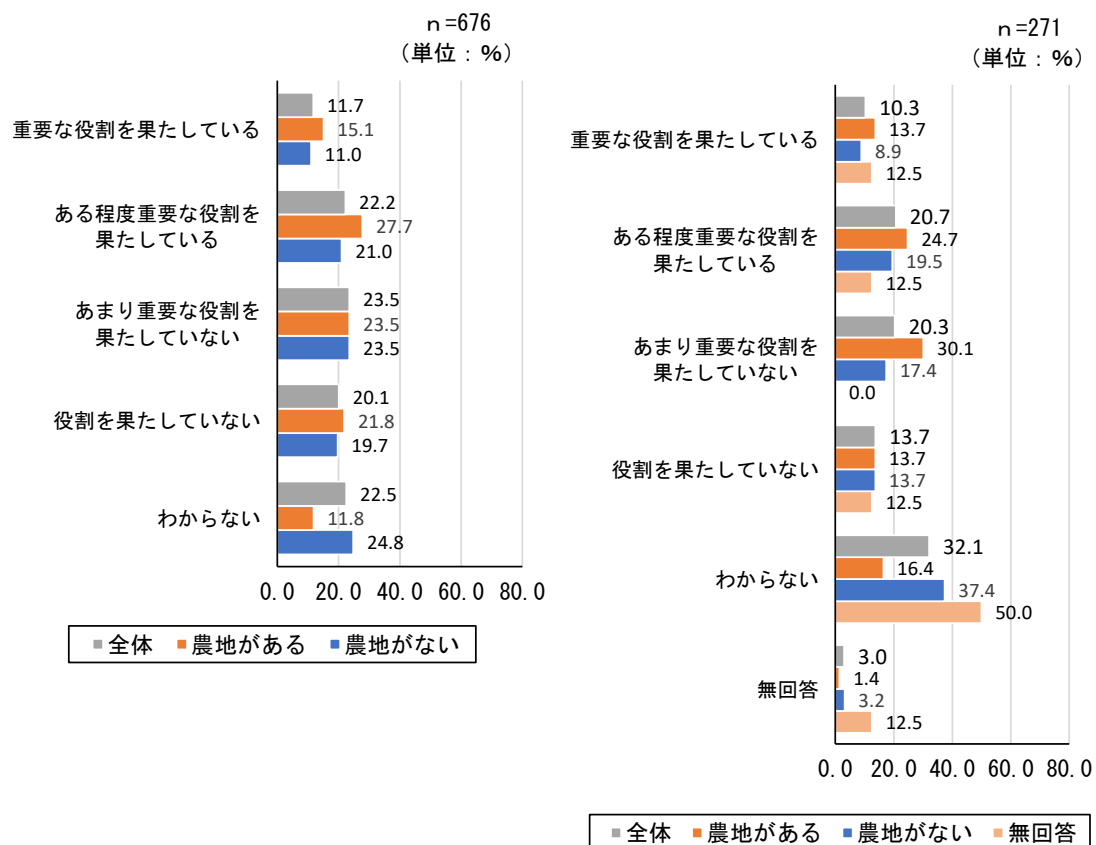
「居住している地域における農地の有無」と「ヒートアイランド現象の抑制など気候を緩和する役割の重要度」についてみると、『農地がない』の「わからない」が37.4%と最も高くなっています。

前回の結果と比較すると、『農地がない』の「わからない」は平成29年度が24.8%、令和5年度が37.4%と12.6ポイント高くなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度

・令和5年度



■今回の集計結果

	n数	重要な役割を果たしている	ある程度重要な役割を果たしている	あまり重要な役割を果たしていない	役割を果たしていない	わからない	無回答
全体	271	28	56	55	37	87	8
	100.0	10.3	20.7	20.3	13.7	32.1	3.0
農地がある	73	10	18	22	10	12	1
	100.0	13.7	24.7	30.1	13.7	16.4	1.4
農地がない	190	17	37	33	26	71	6
	100.0	8.9	19.5	17.4	13.7	37.4	3.2
無回答	8	1	1	0	1	4	1
	100.0	12.5	12.5	0.0	12.5	50.0	12.5

2. 「エコ農産物の購入頻度」と「購入した理由」

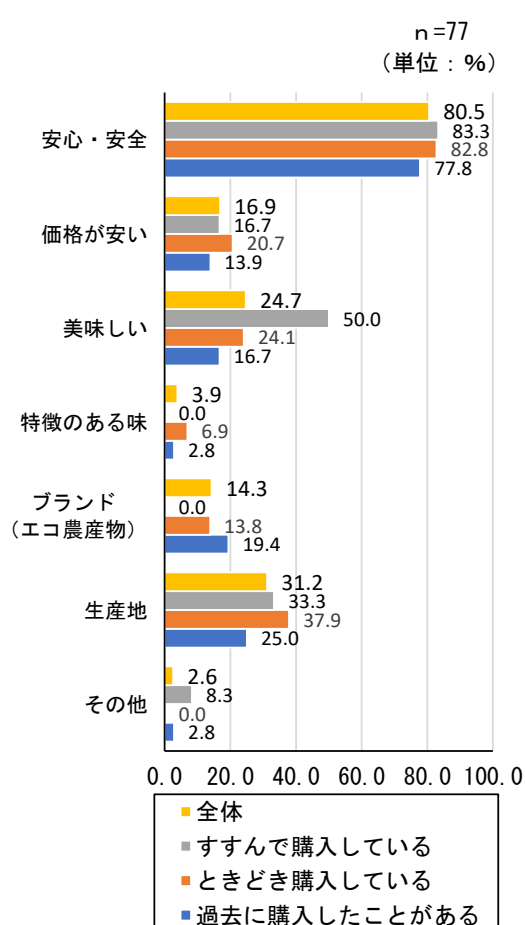
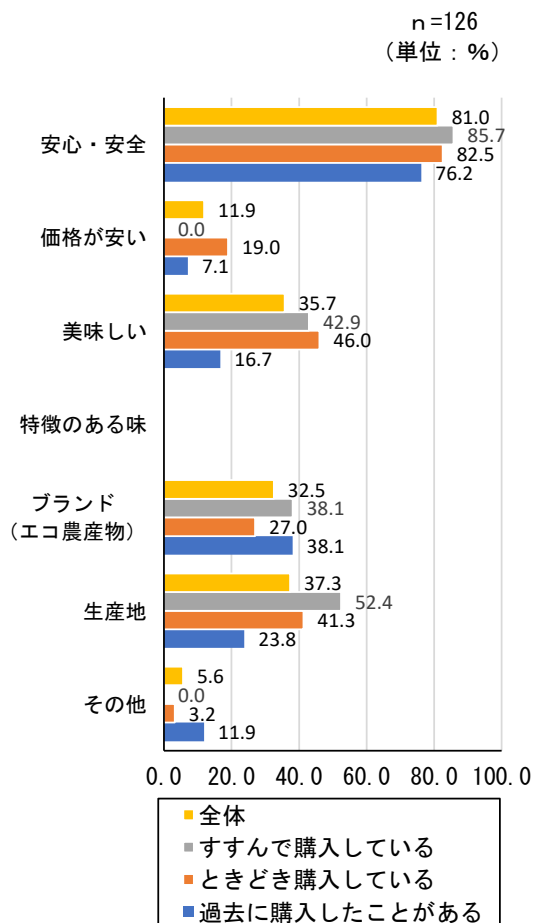
「エコ農産物の購入頻度」と「購入した理由」についてみると、『すすんで購入している』の「安心・安全」が83.3%と8割を超えています。

前回の結果と比較すると、『すすんで購入している』の「安心・安全」は平成29年度が85.7%、令和5年度が83.3%と2.4ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度

・令和5年度



■ 今回の集計結果

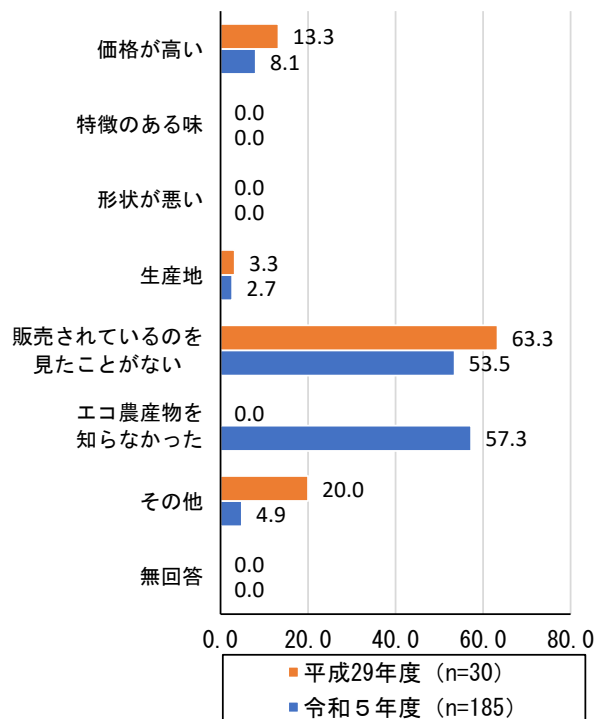
	n 数	安 心・ 安 全	価 格 が 安 い	美 味 し い	特 徴 の あ る 味	物 （ ブ ラ ン ド （ エ コ 農 産	生 産 地	そ の 他
全 体	77 100.0	62 80.5	13 16.9	19 24.7	3 3.9	11 14.3	24 31.2	2 2.6
すすんで購入している	12 100.0	10 83.3	2 16.7	6 50.0	0 0.0	0 0.0	4 33.3	1 8.3
ときどき購入している	29 100.0	24 82.8	6 20.7	7 24.1	2 6.9	4 13.8	11 37.9	0 0.0
過去に購入したことがある	36 100.0	28 77.8	5 13.9	6 16.7	1 2.8	7 19.4	9 25.0	1 2.8
購入したことがない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

3. 「エコ農産物を購入したことがない」と「未購入の理由」

「エコ農産物を購入したことがない」と「未購入の理由」についてみると、「エコ農産物を知らなかった」が57.3%と最も高くなっており、次いで「販売されているのを見たことがない」が53.5%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「販売されているのを見たことがない」は平成29年度が63.3%、令和5年度が53.5%と9.8ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較



■今回の集計結果

	全体	価格が高い	特徴のある味	形状が悪い	生産地	販売されているのを見たことがない	エコ農産物を知らなかった	その他	無回答
購入したことがない	185 100.0	15 8.1	0 0.0	0 0.0	5 2.7	99 53.5	106 57.3	9 4.9	0 0.0

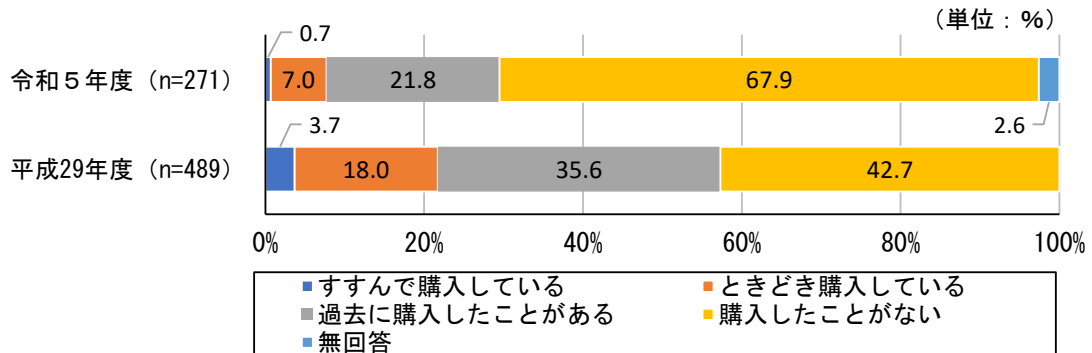
4. 「大阪市なにわの伝統野菜の認知度」と「購入頻度」

「大阪市なにわの伝統野菜の認知度」と「購入頻度」についてみると、「購入したことがない」が 67.9%と最も高くなっており、次いで「過去に購入したことがある」が 21.8%の順となっています。

『購入したことがある』（「すすんで購入している」＋「ときどき購入している」＋「過去に購入したことがある」）は 29.5%となっています。

前回の結果と比較すると、「過去に購入したことがある」は平成 29 年度が 35.6%、令和 5 年度が 21.8%と 13.8 ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較



■今回の集計結果

	全体	すすんで購入している	ときどき購入している	過去に購入したことがある	購入したことがない	無回答
いずれかの品目を知っている	271 100.0	2 0.7	19 7.0	59 21.8	184 67.9	7 2.6

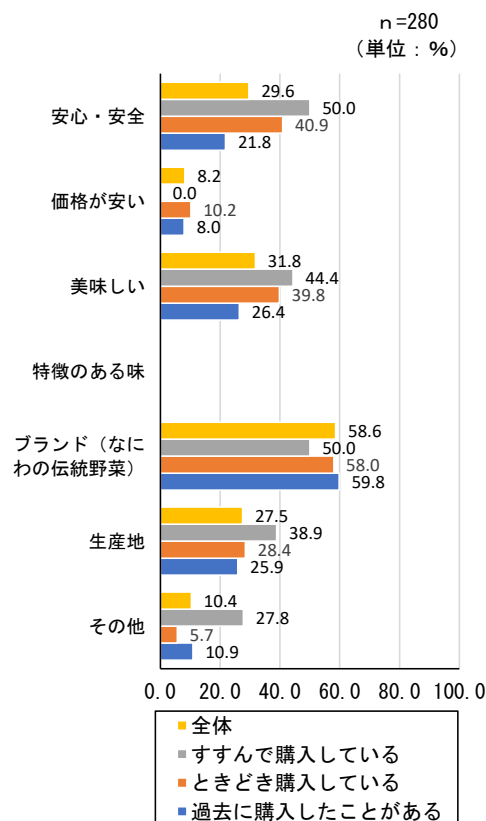
5. 「大阪市なにわの伝統野菜の購入頻度」と「購入した理由」

「大阪市なにわの伝統野菜の購入頻度」と「購入した理由」についてみると、『すすんで購入している』の「安心・安全」が100.0%と最も高くなっており、次いで『ときどき購入している』の「美味しい」が57.9%の順となっています。

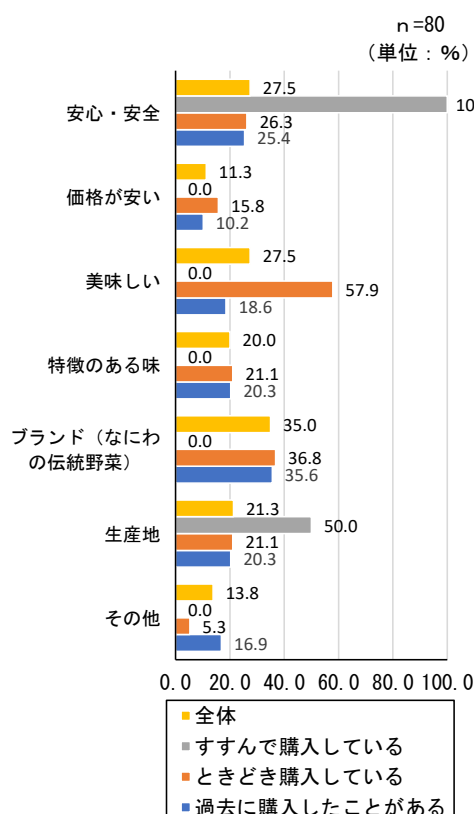
前回の結果と比較すると、『過去に購入したことがある』の「ブランド（なにわの伝統野菜）」は平成29年度が59.8%、令和5年度が35.6%と24.2ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度



・令和5年度



■今回の集計結果

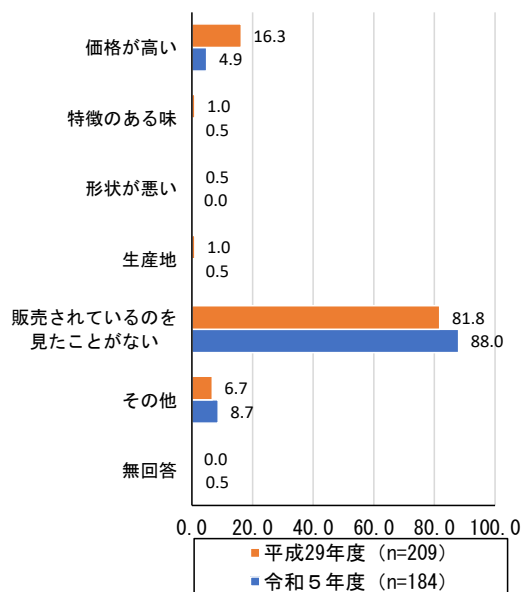
	n数	安心・安全	価格が安い	美味しい	特徴のある味	ブランド（なにわの伝統野菜）	生産地	その他
全体	80	22	9	22	16	28	17	11
	100.0	27.5	11.3	27.5	20.0	35.0	21.3	13.8
すすんで購入している	2	2	0	0	0	0	1	0
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
ときどき購入している	19	5	3	11	4	7	4	1
	100.0	26.3	15.8	57.9	21.1	36.8	21.1	5.3
過去に購入したことがある	59	15	6	11	12	21	12	10
	100.0	25.4	10.2	18.6	20.3	35.6	20.3	16.9

6. 「大阪市なにわの伝統野菜を購入したことがない」と「未購入の理由」

「大阪市なにわの伝統野菜を購入したことがない」と「未購入の理由」についてみると、「販売されているのを見たことがない」が88.0%と最も高くなっており、次いで「価格が高い」が4.9%の順となっています。

前回の結果と比較すると、「価格が高い」は平成29年度が16.3%、令和5年度が4.9%と11.4ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較



■今回の集計結果

	n数	価格が高い	特徴のある味	形状が悪い	生産地	販売されているのを見たことがないの	その他	無回答
購入したことがない	184	9	1	0	1	162	16	1
	100.0	4.9	0.5	0.0	0.5	88.0	8.7	0.5

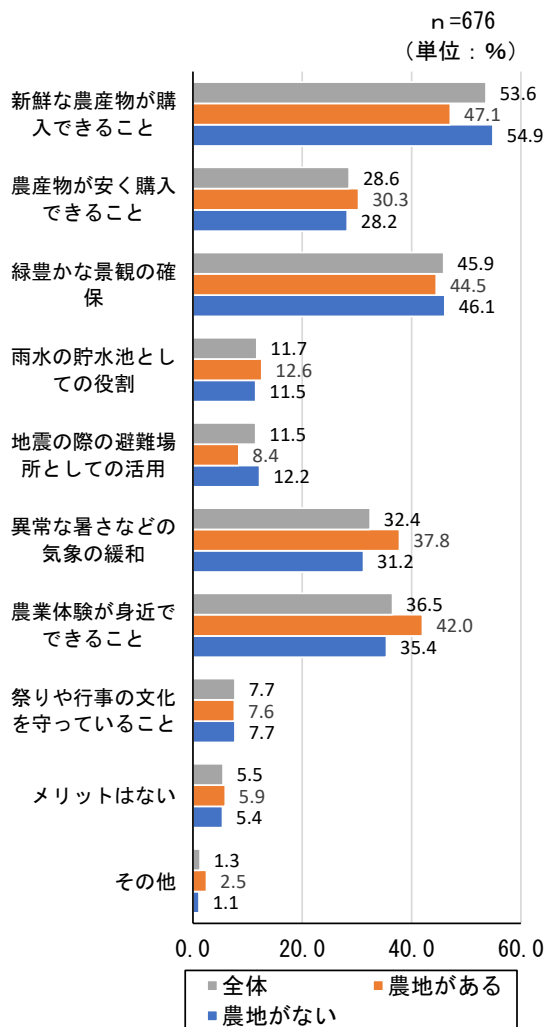
7. 「居住している地域における農地の有無」と「市内に農地がある場合のメリット」

「居住している地域における農地の有無」と「市内に農地がある場合のメリット」についてみると、『農地がない』の「新鮮な農産物が購入できること」が55.3%と最も高くなっており、次いで『農地がある』の「新鮮な農産物が購入できること」が52.1%の順となっています。

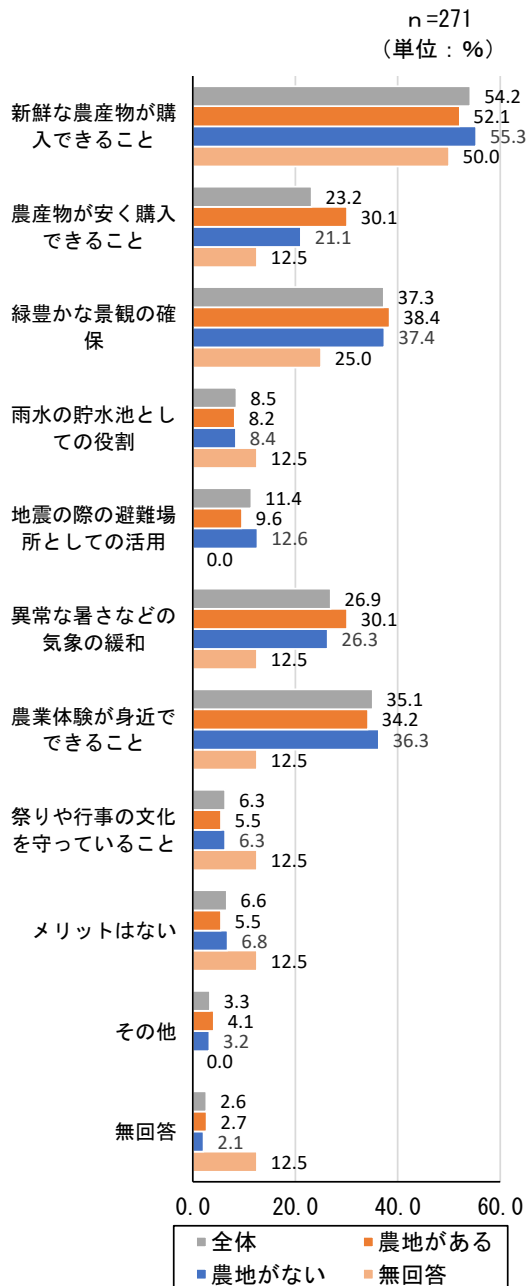
前回の結果と比較すると、『農地がない』の「新鮮な農産物が購入できること」が平成29年度は54.9%、令和5年度が55.3%とほぼ同じ数値となっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度



・令和5年度



■ 今回の集計結果

	n 数	新鮮な農産物が購入 できること	農産物が安く購入で きること	緑豊かな景観の確保	雨水の貯水池としての 役割	地震の際の避難場所 としての活用	異常な暑さなどの気 象の緩和	農業体験が身近で きること	祭りや行事の文化を 守っていること	メリットはない	その他	無回 答
全体	271 100.0	147 54.2	63 23.2	101 37.3	23 8.5	31 11.4	73 26.9	95 35.1	17 6.3	18 6.6	9 3.3	7 2.6
農地がある	73 100.0	38 52.1	22 30.1	28 38.4	6 8.2	7 9.6	22 30.1	25 34.2	4 5.5	4 5.5	3 4.1	2 2.7
農地がない	190 100.0	105 55.3	40 21.1	71 37.4	16 8.4	24 12.6	50 26.3	69 36.3	12 6.3	13 6.8	6 3.2	4 2.1
無回答	8 100.0	4 50.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5

8. 「居住している地域における農地の有無」と「市内に農地がある場合のデメリット」

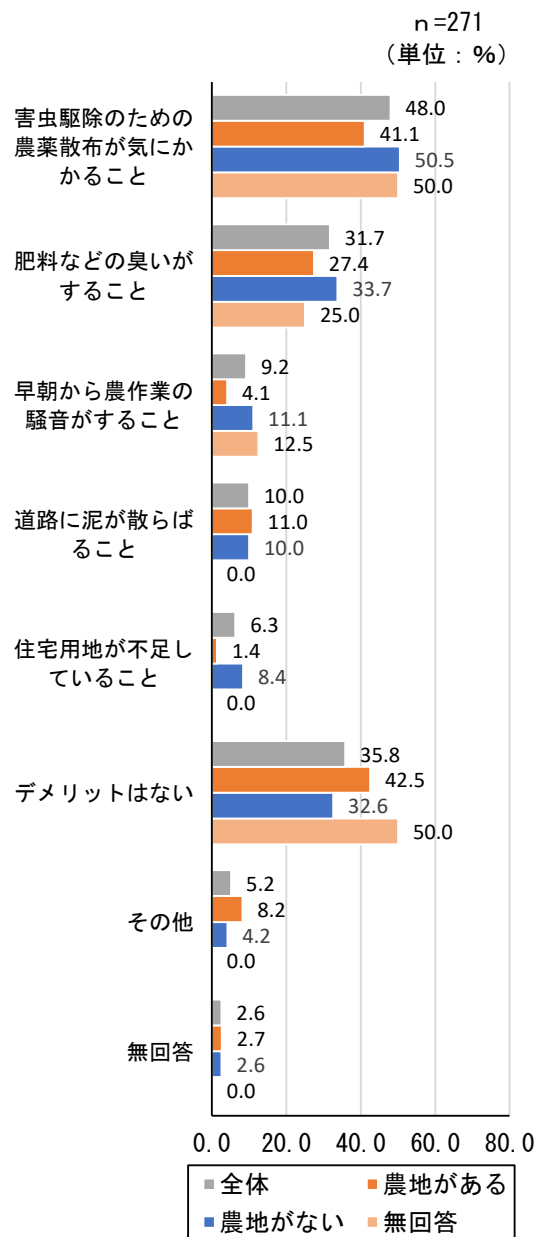
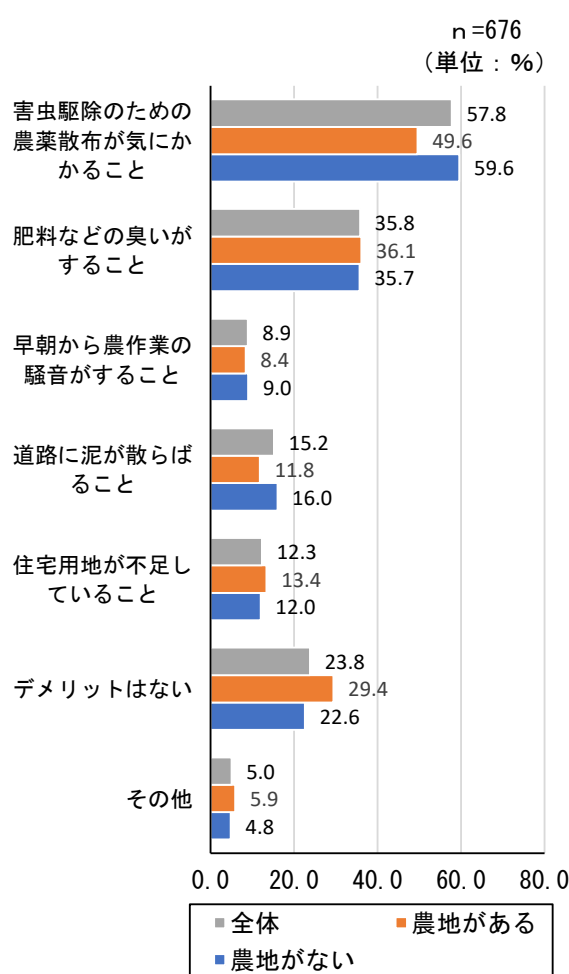
「居住している地域における農地の有無」と「市内に農地がある場合のデメリット」についてみると、『農地がない』の「害虫駆除のための農薬散布が気にかかること」が50.5%と最も高くなっており、次いで『農地がある』の「デメリットはない」が42.5%の順となっています。

前回の結果と比較すると、『農地がある』の「デメリットはない」は平成29年度が29.4%、令和5年度が42.5%と13.1ポイント高くなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度

・令和5年度



■ 今回の集計結果

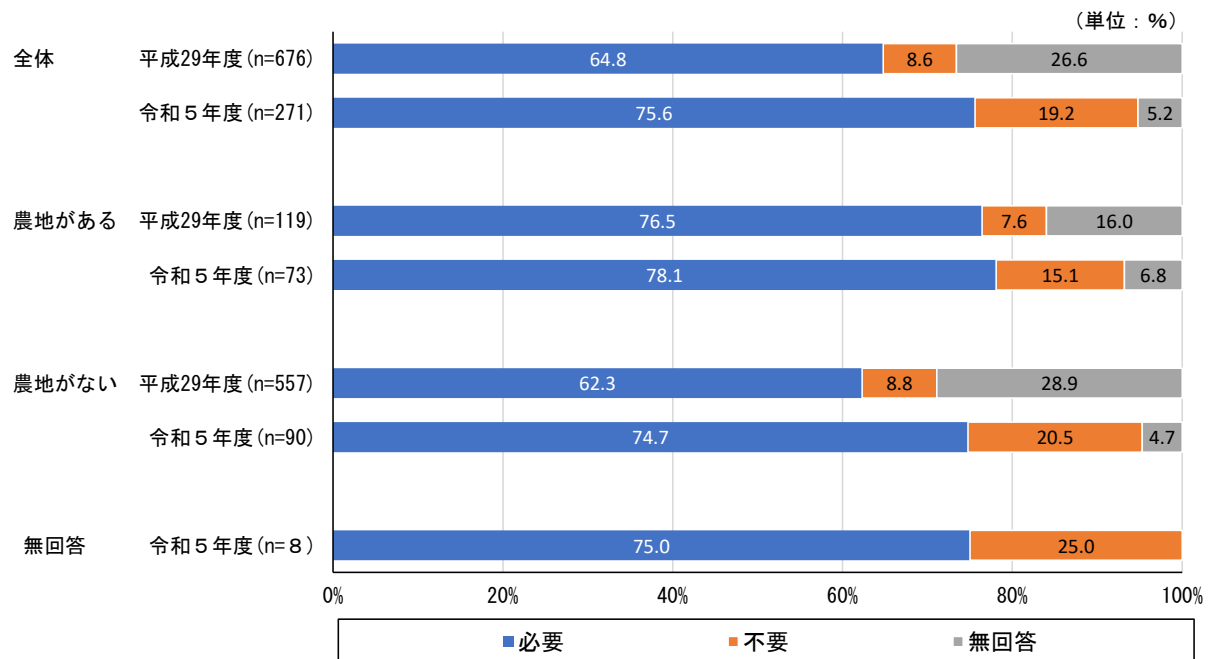
	n 数	害虫駆除のための農薬散 布が気にかかること	肥料などの臭いがするこ と	早朝から農作業の騒音が すること	道路に泥が散らばること	住宅用地が不足している こと	デメリットはない	その他	無回 答
全体	271 100.0	130 48.0	86 31.7	25 9.2	27 10.0	17 6.3	97 35.8	14 5.2	7 2.6
農地がある	73 100.0	30 41.1	20 27.4	3 4.1	8 11.0	1 1.4	31 42.5	6 8.2	2 2.7
農地がない	190 100.0	96 50.5	64 33.7	21 11.1	19 10.0	16 8.4	62 32.6	8 4.2	5 2.6
無回答	8 100.0	4 50.0	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0

9. 「居住している地域における農地の有無」と「市内農地の必要性」

「居住している地域における農地の有無」と「市内農地の必要性」についてみると、『農地がある』の「必要」が78.1%と最も高くなっており、次いで『農地がない』の「必要」が74.7%と7割を超えています。

前回の結果と比較すると、『農地がない』の「必要」は平成29年度が62.3%、令和5年度が74.7%と12.4ポイント高くなっています。

■前回の結果との比較



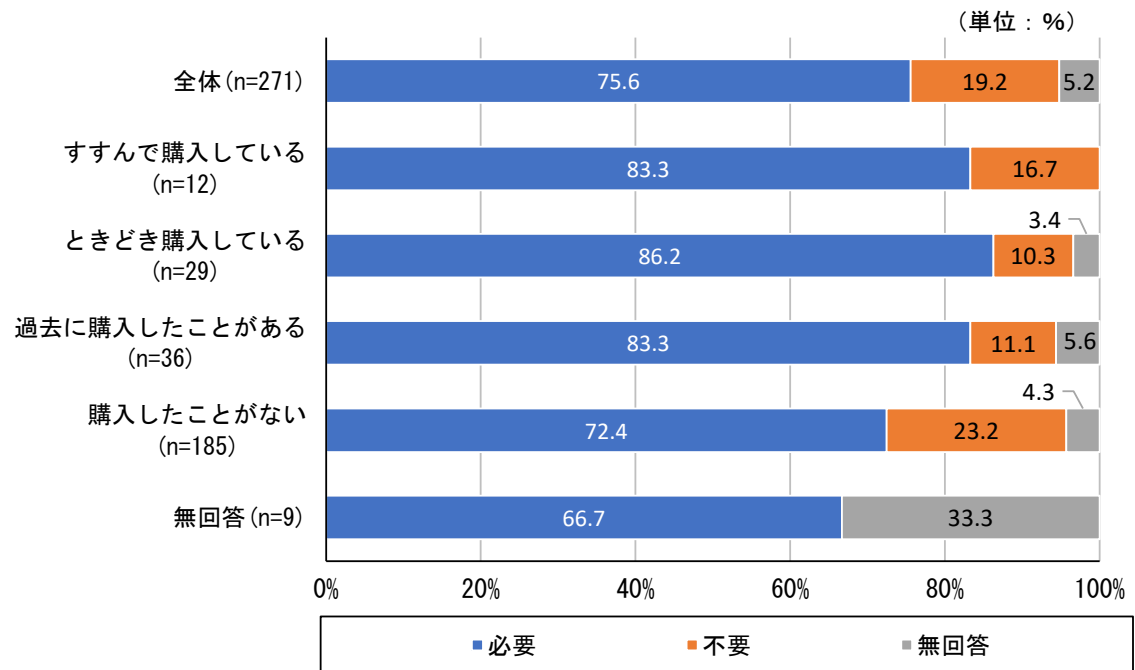
■今回の集計結果

	n 数	必 要	不 要	無 回 答
全体	271 100.0	205 75.6	52 19.2	14 5.2
農地がある	73 100.0	57 78.1	11 15.1	5 6.8
農地がない	190 100.0	142 74.7	39 20.5	9 4.7
無回答	8 100.0	6 75.0	2 25.0	0 0.0

10. 「エコ農産物の購入頻度」と「市内農地の必要性」

「エコ農産物の購入頻度」と「市内農地の必要性」についてみると、『ときどき購入している』の「必要」が86.2%と最も高くなっており、次いで『すすんで購入している』の「必要」、『過去に購入したことがある』の「必要」が83.3%の順となっています。

■今回の集計結果



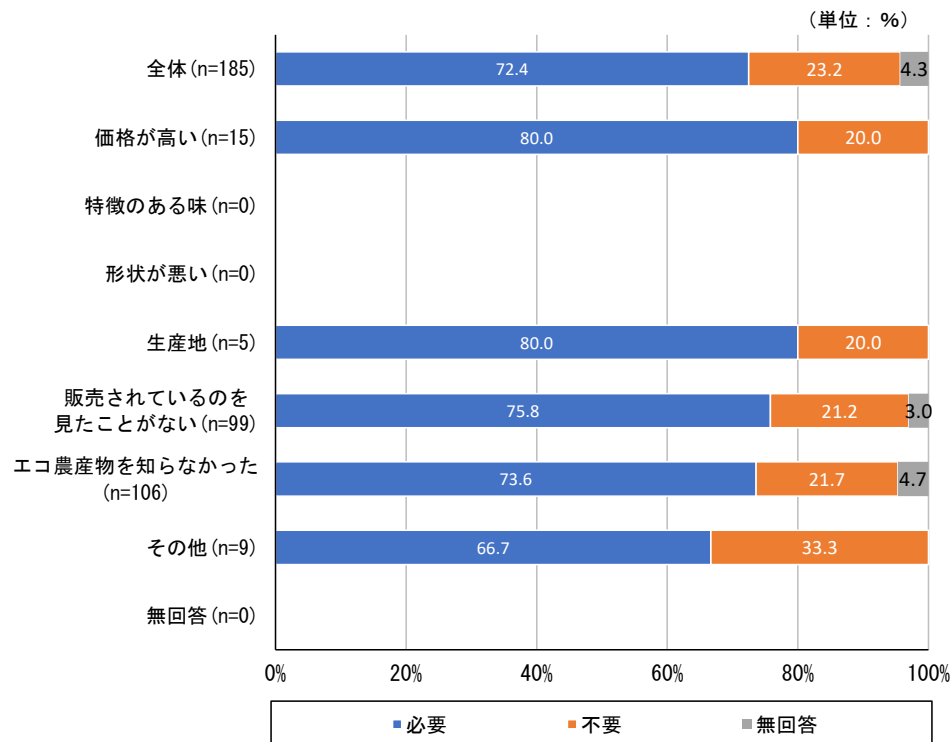
	n 数	必要	不要	無 回 答
全 体	271 100.0	205 75.6	52 19.2	14 5.2
すすんで購入している	12 100.0	10 83.3	2 16.7	0 0.0
ときどき購入している	29 100.0	25 86.2	3 10.3	1 3.4
過去に購入したことがある	36 100.0	30 83.3	4 11.1	2 5.6
購入したことがない	185 100.0	134 72.4	43 23.2	8 4.3
無回答	9 100.0	6 66.7	0 0.0	3 33.3

※平成29年度はこの項目のクロス集計を行っていない為、令和5年度のみ集計です。

11. 「エコ農産物を購入したことがない理由」と「市内農地の必要性」

「エコ農産物を購入したことがない理由」と「市内農地の必要性」についてみると、『価格が高い』の「必要」と『生産地』の「必要」が80.0%と最も高くなっています。

■ 今回の集計結果



	n 数	必要	不要	無 回 答
全 体	185	134	43	8
	100.0	72.4	23.2	4.3
価格が高い	15	12	3	0
	100.0	80.0	20.0	0.0
特徴のある味	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0
形状が悪い	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0
生産地	5	4	1	0
	100.0	80.0	20.0	0.0
販売されているのを見たことがない	99	75	21	3
	100.0	75.8	21.2	3.0
エコ農産物を知らなかった	106	78	23	5
	100.0	73.6	21.7	4.7
その他	9	6	3	0
	100.0	66.7	33.3	0.0
無回答	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0

※平成 29 年度はこの項目のクロス集計を行っていない為、令和 5 年度のみ集計です。

12. 「大阪市なにわの伝統野菜の認知度」と「市内農地の必要性」

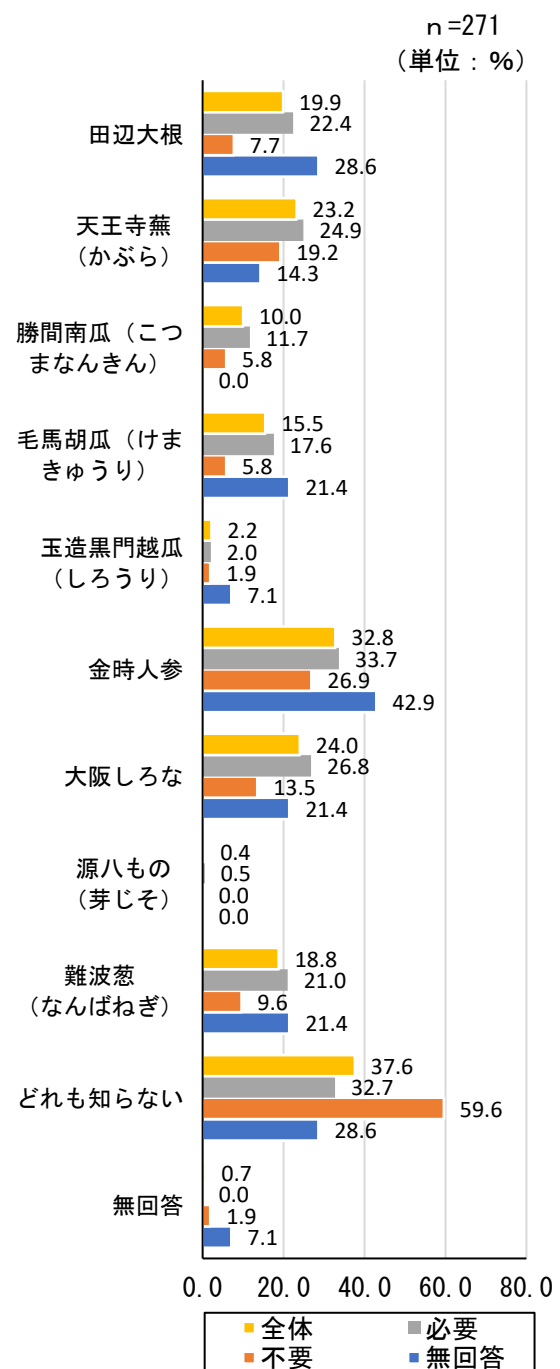
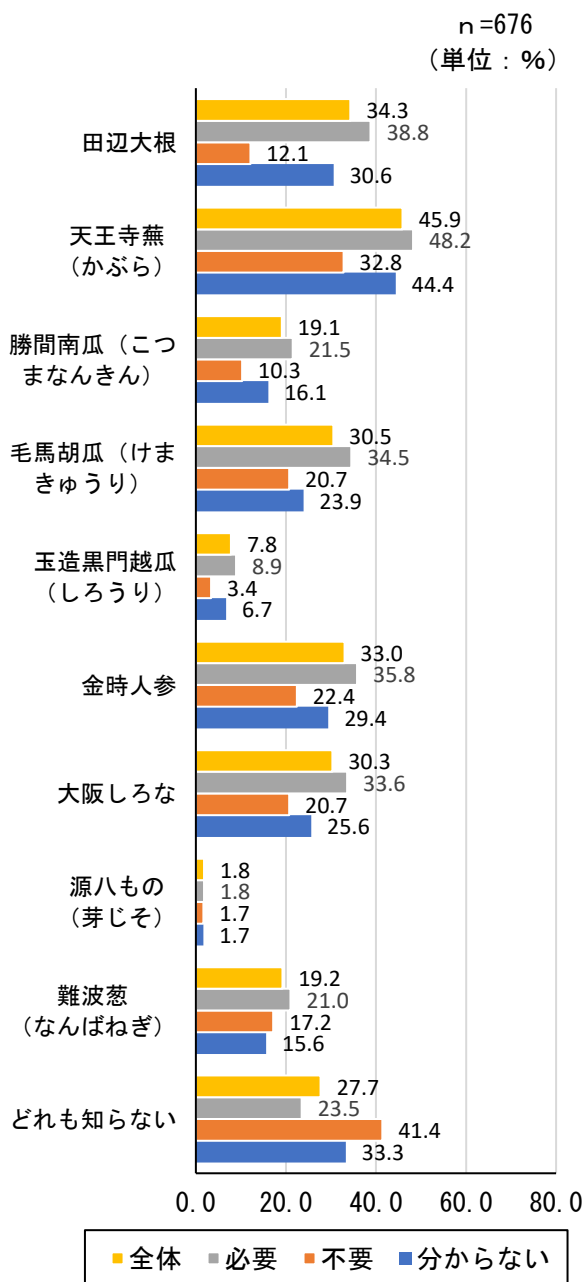
「大阪市なにわの伝統野菜の認知度」と「市内農地の必要性」についてみると、『不要』の「どれも知らない」が59.6%と最も高くなっており、次いで『必要』の「金時人参」が33.7%の順となっています。

前回の結果と比較すると、『必要』の「天王寺蕪(かぶら)」は平成29年度が48.2%、令和5年度が24.9%と23.3ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度

・令和5年度



■今回の集計結果

	n 数	田 辺 大 根	天 王 寺 蕪 (かぶら)	勝 間 南 瓜 (こつまな んきん)	毛 馬 胡 瓜 (けまきゅ うり)	玉 造 黒 門 越 瓜 (しろ うり)	金 時 人 参	大 阪 しろ な	源 八 もの (芽じそ)	難 波 葱 (なんばね ぎ)	ど れ も 知 ら な い	無 回 答
全 体	271 100.0	54 19.9	63 23.2	27 10.0	42 15.5	6 2.2	89 32.8	65 24.0	1 0.4	51 18.8	102 37.6	2 0.7
必要	205 100.0	46 22.4	51 24.9	24 11.7	36 17.6	4 2.0	69 33.7	55 26.8	1 0.5	43 21.0	67 32.7	0 0.0
不要	52 100.0	4 7.7	10 19.2	3 5.8	3 5.8	1 1.9	14 26.9	7 13.5	0 0.0	5 9.6	31 59.6	1 1.9
無回答	14 100.0	4 28.6	2 14.3	0 0.0	3 21.4	1 7.1	6 42.9	3 21.4	0 0.0	3 21.4	4 28.6	1 7.1

13. 「市内に農地がある場合のメリット」と「市内農地の必要性」

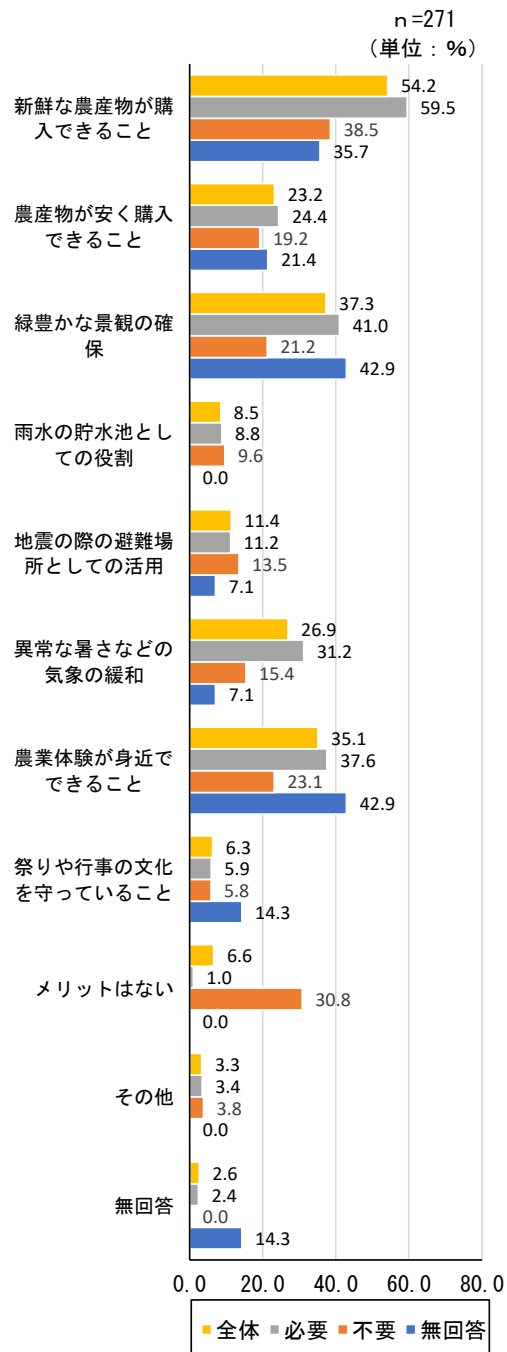
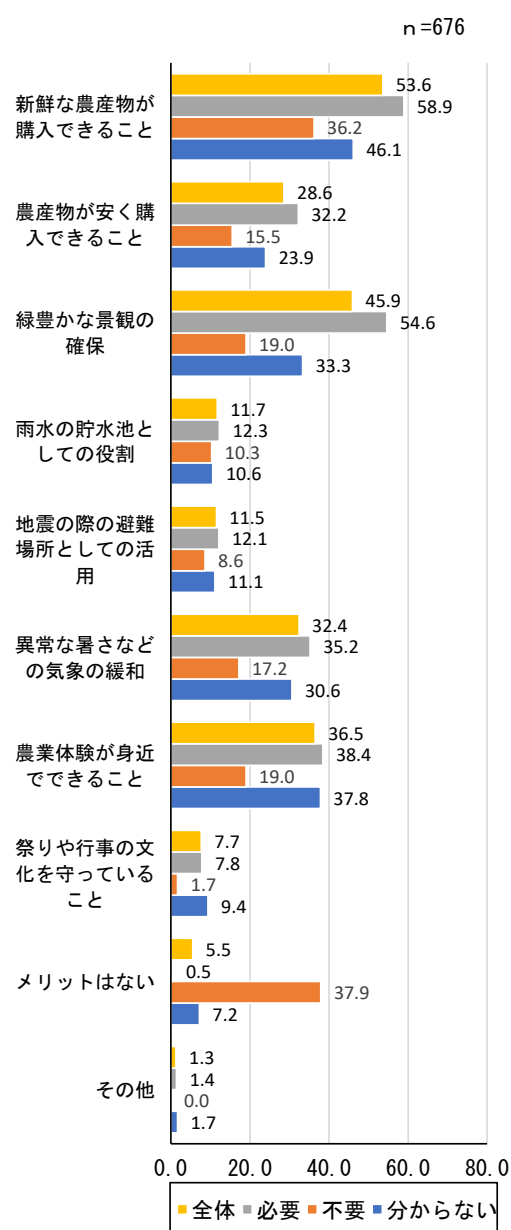
「市内に農地がある場合のメリット」と「市内農地の必要性」についてみると、『必要』の「新鮮な農産物が購入できること」が59.5%と最も高くなっており、次いで『必要』の「緑豊かな景観の確保」が41.0%の順となっています。

前回の結果と比較すると、『必要』の「新鮮な農産物が購入できること」は平成29年度が58.9%、令和5年度が59.5%とほぼ同じとなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度

・令和5年度



■今回の集計結果

	n 数	新鮮な農産物が購入 できること	農産物が安く購入で きること	緑豊かな景観の確保	雨水の貯水池として の役割	地震の際の避難場所 としての活用	異常な暑さなどの気 象の緩和	農業体験が身近でで きること	祭りや行事の文化を 守っていること	メリットはない	その他	無回 答
全 体	271 100.0	147 54.2	63 23.2	101 37.3	23 8.5	31 11.4	73 26.9	95 35.1	17 6.3	18 6.6	9 3.3	7 2.6
必要	205 100.0	122 59.5	50 24.4	84 41.0	18 8.8	23 11.2	64 31.2	77 37.6	12 5.9	2 1.0	7 3.4	5 2.4
不要	52 100.0	20 38.5	10 19.2	11 21.2	5 9.6	7 13.5	8 15.4	12 23.1	3 5.8	16 30.8	2 3.8	0 0.0
無回答	14 100.0	5 35.7	3 21.4	6 42.9	0 0.0	1 7.1	1 7.1	6 42.9	2 14.3	0 0.0	0 0.0	2 14.3

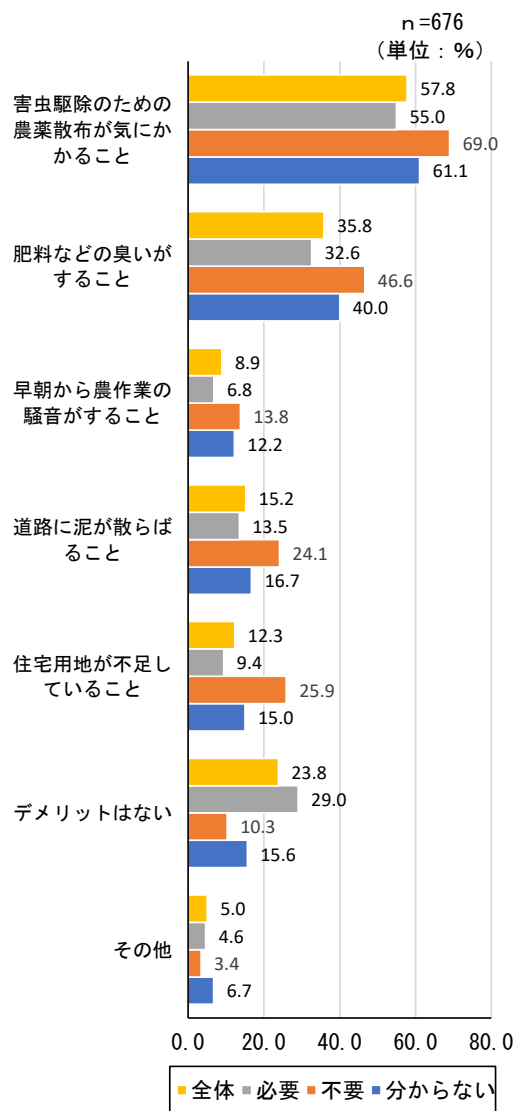
14. 「市内に農地がある場合のデメリット」と「市内農地の必要性」

「市内に農地がある場合のデメリット」と「市内農地の必要性」についてみると、『不要』で「害虫駆除のための農薬散布が気にかかること」が 55.8%で最も高くなっており、次いで『必要』で「害虫駆除のための農薬散布が気にかかること」が 46.8%の順となっています。

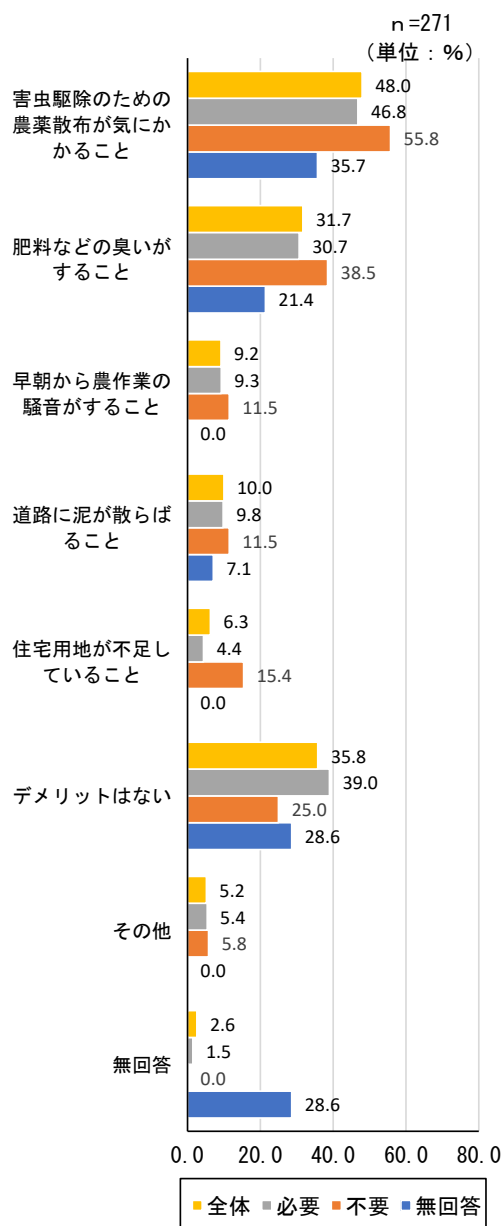
前回の結果と比較すると、『不要』の「害虫駆除のための農薬散布が気にかかること」は平成 29 年度が 69.0%、令和 5 年度が 55.8%と 13.2 ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較

・平成 29 年度



・令和 5 年度



■今回の集計結果

	n 数	薬 散 布 が 気 に か か る こ と	害 虫 駆 除 の た め の 農	肥 料 な ど の 臭 い が す る こ と	早 朝 か ら 農 作 業 の 騒 音 が す る こ と	道 路 に 泥 が 散 ら ば る こ と	住 宅 用 地 が 不 足 し て い る こ と	デ メ リ ツ ト は な い	そ の 他	無 回 答
全 体	271 100.0	130 48.0	86 31.7	25 9.2	27 10.0	17 6.3	97 35.8	14 5.2	7 2.6	
必要	205 100.0	96 46.8	63 30.7	19 9.3	20 9.8	9 4.4	80 39.0	11 5.4	3 1.5	
不要	52 100.0	29 55.8	20 38.5	6 11.5	6 11.5	8 15.4	13 25.0	3 5.8	0 0.0	
無回答	14 100.0	5 35.7	3 21.4	0 0.0	1 7.1	0 0.0	4 28.6	0 0.0	4 28.6	

15. 「市内農地での農業体験」と「市内農地の必要性」

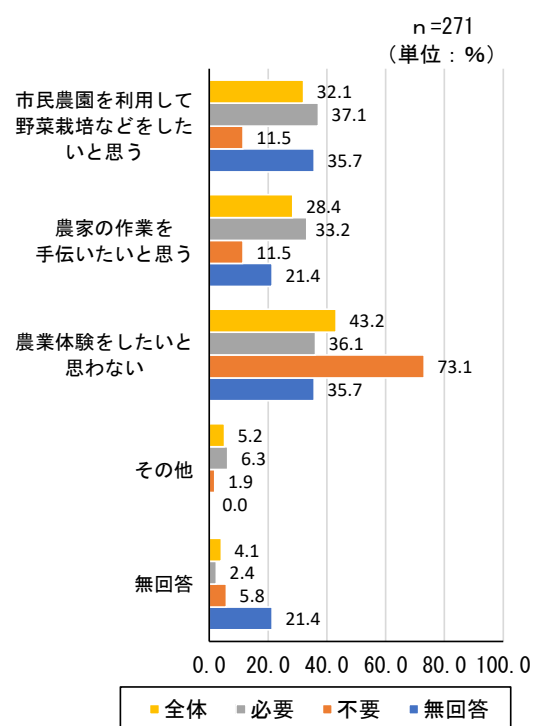
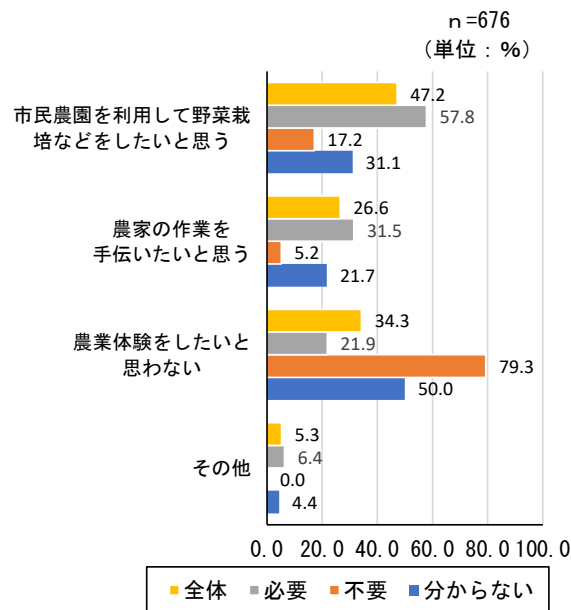
「市内農地での農業体験」と「市内農地の必要性」についてみると、『不要』の「農業体験をしたいと思わない」が73.1%と最も高くなっており、次いで『必要』の「市民農園を利用して野菜栽培などをしてほしいと思う」が37.1%の順となっています。

前回の結果と比較すると、『不要』の「農業体験をしたいと思わない」は平成29年度が79.3%、令和5年度が73.1%と6.2ポイント低くなっています。

■前回の結果との比較

・平成29年度

・令和5年度



■今回の集計結果

	n 数	市民農園を利用して野菜栽培などをしてほしいと思う	農家の作業を手伝いたいと思う	農業体験をしたいと思わない	その他	無回答
全 体	271	87	77	117	14	11
	100.0	32.1	28.4	43.2	5.2	4.1
必要	205	76	68	74	13	5
	100.0	37.1	33.2	36.1	6.3	2.4
不要	52	6	6	38	1	3
	100.0	11.5	11.5	73.1	1.9	5.8
無回答	14	5	3	5	0	3
	100.0	35.7	21.4	35.7	0.0	21.4

令和5年10月
大阪市経済戦略局

大阪市内の農地・農業に関する アンケートへのご協力をお願い

平素は、大阪市政にご協力いただき、誠にありがとうございます。

大阪市では、平成30年6月に「大阪市都市農業振興基本計画」を策定し、新鮮な市内産農産物の供給等、都市における農地の多面的な機能を効果的に発揮させる取組を進めています。この計画は令和元年度から令和10年度までの計画であり、5年ごとに計画を見直すこととしています。

計画の見直しにあたり、大阪市内の農地・農業の現状および課題等を把握し、今後の農業施策に反映するため、市内農業者を対象にアンケート調査を実施いたします。

ご多忙とは存じますが、上記の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

つきましては、同封のアンケートにご回答いただき、同封の返送用郵便封筒に入れて、**令和5年11月10日(金)**までにご投函くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、アンケートの結果につきましては、ホームページ等で公表する予定です。

本アンケート調査につきましては、大阪市から株式会社ユーエヌ土地利用研究所へ委託して実施おります。

ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

アンケートに対するお問い合わせ先

大阪市 経済戦略局産業振興部 産業振興課

〒559-0034 大阪市住之江区南港北2丁目1-10

ATCビルO's 棟 南館4階

電話 06-6615-3751 FAX 06-6614-0190

本アンケート調査は、選択肢の番号を塗りつぶす「マークシート方式」で実施しています。

市内農家アンケート調査票

記入上のお願い

1. 農業を営んでいる世帯の主たる従事者の方がお答えください。
2. 集計はこの用紙により機械的に読み取り処理をしますので、HB以上の黒鉛筆(またはシャープペンシル)を使用し、あてはまる○の数字を濃く塗りつぶしてください。(薄く塗りつぶすと、読み取りできない場合があります)。
また、読み取りに支障が出ますので、この用紙を汚さないようお願いいたします。

マークの良い例→ ●

マークの悪い例→ ① ② ③

3. 回答を訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから訂正してください。
4. 選択肢の中でその他を選択された方は、() 内にその内容を記述して下さい。

— I あなたのことについて —

1. 主たる従事者の年齢は何歳代ですか。(塗りつぶしは1つだけ)

- | | |
|---------|---------|
| ① 30歳未満 | ⑤ 60歳代 |
| ② 30歳代 | ⑥ 70歳代 |
| ③ 40歳代 | ⑦ 80歳以上 |
| ④ 50歳代 | |

2. 主たる従事者の性別をお教えてください。(塗りつぶしは1つだけ)

- | | |
|------|---------|
| ① 男性 | ③ その他 |
| ② 女性 | ④ 回答しない |

3. 主たる従事者のお住まいの区はどこですか。(塗りつぶしは1つだけ)

- | | |
|--------|---------------|
| ① 淀川区 | ⑥ 東住吉区 |
| ② 東淀川区 | ⑦ 住吉区 |
| ③ 鶴見区 | ⑧ 住之江区 |
| ④ 生野区 | ⑨ その他(具体的に:) |
| ⑤ 平野区 | |

※裏面に続きます。

4. 農業後継者はいますか。(塗りつぶしは1つだけ)

- 4で「① はい」とお答えの方にお尋ねします。

5で「② いいえ」とお答えの方にお尋ねします。

10で「① ある」とお答えの方にお尋ねします。

11. 休耕農地の解消について、どのようにお考えですか。(塗りつぶしは1つだけ)

- ① 自己耕作を再開する
- ② 貸して他の人に耕作してもらいたい
- ③ 休耕農地の解消を行う意思はない
- ④ その他(具体的に:)

—Ⅳ 今後の農業経営について—

すべての方にお尋ねします。

12. 今後の農業経営について、どのように考えていますか。(塗りつぶしは1つだけ)

- ① 経営規模を拡大したい → 13へお進みください。
- ② 現状の経営規模を維持したい → 17へお進みください。
- ③ 経営規模を縮小したい → 14へお進みください。
- ④ 農業経営をやめたい → 16へお進みください。

12で「① 経営規模を拡大したい」とお答えの方にお尋ねします。

13. 経営規模を拡大する方法について、どのようにお考えですか。(塗りつぶしは1つだけ)

- ① 農地の売買または賃借により規模を拡大する
- ② 農業法人を設立して規模を拡大する
- ③ 農作業の受託面積を拡大する
- ④ その他(具体的に:)

12で「③ 経営規模を縮小したい」とお答えの方にお尋ねします。

14. 経営規模を縮小するに際して、農地の管理をどうしますか。(塗りつぶしは1つだけ)

- ① 農地を貸す
- ② 市民農園を開設
- ③ 農作業を委託
- ④ 耕作しない
- ⑤ 転用して売却
- ⑥ その他(具体的に:)

14をお答えの方にお尋ねします。

15. なぜ規模縮小するのか、その理由をお聞かせください。(記入してください)

12で「④ 農業経営をやめたい」とお答えの方にお尋ねします。

16. 農業経営をやめたい理由は何ですか。(塗りつぶしはいくつでも)

- ① 高齢や病気等で農業を続けるのが困難(農作業の負担が大きい)
- ② 後継者がいない
- ③ 農業収入が低い
- ④ 周りの理解が得られない(早朝の作業への苦情等)
- ⑤ その他(具体的に:)

※裏面に続きます。

17. 今後、農業を発展・継続させていく上で、検討していることがあればお教えてください。(塗りつぶしはいくつでも)

- ① 安心・安全なエコ農業
- ② 農産物のブランド化
- ③ 新技術の導入等によるコスト低減や品質向上などの生産技術の向上
- ④ 援農ボランティア等の活用
- ⑤ 料理店や生鮮販売店との契約栽培
- ⑥ 農産加工品の開発・販売（6次産業化）
- ⑦ 市場との取引
- ⑧ 農産物直売所での販売
- ⑨ 子ども食堂との提携等、地域との連携
- ⑩ その他(具体的に:)

18. 今後、農業を発展・継続させていく上で、課題となっていることについてお教えてください。(塗りつぶしはいくつでも)

- ① 税制度
- ② 農業収入の低さ
- ③ 安定した販路の確保
- ④ 担い手や後継者がいないこと
- ⑤ 農地へのごみなどの不法投棄
- ⑥ 宅地化の進行による営農環境の悪化
- ⑦ 鳥獣被害
- ⑧ 地域の人たちの農業に対する理解不足
- ⑨ 肥料等資材の価格高騰
- ⑩ 特になし
- ⑪ その他(具体的に:)

19. 今後、農業を発展・継続させていく上で、大阪市に期待することがあればお教えてください。(塗りつぶしはいくつでも)

- ① 担い手の確保にかかる支援
- ② 最先端技術の利用推進
- ③ 農業用施設整備にかかる支援
- ④ 都市農地貸借法等による農地貸借の推進
- ⑤ 6次産業化の推進支援
- ⑥ 食品業者や飲食店との連携強化
- ⑦ 直売所、マルシェ等での農産物販売の促進
- ⑧ 市内産農産物のPRやイベントの開催
- ⑨ 市民農園、体験農園等の拡充
- ⑩ 「農福連携」の推進
- ⑪ その他(具体的に:)

回答ありがとうございました。
この調査票を返信用封筒に入れて、11月10日(金)までにポストへ投函してください。

大阪市内の農地・農業に関する アンケートへのご協力をお願い

平素は、大阪市政にご協力いただき、誠にありがとうございます。

大阪市では、平成 30 年 6 月に「大阪市都市農業振興基本計画」を策定し、新鮮な市内産農産物の供給等、都市における農地の多面的な機能を効果的に発揮させる取組を進めています。この計画は令和元年度から令和 10 年度までの計画であり、5 年ごとに計画を見直すこととしています。

計画の見直しにあたり、市民の立場からみた大阪市内の農地・農業の現状および課題等を把握し、今後の農業施策に反映するため、市内在住者を対象にアンケート調査を実施いたします（注）。なお、このアンケートは、大阪市内に住民登録がある方を無作為に抽出し、お送りしています。

（注）市内農業者対象のアンケート調査も別途同時に実施しています。

ご多忙とは存じますが、上記の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

つきましては、同封のアンケートにご回答いただき、同封の返送用郵便封筒に入れて、**令和5年 11 月 10 日(金)**までにご投函くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、アンケートの結果につきましては、ホームページ等で公表する予定です。

本アンケート調査につきましては、大阪市から株式会社ユーエヌ土地利用研究所へ委託して実施おります。

ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

アンケートに対するお問い合わせ先

大阪市 経済戦略局産業振興部 産業振興課
〒559-0034 大阪市住之江区南港北2丁目1-10
ATCビルO's 棟 南館4階
電話 06-6615-3751 FAX 06-6614-0190

本アンケート調査は、選択肢の番号を塗りつぶす「マークシート方式」で実施しています。

市民アンケート調査票

記入上のお願い

1. 送付用封筒にお名前を記載されている方が、お答えください。
2. 集計はこの用紙により機械的に読み取り処理をしますので、HB以上の黒鉛筆(またはシャープペンシル)を使用し、あてはまる○の数字を濃く塗りつぶしてください
(薄く塗りつぶすと、読み取りができない場合があります)。
また、読み取りに支障が出ますので、この用紙を汚さないようお願いします。

マークの良い例→ ●

マークの悪い例→ ① | ①✓①○

3. 回答を訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから訂正してください。
4. 選択肢の中でその他を選択された方は、() 内にその内容を記述して下さい。

— I あなたのことにについて—

1. あなたの年齢は何歳代ですか。(塗りつぶしは1つだけ)

- | | |
|----------|----------|
| ① 30 歳未満 | ⑤ 60 歳代 |
| ② 30 歳代 | ⑥ 70 歳代 |
| ③ 40 歳代 | ⑦ 80 歳以上 |
| ④ 50 歳代 | |

2. あなたの性別をお教えてください。(塗りつぶしは1つだけ)

- | | |
|------|---------|
| ① 男性 | ③ その他 |
| ② 女性 | ④ 回答しない |

3. あなたのお住まいはどの区ですか。(塗りつぶしは1つだけ)

- | | |
|--------|----------|
| ① 淀川区 | ⑥ 東住吉区 |
| ② 東淀川区 | ⑦ 住吉区 |
| ③ 鶴見区 | ⑧ 住之江区 |
| ④ 生野区 | ⑨ その他 |
| ⑤ 平野区 | (具体的に:) |

4. あなたのお住まいの地域に農地はありますか。(塗りつぶしは1つだけ)

- | | |
|------|------|
| ① ある | ② ない |
|------|------|

※裏面に続きます

—Ⅱ 大阪市内の農地の役割について—

5. 次のそれぞれの項目について、大阪市における農地がどのような役割を果たしていると感じますか。（それぞれの項目について、塗りつぶしは1つだけ）

項目	1. 重要な役割を果たしている	2. ある程度重要な役割を果たしている	3. あまり重要な役割を果たしていない	4. 役割を果たしていない	5. わからない
(1) 安全で新鮮な農産物を提供する役割	①	②	③	④	⑤
(2) 子どもの食農教育の場（芋ほり、田植、稲刈など）としての役割	①	②	③	④	⑤
(3) 高齢者の生きがいの場（貸し農園、福祉農園など）としての役割	①	②	③	④	⑤
(4) 災害を防ぐ場所（火災時の延焼防止や災害発生時の一時避難場所など）としての役割	①	②	③	④	⑤
(5) ヒートアイランド現象の抑制など気候を緩和する役割	①	②	③	④	⑤

—Ⅲ 「エコ農産物」について—

すべての方にお尋ねします。

6. 「エコ農産物」についてお伺いします。これまでに、「エコ農産物」を購入したことがありますか。(塗りつぶしは1つだけ)

※「エコ農産物」とは、農薬の使用回数、化学肥料の使用量が府内の標準的な使用回数・量の半分に以下に削減して生産された農産物を大阪府が認証したもの

- ① すずんで購入している
② ときどき購入している
③ 過去に購入したことがある
④ 購入したことがない
- } → 7へお進みください。
→ 8へお進みください。

6で①～③を選択された方にお尋ねします。

7. 「エコ農産物」を購入した理由は何ですか。(塗りつぶしは3つまで)

- ① 安心・安全
② 価格が安い
③ 美味しい
④ 特徴のある味
- ⑤ ブランド（エコ農産物）
⑥ 生産地
⑦ その他（具体的に： ）

6で「④ 購入したことがない」を選択された方にお尋ねします。

8. 「エコ農産物」を購入したことがない理由は何ですか。(塗りつぶしは3つまで)

- ① 価格が高い
② 特徴のある味
③ 形状が悪い
④ 生産地
⑤ 販売されているのを見たことがない
⑥ エコ農産物を知らなかった
⑦ その他
(具体的に：)

すべての方にお尋ねします。

知っている項目を全て塗りつぶしてください。

※「大阪市なにわの伝統野菜」とは、(1)大阪市内で概ね 100 年以上前から栽培されているもの、(2)現在において大阪市内で栽培されているもの、(3)現在も種子等の確保が可能なもので本市が認証したもの

- | | |
|-----------------|--------------|
| ① 田辺大根 | ⑥ 金時人参 |
| ② 天王寺蕪（かぶら） | ⑦ 大阪しろな |
| ③ 勝間南瓜（こつまなんきん） | ⑧ 源八もの（芽じそ） |
| ④ 毛馬胡瓜（けまきゅうり） | ⑨ 難波葱（なんばねぎ） |
| ⑤ 玉造黒門越瓜（しろうり） | ⑩ どれも知らない |

(塗りつぶしは1つだけ)

- ① すずんで購入している
② ときどき購入している
③ 過去に購入したことがある
④ 購入したことがない
- 11 へお進みください。
→ 12 へお進みください。

11. 「大阪市なにわの伝統野菜」を購入した理由は何ですか。(塗りつぶしは3つまで)

- ① 安心・安全
② 価格が安い
③ 美味しい
④ 特徴のある味
⑤ ブランド（なにわの伝統野菜）
⑥ 生産地
⑦ その他
（具体的に：_____）

12. 「大阪市なにわの伝統野菜」を購入したことがない理由は何ですか。

(塗りつぶしは3つまで)

- ① 価格が高い
② 特徴のある味
③ 形状が悪い
④ 生産地
⑤ 販売されているのを見たことがない
⑥ その他（具体的に：_____）

すべての方にお尋ねします。

13. 市内に農地があればどんなメリットがあると思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(塗りつぶしは3つまで)

- ① 新鮮な農産物が購入できること
② 農産物が安く購入できること
③ 緑豊かな景観の確保
④ 雨水の貯水池としての役割
⑤ 地震の際の避難場所としての活用
⑥ 異常な暑さなどの気象の緩和
⑦ 農業体験が身近でできること
⑧ 祭りや行事の文化を守っていること
⑨ メリットはない
⑩ その他（具体的に： ）

108

14. 市内に農地があればどんなデメリットがあると思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(塗りつぶしは3つまで)

- ① 害虫駆除のための農薬散布が気にかかること
- ② 肥料などの臭いがすること
- ③ 早朝から農作業の騒音がすること
- ④ 道路に泥が散らばること
- ⑤ 住宅用地が不足していること
- ⑥ デメリットはない
- ⑦ その他（具体的に： _____）

15. 市内の農地で農業体験をしてみたいと思いますか。(塗りつぶしはいくつでも)

- ① 市民農園を利用して野菜栽培などをしてしたいと思う
- ② 農家の作業を手伝いたいと思う
- ③ 農業体験をしたいと思わない
- ④ その他（具体的に： _____）

16. 市内の農地の必要性についてどう考えますか。(塗りつぶしは1つだけ)

- ① 必要
- ② 不要

17. 市内の農業や農地について、ご意見などがありましたら自由に記載してください。

回答ありがとうございました。

この調査票を返信用封筒に入れて、11月10日(金)までにポストへ投函してください。